建築と社会

社団法人　日本建築協会
昭和48年8月25日発行
毎月1回25日発行
昭和24年3月19日第3種郵便物認可

1973
第54輯第8号
8

特集:新用途地域制と環境



new!



デザイン・配線工法を一新、価格は据置き!!

——クマリフトならではの量産体制が、それを可能にしました——

■三方枠と膳板が、優美で錆や腐蝕のないアルミ形材製品に

クマリフト(小型昇降機)の積下ろし口の枠及び膳板にアルミ成形材(枠見込100㎜：膳板巾160・180・210㎜の3種)を規格品として制定し、全機種に採用しました。扉はメラミン樹脂焼付仕上げのボンデ鋼板製です。
ご希望により、特殊寸法の鋼板・ステンレスのものも製作します。

■工場生産されるシンプルな配線工事

工場生産による独特の短時間に巧拙のない確実な配線工事を得られるプラグイン配線方式を採用しました。

■他に別価格でカゴ到着と同時に扉が開く自動戸開き装置も用意

カゴの到着がひと目でわかり、手数が省けるのできわめて能率的です。（用済み後は手で閉めてください。実用新案出願中）

■用途に応じた豊富な機種を用意しました

書類小物用、料理用、小荷物用、般舶用その他防水・防爆型など特殊工場用など。

■L— 5…… 10kg積	■M—300……300kg積
■J— 30…… 30kg積	■M—500……500kg積
■M— 50…… 50kg積	■S—150……150kg積
■M—100……100kg積	■S—300……300kg積
■M—200……200kg積	■M— H …… 80kg積 (高速型)

その他人荷用エレベーター、荷物用エレベーター病院用エレベーター、自動車用エレベーターもご注文に応じて製造いたします。

*

クマリフト株式会社

●本　　社　大阪市東淀川区東淡路町2丁目43番地
TEL：06（322）5125代表
●東京事務所　東京都台東区東上野6-1　イワツキビル
TEL：06（844）3030

札幌・仙台・新潟・長野・横浜・静岡・名古屋
京都・大阪・堺・神戸・岡山・広島・高松
出雲・福岡・長崎・鹿児島・那覇

クマリフト

■カタログご希望の方はハガキで大阪本社宛ご請求下さい

第4回若い会員の集い

◀「工業化工法による住宅生産工場をみる会」（1）

住宅のプレハブ化が本格的に企業化されてから10年，昨年はパイロットハウス技術考案競技によるプレハブ住宅の性能評価が行われ，さらに今後予想される建設省の認定住宅，通産省の認定工場制度など公的なオーソライズの途も開かれようとしている今日，住宅生産工場をみることは，プレハブ住宅への認識を深めるよい機会と考え，この見学会を企画しました。ふるってご参加下さい。

なお，今回はクボタハウス，大和ハウス，積水化学の3社のご厚意とご協力により開催いたします。

日　時　8月28日（火）8.50（集合）→18.30（解散）
集合場所　大阪・北区・中之島・中央公会堂西裏
大阪観光バス1台・目標会旗
定　員　50名
会　費　500円（バス代及昼食代の一部）
当日受付でいただきます。
見学場所　(1)　クボタハウス大阪工場（枚方市）
(2)　大和ハウス奈良工場（奈良市）
(3)　積水化学奈良工場（　〃　）
行　程　9.00→中之島出発
9.50→11.20　クボタハウス大阪工場の見学
11.20→12.10　同上工場にて昼食・休憩
13.30→15.00　大和ハウス奈良工場の見学
15.15→16.45　積水化学奈良工場の見学
17.00→積水化学出発→18.30 大阪，天満橋着・解散
申　込　往復はがきに限ります。はがき1枚に1名限りとし，「第4回若い会員の集い・住宅生産工場見学会」と明記の上，氏名勤務先名，所在地，役職，連絡電話番号，返信用宛名，郵便番号を記入の上8月21日(火)までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し参加証をお送りいたします。

◀神戸文化ホール新築工事の見学会

共催　日本建築協会・大阪府建築士会・日本建築学会近畿支部

神戸市のほぼ中心部，大倉山公園付近一帯は，神戸市が文化ゾーンとして整備されつつある地区で，すでに市立図書館，中央体育館，総合福祉センターなどが建ちならび，来る9月16日にはこの環境にふさわしい神戸文化ホールが誕生いたします。

この設計にあたっては，各種専門家，有識者など市民の各層からの意見を求めて「見よい。使いよい。管理しよい」ことを基本的方針にし，文化の創造と向上に寄与するとともに市民の相互の交流の場とすることを目的に工事が進められ，各方面から期待されております。

この格調高い文化ホールを神戸市住宅局と鹿島建設㈱のご厚意とご協力により見学することにいたしました。何とぞ多数ご参加下さい。今回は標記3会共催の見学会につき，何れか1カ所へお申込下さるようお願いいたします。

日　時　9月8日（土）14.00（集合）→16.00（解散）
集合場所　同ホール正面玄関付近・目標会旗
（神戸市生田区楠町4丁目26・連絡電話078—371—1440）
〔参考〕神戸市バス……三宮駅前より㉑㉓㉕㉗　元町駅前より㊱　乗車，「大倉山下車」
国鉄「神戸駅」・私鉄，阪急，阪神「高速神戸駅」より北へ徒歩7分
定　員　60名（本会割当25名）
申　込　往復はがきに限ります。はがき1枚に1名限りとし，「神戸文化ホール見学会」と明記の上，氏名・勤務先名・所在地・役職・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上8月31日（金）までに事業課へ。ただし定員を超過したときは抽せんにて決定し，参加証をお送りいたします。

建築概要

所在地	神戸市生田区楠町4丁目26
建築主	神戸市
設計・監理	神戸市住宅局営繕部
協力設計事務所	東畑建築事務所 桜井建築設備研究所
施工	鹿島建設株式会社
建築面積	6,409.98㎡
延面積	18,603.53㎡
構造	RC造，1部SRC造
規模	地下2F，地上6F
工期	昭和46年12月→昭和48年7月
主要施設	大ホール（音楽を中心とした多目的ホール） 収容人員　2,100人 中ホール（演劇を中心とした多目的ホール） 収容人員　1,000人

◀大阪高等裁判所・地方裁判所・簡易裁判所合同庁舎事務棟新営工事の見学会

赤煉瓦造の建物として知られてきた大阪中之島中央公会堂（大正7年10月竣工）と対照的な大阪高等裁判所（大正6年3月竣工・本工事竣工後取こわし）が地下2階，地上11階の近代建築に建て替えられることになり，目下工事中の標記見学会を㈱熊谷組大阪支店のご配慮により催すことになりました。

なお当日は，さきに竣工した建物内にある法廷を併せて見学することにいたしておりますので，多数ご参加をお待ちいたします。

日　時　9月29日（土）14.00（集合）→16.00（解散）
集合場所　大阪市北区若松町8
大阪高等裁判所工事現場　熊谷組作業所前・目標会旗
（連絡電話番号　06—363—3785・5624）
●ただし地下鉄御堂筋線「淀屋橋」下車，中之島中央公会堂正面を北へ，川向い側
定　員　30名
申　込　往復はがきに限ります。はがきは1枚に1名限りとし，「大阪高裁の見学会」と明記の上，氏名・勤務先名・所在地・役職・連絡電話番号・返信用宛名・郵便番号を記入の上9月20日（木）までに事業課へ。ただし定員を超過した時は，抽せんにて決定し，参加証をお送りします。

建築概要

所在地	大阪市北区若松町8
建築主	最高裁判所事務総局経理局
設計	最高裁判所事務総局経理局営繕課
施工	株式会社　熊谷組
敷地面積	21,676.10㎡
建築面積	6,130.70㎡
延床面積	51,097.75㎡
構造	SRC造　3F以上鋼構造
規模	地下2F，地上11F，塔屋3F
軒高	GL＋44.97m及びGL＋45.40m
外装	アルキャスト，カーテンウォール，樹脂塗装
工期	昭和47年5月→昭和49年3月

◀通常総会決議報告

昭和48年6月28日，近畿建築会館において開催されました通常総会で下記の議案がそれぞれ原案のとおり承認決議されましたので，ここに会告申しあげます。

1. 昭和47年度事業報告承認の件（7月号掲載）
1. 昭和47年度決算報告承認の件（7月号掲載）
1. 昭和48年度収支予算承認の件（5月号掲載）以上

社団法人　日本建築協会　会長　塚本　猛次

日本建築協会の展示窓紹介

本会の展示窓で「街を緑に」をテーマとしたシリーズも第3回となりました。今回は48年度大阪市の緑化表彰を受けられた「堂島関電ビル」と「淀川パークハウス」を展示いたしました。（展示期間7月，8月の2カ月間・展示場所　京阪淀屋橋と北浜間の地下通路のショーケース。）



◀会員の受賞（建設大臣表彰）

このたび下記会員諸氏は建築界における多年の功績によって建設大臣より表彰を受けられました。ここに誌してその栄誉をお慶び申し上げます。

記

小林　清氏	㈱関西建築事務所長・㈱新住宅社社長
島田孝治氏	㈱片山鉄工所社長
田中政二氏	大島応用化学工業㈱社長
西嶋徳太郎氏	㈱大建設計副社長
錦田直一氏	(財)日本建築総合試験所副所長
稗田　治氏	日本建築センター理事長
室谷山水氏	室谷商事㈱社長

青年技術者のみなさまへ

「建築と社会」昭和48年11月号の「第20回青年技術者特集号」の応募について——

日本建築協会誌「建築と社会」は毎年「青年建築家特集号」もしくは「青年技術者特集号」を企画し，すでに19回にわたって優秀な青年技術者を紹介してきました。今回も，「青年技術者選衡委員会」を設けて，選衡の上掲載することにしております。

その選ぶ分野も，設計だけにかぎらず，都市計画，構造，施工，設備などを含み，それぞれの分野から，優秀な青年技術者を選んで，その不断の研究努力とすぐれた業績を「建築と社会」に掲載して顕彰することにしております。

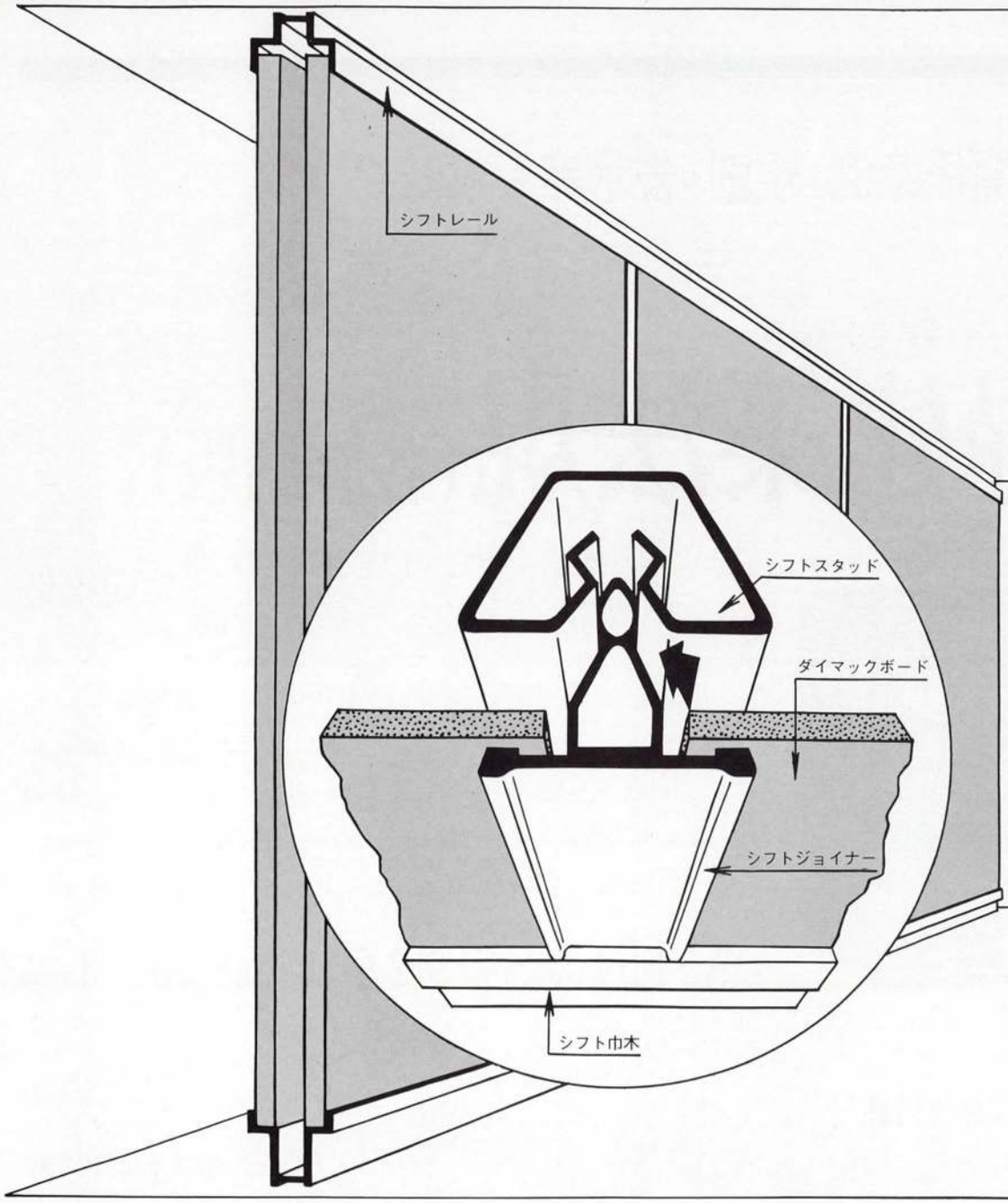
ついては，下記応募規定を参照の上，ふるって応募されんことを。

応募提出規定

1. 応募される人は満35才までの青年技術者であって，本会会員に限ること。
2. 原則として，本会会員であるすいせん者を通じて応募のこと。すいせん者は被すいせん者（青年技術者）の勤務する組織の上司なり上長であること。すいせん者が学校教官である場合はこの限りでない。また本人が組織の代表者である場合は自せんとする。（すいせん用紙は事務局にありますので，ご請求ください）
3. 応募者は，設計，計画（都市計画など），施工，構造，設備，その他の分野にあって，なしとげたすぐれた実績について，すいせんをうけ，下記の所要の資料を本会に期日までに提出すること。
4. 提出された資料は「青年技術者選衡委員会」にかけて選衡する。
5. 「青年技術者選衡委員会」において選衡されたものは「第20回青年技術者特集号」（昭和48年11月号）に掲載するとともに，記念品を贈呈する。
6. **提出資料**
   (1) **略　歴**
   本人の写真，氏名，生年月日，最終学歴，業歴，作品略歴など
   (2) **選衡資料**
   (i) **建築設計の場合**
   鮮明なる写真，主要平面図，概要，設計要旨，その他必要な資料
   (ii) **計画の場合**（都市・地域の計画など）
   計画図，計画要旨，その他必要な資料
   (iii) **施工，構造，設備の場合**（それぞれの設計計画なども含む）
   上に準じた資料
   (iv) **その他**（新材料開発，著作などを意味する）
   それぞれにふさわしい資料
   (3) **青年技術者としてのことば**
   青年技術者としての抱負，考え方，信念，建築観等々（400字ていど）。
   (4) **すいせんのことば**
   原則として，すいせん者によるすいせんのことば（120字ていど）を添付のこと。自せんの場合は不要。
7. **提出期間**　昭和48年8月25日
8. **提 出 先**　大阪市東区北浜3－37　〒541
   日本建築協会「青年技術者選衡委員会」
9. **青年技術者選衡委員会（48年度）**

委員長		彦谷邦一	（彦谷建築設計事務所代表取締役・編集委員長）
委員	（設計部門）	根津耕一郎	（根津建築事務所代表取締役）
〃	〃	坂内幾男	（坂内建築設計事務所長）
〃	（計画部門）	中村　司	（日本住宅公団大阪支所計画部長）
〃	〃	富安秀雄	（市浦都市開発建築コンサルタンツ代表取締役）
〃	（構造部門）	多田英之	（日建設計技師長）
〃	〃	力武利夫	（清水建設設計部長）
〃	（設備部門）	福田鋼一	（桜井建築設備研究所大阪事務所長）
〃	〃	中村　猛	（竹中工務店設計部次長）
〃	（施工部門）	堤　兼雄	（大林組工務部長）
〃	〃	金子敏男	（鹿島建設神戸営業所次長）

シフトスタッドとシフトジョイナーを用いたワンタッチ工法の新しいタイプの間仕切。



画期的なワンタッチ工法

シフトスタッドとシフトジョイナーを用い、ワンタッチでボードを貼り上げることができるので、今までの工法に比べ施工時間が大巾に短縮されます。

㎡当り20kgの軽さ

構成部材は単純化されながらも、能率的に機能を果す無駄のない設計です。ですから軽量化はもとより、運搬、作業能率もグーンとアップします。

透過損失41dBの遮音効果

日常会話の周波数250～2000Hzに対し、平均透過損失はグラスウール充填タイプで41.3dB，レギュラータイプで33.4dBのテスト結果から、従来の可動間仕切の常識を越える遮音効果です。

法規にマッチした防火性能

スタッドはスチール材、レール、巾木、ジョイナーはアルミ押出形材、貼上材は専用表面仕上材ダイマックボード（建設省防火建築材料認定品準不燃、認定番号2005）で低層ビルから高層ビルまで、建築基準法の内装制限に十分合格する不燃材です。もちろん、火災時に有害なガス、煙は出ません。

熱貫流抵抗値1.4㎡hr°C/Kcal

グラスウールを充填すれば、ダイマックボードの特性とあいまって高い断熱性が得られ、経済的な空調と快適環境が得られます。

斬新な壁面デザイン

ダイマックボードを天井まで中継ぎなしに1枚ものでおさめられ、今までの間仕切にない壁面デザインです。また、シフトジョイナーはダイマックボードの色に合わせています。

仕上材の色柄の取替自在

片面を木目柄、もう一方の片面を単色柄という具合にダイマックボードの取り替えだけで部屋の模様替えができます。

汚れに強い

専用表面仕上材ダイマックボードは耐汚染性、耐光性にすぐれた高級不燃化粧石こうボードで、水ふきはもとより、汚れをシンナーでふいても退色せず簡単にとれます。

解体再使用も可能

貼上げに釘やネジ、接着剤など一切用いない工法ですから、ボードに傷をつけることなく解体再使用ができます。

注目される経済性

シフトールは今までの間仕切にない数々の特性をもちながら画期的な低価格で、予算面でもゆとりある計画が進められます。

●アイデアで創りあげた新しいタイプの間仕切

シフトール®

特許出願/1件　実用新案・意匠登録出願/37件　海外特許出願済

明日の生活環境づくりにアイディアでとりくむ
株式会社マンテン

株式会社マンテン ——— 本社　〒542 大阪市南区日本橋筋3-2 ☎(06)632-1151代・南分室《建装部》〒556 大阪市浪速区日本橋東4-4-1 ☎(06)643-2277代
東京支店　〒136 東京都江東区大島5-10-11 ☎(03)682-3241代・名古屋出張所　〒451 名古屋市中川区百船町1-3-4 ☎(052)353-3177代・福岡出張所　〒812 福岡市博多区博多駅南6-12-22 ☎(092)43-4356代
札幌出張所　〒065 札幌市東区北八条東19-22 ☎(011)741-8439代・広島出張所　〒730 広島市金屋町8-4 ☎(0822)62-1765・本社工場　〒578 東大阪市水走55 ☎(0729)63-1151代

各府県の建築関係条例・規則・告示等も収載!!

建築関係者のための権威ある指針書

集録建築法規(各府県版)

建設省住宅局建築指導課
各都道府県建築行政担当課 共同編集



建築関係すべての法令・通達・例規等を実務にマッチした形態で体系的に分類登載し、これを一般編とした。また各県の建築関係条例・規則・告示等を一般編の分類に倣って編集し、これを一般編と組み合せて○○県編とした唯一の建築関係総合法規集である。

A5判・加除式・全2巻・定価5,500円(〒実費)

●好評の建築関係専門書

耐火 防火 構造・材料等便覧
建設省住宅局建築指導課 監修
加除式・B 5 判・全 3 巻
定価 7,500円(〒実費)

建築関係JIS要覧
建築工業規格研究会 編
加除式・A 5 判・全 2 巻
定価 6,600円(〒実費)

土木関係JIS要覧
福田武男(外2名)編集
加除式・A 5 判・全 2 巻
定価 6,600円(〒実費)

各府県市町村公害条例および各公害防止協定等を登載
公害関係法規総覧〈近畿編〉
環境庁長官官房総務課 編集
加除式・A 5 判・全 2 巻
定価 8,000円(〒実費)

大阪支社 〒540 大阪市東区石町2 −12 ☎代(942)5221
新日本法規出版

日本建築協会法規委員会

法令コーナー

質疑などの投稿をお待ちしております。

71

京都市日照等に関する指導要綱

京都市住宅局

最近の市内における中高層建築物の著しい増加は、日照、通風、電波受信、プライバシー等市民の住環境のなかでも重要な事項について種々の障害をもたらし、このために建築主と近隣住民との間に紛争が絶えない状況にある。

これらの住環境上の問題は、基本的には都市問題として対処しなければならないものであるが、現在における都市計画的手法の積極的運用によっても完全な解決を期しがたい面をもっており、具体的には相隣問題として処理せざるを得ない現状である。

そこで、本市としては、当面の措置として、建築主と近隣住民が相互に協力しあえる指針をつくる必要があると認め、建築計画の事前公開、日照の確保についての基準等を設定し、指導するとともに、あわせて紛争を調整することを目的としてこの要綱を定める。

I 総　則

1. 建築主の住環境保全義務

(1) 建築主は、建築しようとする建築物が日照、通風、電波受信、プライバシー等（以下「日照等」という。）の近隣における住環境に障害を生じないように努めるものとする。

(2) 建築主は、日照等に関する障害が生じるおそれがある場合においては、その被害を受けるおそれのある関係者と十分に協議し、必要な措置を講ずるものとする。

II 建築計画の事前公開に関する事項

1. 事前公開

建築主は、次表に掲げる高さまたは階数のいずれかに該当する建築物（確認を受けた後に設計変更する場合においては、設計変更後の建築物。以下「中高層建築物」という。）を建築しようとするときは、確認申請書または計画通知書（以下「確認申請書等」という。）を建築主事に提出しようとする日の20日前までに、建築しようとする場所で近隣住民の見易い位置に標識（**第1号様式**）を設置するものとする。

地域地区＼建築物	都市計画法第8条に基づく用途地域		高　さ	階　数（地階を除く）
	指　定　前	指定以後		
住居専用地区		第1種住居専用地域	9メートル以上	3階以上
		第2種住居専用地域	10	4
住居地域		住居地域	12.5	5
準工業地域		近隣商業地域	15	6
		準工業地域	15	6
商業地域		商業地域	18	7
工業地域（特別工業地区を除く）		工業地域	18	7

2. 説明会の開催等

建築主は、中高層建築物を建築しようとする場合において、近隣住民から建築計画に関する問合せがあったときは、説明を行ない、必要な場合には説明会を開催する等近隣住民との間に紛争が生じないようにするものとする。

III 日照の確保に関する事項

1. 日照地域の指定

(1) 市長は、日照の確保について、地域の実情に応じ、第1種から第4種までの日照地域を定めるものとする。

(2) 日照地域は、当分の間、次表のとおりとする。

日照地域の種別	地域地区	
	都市計画法第8条に基づく用途地域	
	指定前	指定以後
第1種	住居専用地区	第1種住居専用地域
第2種	住居地域	第2種住居専用地域 住居地域
第3種	準工業地域	近隣商業地域 準工業地域
第4種	商業地域 工業地域 （特別工業地区を除く）	商業地域 工業地域

注　防火地域を除く。

2. 日照基準

(1) 中高層建築物の建築主が近隣の敷地に対して確保すべき日照の基準は、日影の影響を受ける敷地の日照地域の種別に応じ、次表に掲げる日照時間による。ただし、次の各号の一に該当するときは、この限りではない。

ア　当該建築に対する近隣住民の同意があるとき。

イ　周囲の状況により次表に掲げる日照時間を確保することが困難なときまたは市長が必要がないと認めるとき。

日照地域の種別	第1種	第2種	第3種	第4種
日照時間	4時間以上	3時間以上	2時間以上	1時間以上

(2) 日照時間は、冬至における午前9時から午後3時までの間において、敷地境界線の地盤面から5メートルの高さの位置で測定するものとする。

3. 中高層建築物の届出

(1) 中高層建築物の建築主は、確認申請書等を建築主事に提出しようとするときは、あらかじめ、次の図書を市長に提出するものとする。

ア　計画建築物の届出書（**第2号様式**）

イ．事前公開の標識を設置したことを証する写真

ウ　近隣の敷地境界線の地盤面から5メートルの高さの位置で測定した日影図（必要があるときは、日照図を添付すること。）

エ　近隣住民の同意書または同意が得られなかったこともしくは同意を得る必要がないことの理由書

オ　紛争が生じたときは誠意をもって解決にあたる旨の誓約書

カ　その他市長が特に必要と認めるもの

(2) 市長は、計画建築物の届出書の提出があった場合において、中高層建築物の建築計画が日照の基準に適合しないと認めるときは、計画の変更等の指導または勧告をすることがある。

IV 紛争調整に関する事項

1. 紛争調整

(1) 建築主及び近隣住民は、紛争解決のために誠意をもって努力するものとする。

(2) 市長は、日照等に関する紛争について建築主または近隣住民から要請があったときは、必要に応じ、本市職員に利害関係の調整を行なわせるものとする。

2. 日照専門委員

(1) 市長は、紛争を調整するにあたって、学識経験者等のうちから委嘱した日照専門委員に意見を求めることがある。

(2) 日照専門委員は、必要に応じ、建築主または近隣住民から事情を聴取するものとする。

V その他の事項

1. 許可申請に係る建築物の取扱い

建築基準法の規定に基づく許可申請に係る建築物についても、この要綱の規定を適用する。

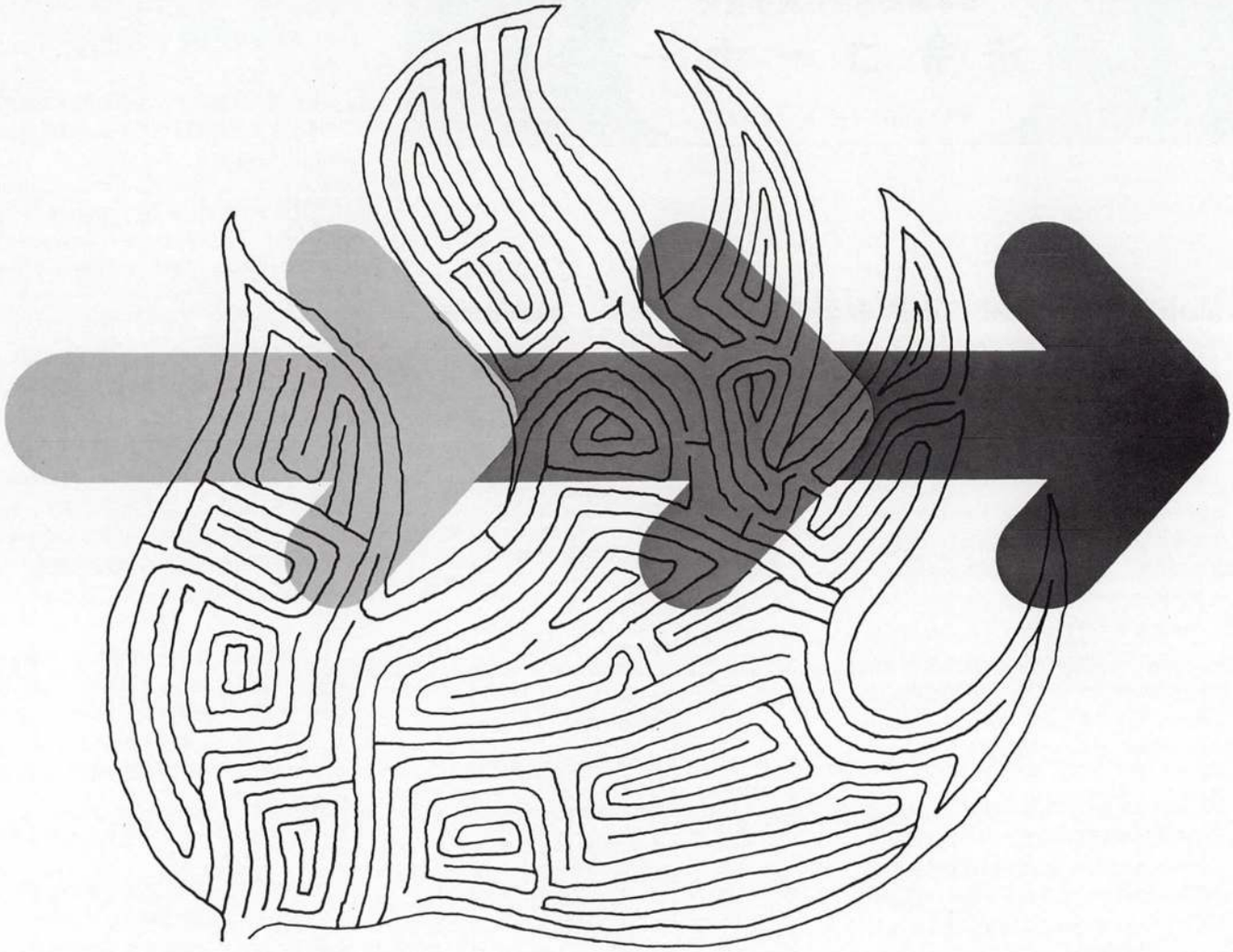
2. 要綱実施上の行政措置

市長は、この要綱の実施に関し、必要がある場合には、行政上の措置をとることがある。

3. 実施期日

この要綱は、昭和48年6月1日から実施する。

第1号様式、第2号様式の様式見本は省略しました。



火災時に生まれる迷路……誘導が必要です

「火事!」のとき、廊下が迷路に…

ますます高層化するビル、デパート、ホテル、複雑化する地下街。そこでもし火事に出会ったら…頼りの綱は素早く適切な避難誘導です。そのために必要なのは火災状況の把握。しかしビル火災でこわい煙や有毒ガスは、ダクトを伝わって思わぬ場所から噴出するなど、人間の状況把握力を越えるものがあります。

トポロジー型コンピュータです

従来の火事とは質的に異なる「ビル火災」にどう対処するか。この問題に答えるのが、緊急避難誘導システムZOND8です。ZOND8は火災の初期より適確にその動態を把握し、トポロジー型コンピュータ(特許申請中)で処理。自動避難誘導、取りのこされた人々の救出活動促進、関連機器の制御等を行ないます。

「安全空間」の創造を目ざして

文明の生んだもう一つのおとし穴、ビル火災。それは今や、深刻な社会問題ともなっているのはご承知のとおりです。何にも増して人命を優先すること…この単純ではあるけれど、最も根源的問題と、真正面から取り組んだのがZOND8です。その開発は現在、関係者の間で多大の注目を集めています。

コンピュータによる緊急避難誘導システム…

zond 8

ハードウェア担当 ㈱原田電業社
ゾンド事業部
京都市左京区北白川山田町3(〒606)
電話 (075)701-8131

ソフトウェア担当 三菱商事㈱
汎用機器部開発チーム
防犯・防災システム開発担当
東京都千代田区丸の内2丁目6番3号(〒100)
電話 (03)210-4649

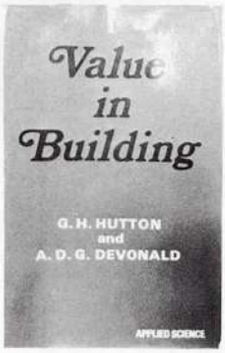
資料請求券
建社8

詳しい資料ご希望の方は、ハガキに請求券を貼付のうえ、三菱商事までご請求ください。

読者の頁

□新刊紹介

『Value in Building』



編者：G.H.HUTTON &
A.D.GDEVONALD
発行所：Apllied Science
Publishers Ltd(London)
サイズ　147×230mm
ページ数　136p
定　価　¥3600

本書は計画と設計面の「価値」について、編者のほか、5人の執筆者による論文を集録したもの。価値というものは、常に相対的なものだが、公平な比較はほとんどできないほど、多くの尺度で測られている現代にあるとき、本書は、建築面のいくつかの個々の概念と、その応用面にまで広げた関連分野の評価技術を提示している。各執筆者は、建設産業の価値について多くのアプローチを示した。建築主とその協力者たちに、できあがったデータをもとにして決定できるかあるいは、そのデータがまだ不足のときにも選択できる要因を見つけだせるような評価の方法を示している。

この評価技術は主観的判断の必要性を無視しないが、その決定分野をせばめ、意志決定とその結果についての情報の記録をもっと広くシュミレートするに適しているものである。

内容は7章に分かれつぎのとおり。

第1章：価値の価値

第2章：価値理論入門——土地と財産評価

第3章：経済基準と建物決定

第4章：設計評価技術の応用

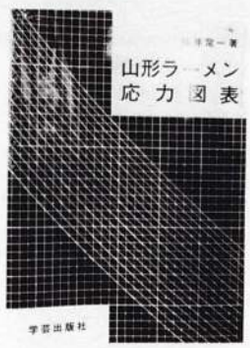
第5章：建物決定と実施面における経済的見積り技術

第6章：建物見積り上の評価によるOptimisation

第7章：建物の価値分析

□新刊紹介

『山形ラーメン応力図表』



著　者　藤井栄一
発行所　㈱学芸出版社
サイズ　A5判
ページ数　128p
定　価　¥850

工場建築等において、社会情勢の変化により最近ではトラス構造は少なくなり、山形ラーメン構造が多くなった。長方形ラーメンでは、略算法があり、比較的簡単に応力を求めることができるが、一般に山形ラーメンの簡単な算出方法はこれまでみられなかった。本書は誰でもが山形ラーメンの応力を求め、構造計算ができるよう、著者が長年にわたって工夫作成した計算図表をまとめている。現場実務家の必携書として、また工業高校・大学・各種学校の訓練用テキストとして最適である。

建築公害に関する公開討論会開催

6月23日午後、西宮市職員会館で高層建築公害をめぐる住民側と業界側の公開討論会が開かれた。この討論会は、さる4月10日、日本建設業団体連合会が「日照権運動の多くは、将来の都市づくりを否定し、住民全体の福祉を犠牲にするエゴだ」との見解を発表したのに反発した建築公害対策兵庫大阪市民連合が、「日照紛争は住民のエゴか、企業のエゴか。」と題して開かれたもの。住民側からは建築公害対策兵庫・大阪市民連合事務局長・佐藤きよ子氏、東京建築公害対策市民連合事務局長・柏木暁氏ら、業界側からは日本高層住宅協会事務局長・米倉喜一郎氏が出席、また関西大法学部教授・沢井裕氏や兵庫県、神戸市、西宮市、大阪府、大阪市の建築指導担当者もそれぞれオブザーバーとして出席した。会場には近畿一円から詰めかけた約400人の人で埋まり、約4時間にわたって熱心な討論が行なわれた。

1973年度・小堀住研賞
小堀「住研ホーム」設計図案懸賞募集

小堀住研では、わが国の古き伝統のよさと現代の生活様式を基調として、将来の日本住宅の帰趨の針路を示すべく、〝快適な生活を営む〟住まいの小堀「住研ホーム」設計図案を懸賞募集している。

構造・様式：木造、独立住宅。

延面積：(A)80m²～100m²(B)100m²以上～120m²

応募締切日：昭和48年9月17日。

賞金：「小堀住研賞」100万円　1名
優秀賞　40万円　2名
入　選　20万円　4名
佳　作　総額24万円　若干名

応募要領：JIS、A1版、白色画用紙1枚に図面及び説明書を鉛筆又は墨書、透視図は彩色仕上げ。

応募規定など詳しいことは（〒530）大阪市北区曽根崎上4－20 大阪駅前第一ビル2階 小堀住研(株)「住研ホーム」コンペ係宛までお問い合わせ下さい。

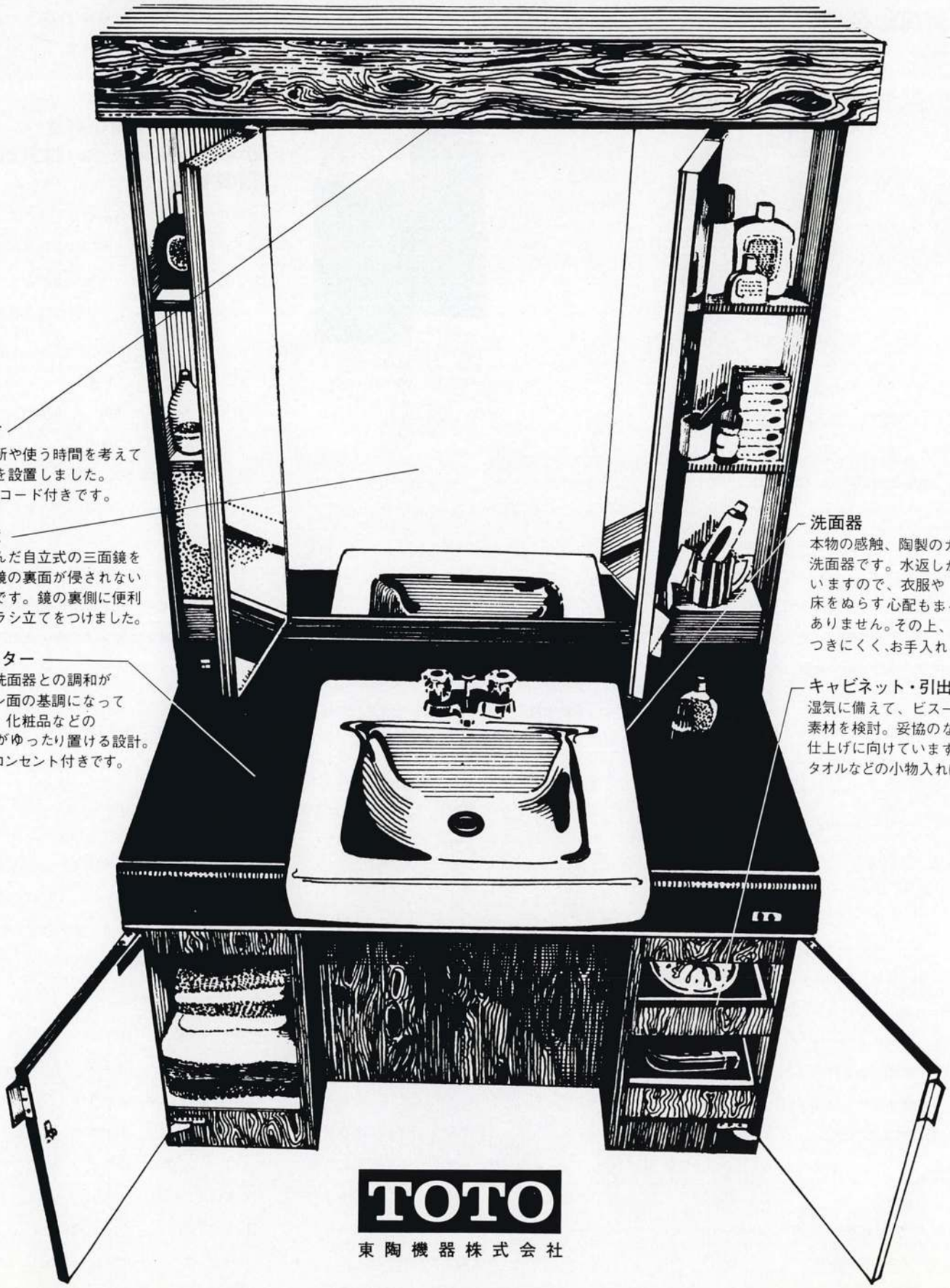
入選者発表は、10月中に直接本人に通知するほか、協賛の株式会社　新住宅社発行の「新住宅」11月号や機関誌「すまいりんぐ」に発表される。なお、入選作のうちより、優秀なものは「住研ホーム」として建築される予定。

審査員（敬称略）

大阪大学教授	工学博士	足立　孝
日本大学講師	建築家	神谷正信
大阪市立大学教授	工学博士	白木小三郎
東京工業大学教授	工学博士	清家　清
杉野女子大学教授	建築家	高田秀三
(株)創研設計事務所	代表取締役所長	中野順次郎
(株)新住宅社	代表取締役	小林　清
小堀住研(株)	代表取締役社長	小堀林衛

人気の秘密を分析すれば…

TOTO洗面化粧台。



蛍光灯
置き場所や使う時間を考えて
蛍光灯を設置しました。
1.5mのコード付きです。

三面鏡
磨き込んだ自立式の三面鏡を
採用。鏡の裏面が侵されない
防湿性です。鏡の裏側に便利
な歯ブラシ立てをつけました。

カウンター
美しい洗面器との調和が
デザイン面の基調になって
います。化粧品などの
日用品がゆったり置ける設計。
便利なコンセント付きです。

洗面器
本物の感触、陶製のカラー
洗面器です。水返しがついて
いますので、衣服や
床をぬらす心配もまったく
ありません。その上、汚れが
つきにくく、お手入れも簡単。

キャビネット・引出し
湿気に備えて、ビス一本まで
素材を検討。妥協のない眼を
仕上げに向けています。
タオルなどの小物入れに最適。

TOTO
東陶機器株式会社

"機能と形態の整合性"について

――関西労災病院重症治療部の設計を通じて――

三宗司郎　東畑建築事務所

私は、建築の実践活動に入り日が浅く、青二才そのものなのですが、今まで考えてきたことをある程度整理できる適当な設計対象"I.C.U."に取組む機会を与えられたことにより、その内容を不十分ながら具体化しようとした試みを同じ志向性を持つ人々に提供し、共に考えてみたいと思います。

建築とは即ち空間であると私は捉えています。そしてそれは、対象と人間が関り合うことにおいて生じてくるものだと思っています。そういう基本的な"空間把握"は全く当然のことなのですが、その基本はその"当然"という言葉を掘り下げてくれます。

しかし、"当然"ということほど難しいことはないかもしれません。例えば、ある人間が自殺しようとしていて側にいる人が見て見ぬふりができず、その人を助けたとしても逆恨みされるかもしれません。両者には、価値観、人生観が違うのだという主観の相違にのみ目をつけることもできましょう。しかし私は、そこにおいて我を脱して救った人間の誠意に"当然"を見ます。

つまり、我を脱したところに計画設計の理念があると考えています。つねに客観性を追求することが基礎になるべきだと考えています。そして"空間"の客観性は、その多様性に本質があると思います。対象の変様により、また、人間（主体）の変様により、空間は変様すると思います。そして、その対象と主体が関係する、そのあり方は種々の相に存在すると考えられます。例えば、I.C.U.を設計することが決った段階でのI.C.U.という空間、計画している段階の空間、ディテール把握のときの空間、躯体だけ打ち上った時における空間、竣功したが誰も入っていないI.C.U.空間、開院され使っている医師、看護婦の側から見た空間、患者の側から感じる空間、心配で心も潰れるような家族控室の患者の肉親の目に映る空間、そして私がペンを走らせながらI.C.U.といっている空間、それぞれ相当異った空間相ですが、また、把握の観点の違いにより、そしてスケールの違いにより空間相は異ってくると思います。

私は、その建築がいか程練られたかによりその建築の価値が相当決定され、いかに練られたかは、その計画設計過程（もちろん設計は現場監理を含む）において、どれだけの空間把握をし、それら種々雑多に異った空間相をいかに建築的に構造化していったかによると考えています。

私は「機能と形態」という関係を「意味と空間」の関係にスライドして把握し、非常に漠然としたI.C.U.という対象を序々に意味解析し、空間構造を各レベルで分節させ、次にフィードバックさせながら総合化する過程を踏みました。

I.C.U.の設計担当として話を受けた時、私の頭の中には、明快な意味は全く準備されていませんでした。資料も乏しく、全く手探りに近い状態で出発しました。東畑事務所としては、徳島県立中央病院で一度だけ経験しておりましたが、今回は全くケースが異っておりながら、非常に参考になりました。I.C.U.とはIntensive Care Unitの略称で、今まで扱い得なかった重症患者を集中的に治療するシステムですが、一般的には院内患者を対象にするのに対して、本I.C.U.は救急外来をも受付けるという条件で出発しました。そして、非常に条件の悪い場所への増築であることもはっきりしました。精神病棟と手術棟との間の狭い場所、それも芝生が敷き詰められ、精神病患者の体操場になっている"広場"をつぶしてI.C.U.を建設する計画であることも知りました。本来そこに建物は建てられるべきでないと思いましたが、I.C.U.は、どうしても必要であり、病院の敷地を見た時に、動線から考えても広さから考えても、そこしか適当な場所はないことも理解できました。そこで、可能な限り精神病棟の患者に悪い影響を与えないで、むしろI.C.U.病棟ができて喜んでもらえるものにすべきであると、方向を定めて出発しました。屋上は緑の庭にすべきだと考えました。

まず、I.C.U.の存在意味とＩＣＵのバリエーション等について調べていきましたが、全く一般概論的なことしかわからず、病院関係者と打合わせを重ねていく過程で、意味を開発していくより方法がないことがわかりました。このI.C.U.の計画は、とくに、医長になられた鵜飼先生のご指導の下に進めることができたのですが、鵜飼先生の勤められていた阪大病院の災害外科I.C.U.に幾度かお訪ねし、目のあたりに治療を見せて頂いたり、また、雨の日でも先生自ら車を運転され県立西宮病院交通災害外科I.C.U.を見学させて下さり、その場でその設計の長所および短所を鋭く指摘された、その熱意に心を打たれました。打合わせも常に熱が入り、I.C.U.を中心に多方面に話が進み、例えば、治療のシステムの問題から、医師、看護婦不足の問題を通じて、労働問題や、日本の医療制度等の問題まで言及され、マクロな視野でも空間把握を進めることができました。

打合わせのプロセスは、一般的だったと思いますが、各室のトポロジカルな関係を把握する時に、患者の種々なタイプを想定して、処置・治療の流れを詳細に教えてもらい、設計サイドの疑問点をその都度提出し、医師、看護婦等、病院関係者各々に答えてもらう作業を相当緻密におこなったことは、とくに意味があったと思われます。また、その打合わせにおいて意味の開発を医師、看護婦の方々が多くなされたことは、あたかも、何もない原っぱで子供が自由に遊びをつくるようで、驚きでした。その過程を経ることにより、漠然としたI.C.U.の空間構造が詳細にわたり判明した訳です。打合わせの詳細は、箇条書にし、グルーピングしてゆき、建築・設備・構造が対等に互いを支え合う関係で計画を進めていくことができました。病院のみならず、全ての設計についていえることですが、設計に関係するスタッフが、その建築をより良いものにするという目的の下に対等の発言権を持ち互いを支え補い合う必要があろうと思いますが、本設計においては、その意味でもうまくいったほうだと思っています。

ただ、計画の段階で予算により面積制限をせざるを得なくなり、また、地耐力の問題により、躯体に相当の費用を食われてしまい、仕上げを落とし、当初計画していた屋上庭園も断念せざるを得なくなったりして、十分には満足できない結果となってしまいました。

構造化の段階において、各Flowと各々の部屋との関係を最も論理の中心に据えて進み、情感の中心には、"あたたかみ""やさしさ""清潔さ"を据えて進めて行き、それらが空間の機能として、意味的にどう現れようとしているかを捉み表現するというプロセスを歩みました。構造化の基本は、トポロジカルな段階から、つねに、各要素の意味を貫くオーダーを見つけ出すことから出発しました。それは、空間意識が常に時間的なものでありながら、共時的空間と継時的空間に分離されることや、ゲシュタルト心理学における"図"と"地"の関係等、意識の基本的志向性を、形態――空間、色彩――空間、テクスチャー――空間等の関係においてまた、トータルストラクチャーからディテールに至るまでの各ヒエラルキーのストラクチャーにおいて、各々のオーダーを支えているものとして把握しました。構造化の過程は、両機能における創造の側と享受の側の間の橋渡しのような気がします。即ち、計画の初めから設計・現場監理に至るまで、常に現象空間のイメージへのフィードバック系を進んできました。

"当然"ということがいかに既存の概念とほど遠いかを実感として理解することができ、これからも、その設計対象の本来的な意味から出発して、その対象の志向する方向へ創造活動を進めていこうと考えています。

最後に、労働福祉事業団、病院関係者および工事施工各担当者のご協力に感謝し、合わせて、私の上司の暖い指導と同僚の誠意ある協力がなかったならば、この建築は決して完成し得なかったことを、感謝と共につけ加えたいと思います。

この文章および作品の内容について、ご批判、ご指導をよろしくお願いします。

（みつむね　しろう）

【作品作風　"関西労災病院重症治療部"（22ページ）参照】

フリントコート®

マスチックフローリング

耐久性のすぐれた防湿床材



飯田町紙基地センター
設計監理：国鉄東京建築工事局　施工：清水建設・熊谷組・鉄建建設共同企業体
使用場所：床　仕様番号：F－9®

特　長

1　耐久性：耐久性にすぐれている。
2　耐摩性：摩耗の度合が低く、ホコリなど生じない。
3　すべり抵抗性：すべり抵抗性にすぐれている。
4　復元性：弾性があり、万一亀裂ができても使用している間に復元する。
5　粘着性：多少湿っていても、コンクリート、金属、木など、どんな面にもよく粘着する。
6　不燃性：引火のおそれがなく、ガス工場、爆薬工場の床に使用されている。
7　無毒無臭：完全無毒で各種食品工場、貯蔵庫に多く使用されている。

フリントコートについてのお問合せは下記へ

FLINTKOTE®

株式会社シエル石油大阪発売所
フリントコート施工販売部

大　阪　〒532 大阪市東淀川区西中島2丁目76 ☎(06) 303－7131
東　京　〒104 東京都中央区宝町2丁目4番地(第2ぬり彦ビル3階) ☎(03) 562－4646
名古屋　〒461 名古屋市東区東門前町3の47(日本橋ビル4階) ☎(052)931－8537
広　島　〒730 広島市東白島町15番6号(西林ビル3階) ☎(0822)21－1224
福　岡　〒810 福岡市中央区舞鶴1－1－5(舞鶴ビル3階) ☎(092) 77－1961

新製品ニュース

画期的な緊急避難群管制システム　原田電業社の『ZOND（ゾンド） 8（エイト）』

—防災工学のコペルニクス的転回—

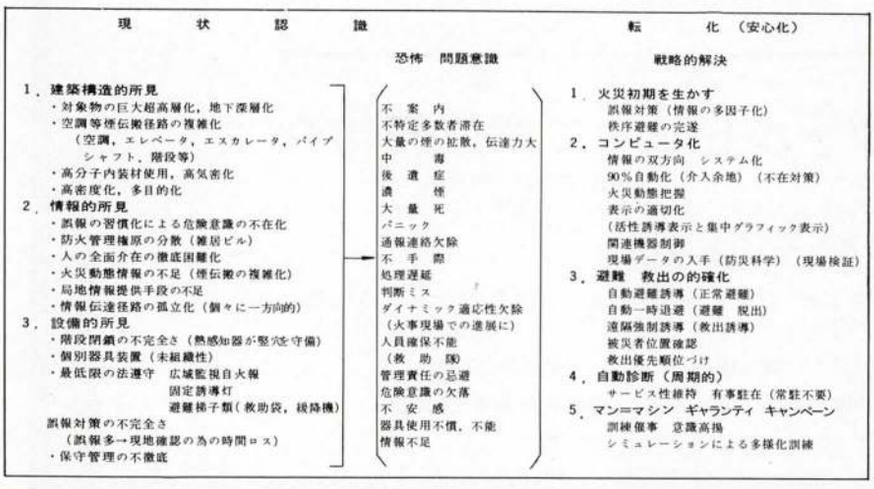
最近のいくつかの火災によって明らかになったのは「火事」が質的に変化し、多数の死者や中毒者を引き起すようになったことである。

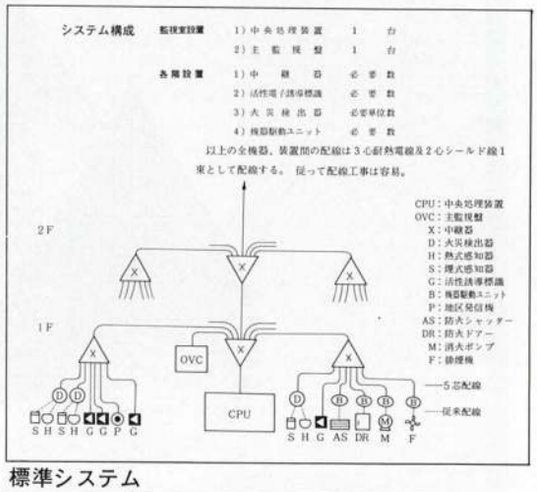
その１つは、過密都市における超過密ビルのスケールは、和風造りや小規模ビルの延長上にはなく、人の総合判断と適切な処置に「スケール断絶」を引きおこしていること。その２つは、アンケート調査にもでている、不特定多数の一般滞在者の依頼感に対する従業員の責任感のずれによる、いわゆる「意識構造の変化」。その３つは法の遵守性や最低限度であることに対する認識の低さにかかわる「民度」の問題など、「人の全面介在」を根底とする火事対処の思想が、いまや「理想化」されつつある点を指摘しなければならない。

また、一方火災時の救出についてはどうであろうか。窓から手を振る人を外から見つけて、あるいは突入した消防隊が発見するごとに助けるより手が打てないだろうか。ここに「安全に自力避難」できぬ人の「位置」を知り、現場の態勢にあった救出の優先度を踏まえた「救助の戦略化」がなされる必要がある。

〝人の全面介在に替るマシーン〟として、これらの尊い人命を確実にセーフティ・ゾーンに導くための緊急避難群管制システム「ゾンド８」が、㈱原田電業社から発表された。これらのシステムは煙・熱感知器、主監視盤、中央処理装置、活性電子誘導標識、駆動装置などから構成されており、とくに中央処理装置は位相空間方式のコンピュータが内蔵されているのが特色。コストは一般のコンピュータの約1/5。感知器などからの火災通報にすばやく作動し誤報チェックを行こなう。このコンピュータは同社が、与えられたいくつかのパターンの中から最も効果的なルートを探し出すトポロジー（位相数学）をベースにし、位相空間処理方式に開発したもので　①人々を火元から遠ざけ、出口に向って　②安全に　③最短コースを指示し　④しかも、熱・煙の動き等の状況分析も織り込まれているので、煙の流れや避難路、避難口の安全度を総合的に判断、最も安全な方向へと活性電子誘導標識が導く仕組みになっている。各装置は無接点化されており、すべてＭＯＳ集積回路素子を使用しているため，耐震動性が高いほか信頼性に富む。ゾンド８は火災状況に応じて　①最も近い出口に向って、各地点で避難誘導　②出口がふさがれた場合の脱出不可能地点（バルコニー等）までの待避誘導　③待避誘導ができない区域からの通報によって救出活動が不可能な地点（シュノーケルの近づける窓等）までの強制誘導　④とじこめられた人々の所在などの情報を救助側に提供して破壊救出活動を効率よく、的確化させる－などの働きがある。

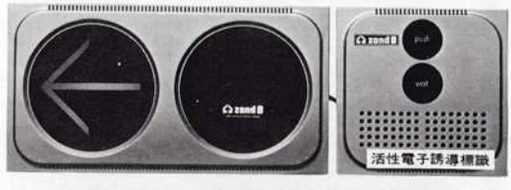
なお、同社ではゾンド８の販売策として①国内では三菱商事を通じて販売　②アメリカでは現地商社（サンロック社）と提携、技術輸出－現地生産。③共産圏には同社が直接輸出する方針である。





標準システム

シリーズ	ZOND 8	
モデル	1532	132
中央処理装置	15 階 建 *	1 階 **
対象建物	階 当 3,000平米	
1 台	総床面積 45,000平米	総床面積 8,000平米
監視盤	15階分集合盤面	
	（一 面）	一 面
1 台	（階毎独立表示）	
中継器	6 回 線	
必要数	（分岐制御及増幅）	
検出器	2 単 子 型	
必要数	（２種類の感知器接続可）	
活性電子誘導標識	点滅両方向型	
必要数	（音 響 付）	
その他	ユーザー仕様による	
必要数		
備考	*誘導精度10M換算	**誘導精度17M換算



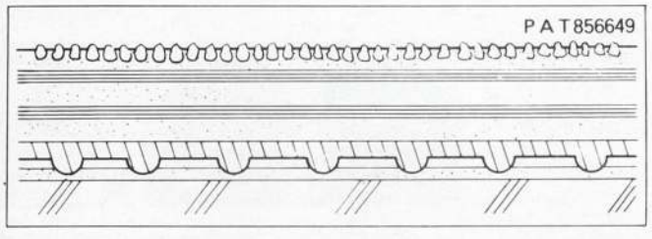


中央処理装置トポロジー型プロセッサ（地図型処理機）



フクレ防止宣言!!

防水の難問を解決した
特許ストライプ工法 ピロウエルド



1.露出防水のフクレを完全に防止します。
2.下地挙動を緩和し、優れた耐亀裂性を発揮します。
3.従来の絶縁工法にない接着力で、風による剥離を防止します。

日本アスファルト防水工業協同組合

●東京都足立区千住東2丁目21番28号　ＴＥＬ東京(882)2424(代表)
●大阪市東淀川区瑞光通り４丁目30の２　ＴＥＬ大阪(329)7737(代表)

マルエス S 日新

日新工業株式会社

本社営業所●東京都足立区千住東2丁目21番28号　ＴＥＬ東京(882)2424(代表)
大阪支店●大阪市東淀川区瑞光通り4丁目30の2　ＴＥＬ大阪(329)7737～7740
出張所●名古屋(741)4257～8●広島(21)1010・1061●福岡(74)3461～3
●札幌(51)5659・6885●山形(23)0437～9　工場●東京●埼玉●山形

新製品ニュース

間仕切の革新、ワンタッチ工法　マンテンの「シフトール」

三井東圧化学株式会社(取締役社長 末吉俊雄)と株式会社 マンテン（取締役社長 横田辰三）は、このほど高級不燃化粧板「丸ツバメダイマックボード」を使用する全く新たな軽量簡易可動間仕切壁・システムを共同開発し、商品名を「シフトール」として新発売した。この「シフトール」は、オフィスビル、病院、ホテル等の公共施設の内装防火の観点から見ても、化粧石こうボードを利用した準不燃材料を表面材として使用されているので、あらゆる内装制限に適応できることと、画期的なスタッドとジョイナーの組合せによる高能率な施工システムのため、施工現場での誤差調整が容易であるという利点を備えている。

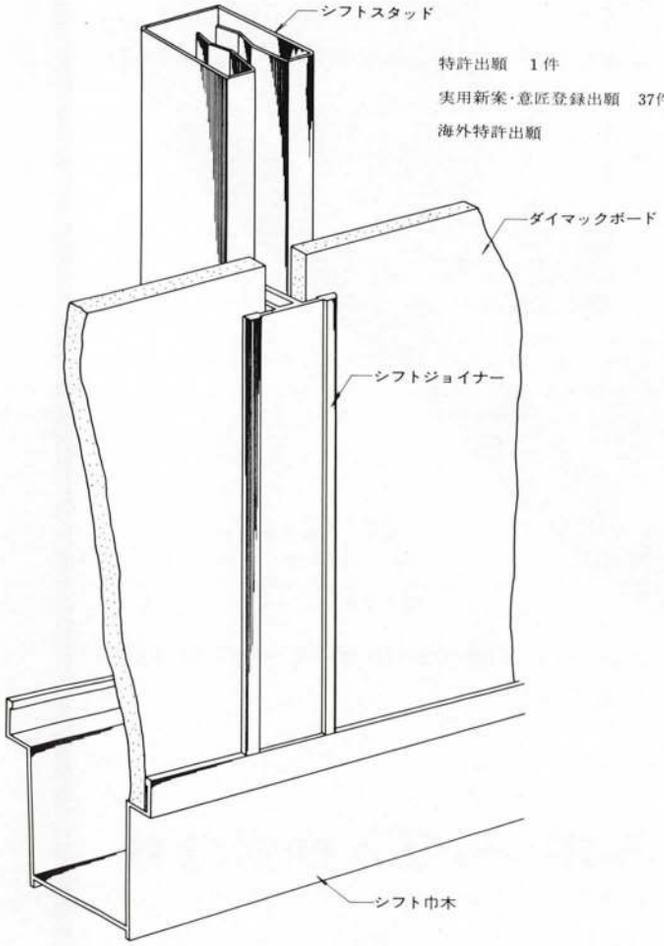

シフトスタッド取付中


シフトジョイナーはめ込み中

特長
- ワンタッチ工法
- m^2 当りの20kgの軽さ
- 透過損失41dBの遮音効果
- 法規にマッチした防火性能
- 熱貫流抵抗値1.4m^2 hr℃/kcal
- 斬新なデザイン
- 仕上材の色柄の取替自在
- 汚れに強い
- 解体再使用も可能
- 経済的

材工込みの設計標準価格（開口部を除く般用部分）は次のとおりである。

間仕切	m^2当り	5,800円（レギュラータイプ）
〃	〃	6,300円（グラスウール充填タイプ）
片側	m^2当り	4,400円（レギュラータイプ）
〃	〃	4,900円（グラスウール充填タイプ）



特許出願　1件
実用新案・意匠登録出願　37件
海外特許出願


シフトール説明発表会

種類

木目柄	D−2301	ベーカーチーク
	D−2302	マリオンチーク
	D−2303	江戸欅
	D−2304	ミニチェリー
	D−2305	フレンチレオ
	D−2306	キングローズ
単色柄	D−2307	アイボリーホワイト
	D−2308	ミルキーホワイト
抽象柄	D−2309	モダンクロス
	D−2310	リズムトーン

規格

厚さ	9 mm
寸法	3×8(910×2,424mm)・3×9(910×2,727mm)
比重	0.82〜0.85
重量	3×8　16kg/枚　・　3×9　18kg/枚

※マンテン 福岡出張所 新社屋竣工：新住所　福岡県博多市博多駅南 6 − 12 − 22　TEL　092（43）4356㈹

すぐれた居住性を創造する

軽量気泡コンクリート

シポレックス

SIPOREX



軽量

比重0.5

コンクリート¼の重量

断熱

コンクリートの10倍の断熱性

耐火

法定耐火材料

心斎橋プラザビル
大阪市南区末吉橋通3
設計　日建設計
施工　㈱竹中工務店
使用個所　カベ

◆シポレックスは工場、住宅から超高層ビルまであらゆる建物の屋根・床・壁・間仕切・耐火被覆に使用されますが次の建物には特に最適です。

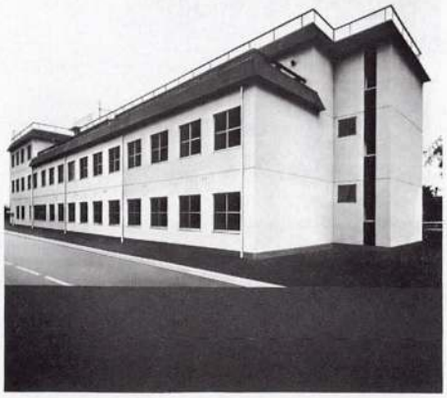
1　工期短縮を要するすべての建物
2　空調を要する工場・倉庫事務所住宅等
3　鉄骨大張間の工場・体育館等
4　軽量化を要する高層建築物・軟弱地盤の建物
5　鉄骨耐火構造の建物

シポレックス株式会社

本社・東京支店　東京都千代田区神田司町2－6（平沼ビル）
電話　東京（256）代表3451
大阪支店　大阪市西区立売堀北通1－90（第三富士ビル）
電話　大阪（538）代表0521
名古屋支店　名古屋市中村区広小路西通3－2（大商ビル）
電話　名古屋（581）代表7421

□ 写真と概要をどしどしお送りください。

凡例：a.所在地　b．敷地面積　c．建築面積　d．延面積　e．構造規模　f．工期



892. 岸和田寺田病院

設計：清水一級建築事務所
施工：清水建設㈱大阪支店
a．大阪府岸和田市南上町1丁目48番地
c．720m²
d．1,954m²
e．RC造、F3、P1
f．昭和47年10月～昭和48年4月



893. 済生会兵庫県病院

設計：川上建築設計事務所
施工：清水建設㈱大阪支店
a．神戸市垂合区日暮通5－5
c．610m²
d．3,071m²
e．RC造、B1、地上5F、塔屋1F
f．昭和47年7月～昭和48年5月



894. 岡山労災高等看護学院(校舎棟)

設計：KK中原茂建築事務所
施工：KK大林組岡山支店
a．岡山市築港緑町1番地
c．606m²
d．1,815m²
e．RC造、3F
f．昭和47年8月～昭和48年3月



895. 西陣病院老人病センター

設計：内藤建築事務所
施工：清水建設㈱大阪支店
a．京都市上京区七本松通り五辻上ル
b．1,612m²
c．416m²
d．2,984m²
e．RC造、6F、塔屋2F、B1F
f．昭和47年3月～昭和48年3月



896. 出木谷産婦人科

設計：宏建築事務所
施工：KK錢高組
a．京都市左京区岡崎北御所町
b．250.19m²
c．136.70m²
d．397.89m²
e．RC、3F
f．昭和46年3月～昭和46年11月



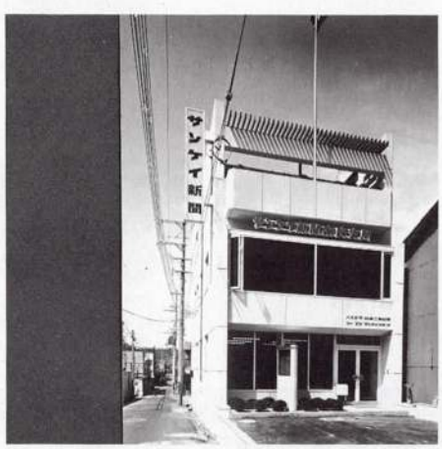
897. 岡山労災高等看護学院(体育館兼講堂)

設計：KK中原茂建築事務所
施工：KK大林組岡山支店
a．岡山市築港緑町1番地
c．369m²
d．302m²
e．RC造、1F
f．昭和47年8月～昭和48年3月



898. 中山手団地公社一般分譲住宅

設計：共同設計株式会社
施工：幡磨工業所
a．神戸市生田区中山手2丁目
c．689.885m²
d．6520.89m²
e．SRC、B1F、13F、P2F
f．昭和46年12月～昭和48年3月



899. サンケイ新聞社奈良支局

設計：㈱サンケイサービス
一級建築士事務所
施工：大日本土木株式会社大阪支店
a．奈良市油留木町44の2
c．90.56m²
d．246.91m²
e．RC、3F
f．昭和47年9月～昭和48年3月



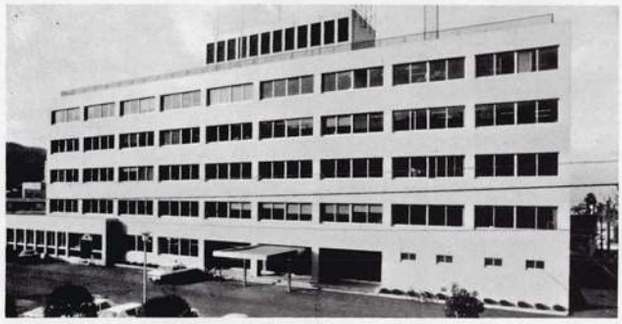
900. 岡田邸

設計：㈱三座建築事務所
施工：共立鉄工所
a．大阪府堺市若松台3丁12番13号
b．362.02m²
c．134.89m²
d．173.20m²
e．鉄骨造、一部RC造、2F
f．昭和47年9月～昭和48年3月

防水層の保護と軽量、断熱に

東邦のパーライトコンクリート PC－D工法

（歩行用及び防水下地用）



屋上アスファルト防水層の保護、断熱、軽量に東邦パーライトコンクリートPC－D工法採用の大津法務合同庁舎
設計　近畿地方建設局　　施工　ＫＫ伊藤組、ＫＫ笹川組

作業が一工程省け工期の短縮とコストが安くなる合理化工法

- 防水層の押えに使用し仕上モルタルの要らない金ゴテ一パツ仕上工法
- デッキプレートの軽量化や露出防水下地、または貼物下地にナラシモルタルの要らない金ゴテ一パツ仕上工法

畳下地の省力化と塩ビ系タイル下地の防湿、防温、軽量化、断熱（結露防止）に

東邦のパーライトモルタル PM－C工法



各階のタタミ下地に東邦パーライトモルタルＰＭ－Ｃ工法採用の大宮高層分譲住宅
設計　大阪市住宅供給公社　　施工　ＫＫ間組、ＫＫ熊谷組

- タタミ下地の床組（大工仕事）が全く要らないので**工期短縮とコストが安くなる**
- 床組しないので建物の**ボリュームの節約ができる**
- 無機質 100％絶対耐火それに多孔性材料のため吸温、遮音に優れている
- **独立気泡**の東邦パーライトと**防水液を使用した完全防水パーライトモルタル**であるため、湿気を全く透さない

比重・断熱共木材並１：３

（比重0.85kg／ℓ、熱伝導率0.14kcal／mhc）

遂に出た…ベニヤ仮枠コンクリート下地の**かべ**、天井の一パツ重厚吹付仕上工法

建設省防火認定材料基材同等第0004号

ネオパールスキン®

化粧、吸音、防湿、断熱（結露防止）と多目的用に

- ベニヤ仮枠コンクリート下地（天井及びかべ）に直接吹付して剝離の心配がない
- **かべ面は金ゴテ押え**すれば聚洛壁タイプの表面強度のあるソフトでデラックスなムードである（ネオパールスキンの特徴）
- 一工程で仕上るので**工期の短縮とコストが安くなる**
- 下地はボード類、鉄板類、石綿板、モルタルなど何んでもよい
- 標準色20色と特別色もできる



かべ面にネオパールスキン７ＦＫ（吹付後金ゴテ押え）採用の村野、森建築事務所
設計　村野・森建築事務所　　施工　鹿島建設ＫＫ

東邦パーライト株式会社

大阪市東区森之宮西の町５９４　ＴＥＬ 代表 06－941－9243～7

〈営業所〉　東京03－974－３２２５～７　広島0822－44－６３６０～１　岡山0862－72－２０６９
高松0878－33－１８０２　金沢0762－44－３３４７

建築の眼

片倉健雄
大阪大学助教授工学部建築工学教室

椚座正信
大阪府企業局宅地開発部長

太田隆信
坂倉建築研究所

浅田孝夫
大林組建築本部工務部技術課長

7月号より12月号まで上記4氏で担当

□ピロティの下のプレハブ教室

かつて、S市の中学校の移転計画を手がけた。用意されていた新しい用地は、立地条件は良いが従前の校地に比してかなり狭く、しかも将来の増築も受入れねばならなかった。今迄豊かな緑の中でのびのびと活動していた生徒にとってマイナスをもたらすような計画は許されない。そこで、校舎群をできるだけコンパクトにまとめ、プール・ギャラリー・体育館を重ねる一方、アプローチ——ピロティ——中庭——ピロティ——グランドの一連のオープンスペースの連繋で敷地をフルに生かした。ふだん、文部省の補助基準を意識した計画に押えられていた市も私共も、ここではピロティの価値を積極的に評価できた。

それから約10年、予測通りの生徒増が押寄せ、当初予定した増築をおこなう段階にきたようだが、実施にあたっては案の定計画通りにはいかぬらしいことを耳にした。移転計画の時点では、ピロティなどの面積が補助基準面積に加えられるので将来不利ではあるが、市当局はこの問題について十分承知して決断された。しかし、いざとなるとやはり解決ができず、ピロティ部分にプレハブ教室をはめ込む案が出ていたというが、その後どのような結論が得られただろうか。今は直接関与することのない問題だが、その建築的マイナスの大きさと補助基準の不合理を黙過せねばならぬ行政が気にかかっている。（K）

□建築士の数

建築士法でいう建築士の実態は、設計および工事監理業務のほか、施工関係業務等建築技術全般の分野におよび、この広範な業務に従事する建築技術者すなわち建築士であると考えられる。現在1、2級建築士は全国で35万名に達しているが、これらの建築士の手になる建築工事額は昭和47年推計で8兆円になろうとしている。建築士1人当りでは約2300万円に達し、設計、工事監理、監督および施工に従事していることとなる。しかも、1人当り2300万円の工事額のうち、1400万円は専用住宅であって年間4.5戸を完成させることとなっている。この数字は建築生産実務に関与しない建築士を含んでいる。

建築業務の専門化、細分化による省力化、効率化の努力ならびにその実績は認めるとしても、昭和35年当時1人当り工事額約400万円（昭和47年換算1600万円）に比べて非常に高いことがわかる。

これに関しては、色々な見方があろうが、私は建築士数が不足していると解したい。（K）

□共同作業

共同で仕事をする機会が多くなってきている。プロジェクト・チームとまではいかなくとも、これまでの組織をこえて、さまざまなチームが組まれることもめずらしくなくなった。これまでの個人プレーの積み重ねといった設計作法が、大きく変化しつつあるといってもよかろう。新らしいこころみのせいか、チーム作業の場合、成功例と、失敗例の差が極端にあらわれるように思われる。

大きなプロジェクトを手がけるには、これまでの建築家の仕事の範囲をこえた巾の広さが必要だ、といわれだしたのも、共同作業が定着化しはじめたころからではないでしょうか。巾の広い建築家・共同作業、この2つは、不可分の関係にあるといえますが、巾の広い建築家という考え方が、底のあさい建築家に通じることも見のがされてはなりません。幾つかの共同作業を通じて、感じることは、共同作業の場合、各メンバーが要求される作業を十分にとまではいかなくとも、遂行する能力をもっていること、その上で巾の広さが加わればさらによいのですが、巾の広さだけが先行するような場合は、結果的にあまりうまくいきません。建築家の仕事、そして何が自分にできるのか、共同作業の場合必要なことは、各人が十分にそのことを認識することから出発することです。（O）

□悩みの種

鴨川の水、賽の目、延暦寺の僧兵ではないが、建物を施工するにあたっての現代での悩みの種は、公害問題であり、交通規制であり、職人の不足である。前者にあっては、自然現象や偶然現象や人間関係が問題であったが、後者では、すべて、人為的なシステムのアンバランスによるものであるという見方ができる。

一例を掘削工事についていえば、9時から19時までは大型車乗入れ禁止という交通規制のある区域があり、また、21時から翌朝の6時まではショベル系の掘削機が公害防止条例で使用できない。そういう悪条件にダンプカーやショベルの運転手不足ということが追打ちをかける。技術改新の世の中にありながら、市街地における建築工事の工期は長くなりつつあるのが現状である。

社会を構成しているサブシステムが、各々のシステムの効率性を追求し、また、大量生産・大衆消費型の「量の経済性」を優先しすぎた結果、マクロシステムとしてはバランスがとれなくなったものと考えられる。（A）

才色兼備



お台所は奥さまのお城——
『機能性』と『美しさ』を誇る
松山のキッチンインテリアが
楽しい空間をクリエイトします



家具一筋70年

松山

大阪堀江/心斎橋/東京



■本店／大阪市西区四ツ橋筋堀江立花通角
☎大阪(06)531－6451(代表)

KENTIKU TO SYAKAI

建築と社会

JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

ARCHITECTURE AND SOCIETY
VOL.54 1973

8

新用途地域制と環境

SPECIAL FEATURES ON NEW USE ZONING AND ENVIRONMENT

会　告　第４回若い会員の集い「工業化工法による住宅生産工場をみる会」(1)。神戸文化ホール新築工事の見学会。大阪高等地方簡易裁判所合同庁舎事務棟新営工事の見学会。通常総会決議報告。会員の受賞（建設大臣表彰）。第20回青年技術者のみなさまへ。…… 1

法令コーナー71.　京都市日照等に関する指導要綱／京都市住宅局…… 5

読者の頁　□新刊紹介『Value in Building』。『山形ラーメン応力図表』。建築公害に関する公開討論会開催。1973年度小堀住研賞小堀「住研ホーム」設計図案懸賞募集。…… 7

レポート　"機能と形態の整合性"について―関西労災病院重症治療部の設計を通じて―／三宗司郎…… 9

新製品ニュース　原田電業の「ZOND８」。マンテンの「シフトール」……11，13

スケッチブック　最近竣工した新建築９点（№892～900）……15

建築の眼　共同作業／太田隆信　ピロティの下のプレハブ教室／片倉健雄…17
建築士の数／椚座正信　悩みの種／浅田孝夫

海外写真　地中海の住環境②　アビラ……写真と文　鈴木　良介…21

作品作風　関西労災病院重症治療部　設計　東畑建築事務所…22　施工　岡本組
農協共済別府リハビリテーションセンター　設計　内藤建築事務所…24　施工　フジタ工業　佐藤組
星ケ丘厚生年金病院　設計　安井建築設計事務所…26　施工　戸田建設

特集＝新用途地域制と環境

[1]新用途域制の意義と役割――その期待されるもの

新用途地域制の意義と役割 ……山本　勝…30
民間ディベロッパーより ……中村　淳…33
新用途地域制の批判 ……白石　博三…36
もめる用途地域制 ……武曽　一郎…38

[2]新用途地域の指定のプロセスと今後の流れ

新用途地域の指定のプロセス ……三浦　咲男…41
用途地域・後に来るもの――都市計画の今後の考え方 ……蓑原　敬…44

[3]新用途地域制による新制度

容積制――神戸の例にみる ……朝日　晃男…46
高度地区制 ……甫出　裕紀…49
総合設計制度 ……岡村　雅央…51

座談会　村野藤吾先生を囲んで―建築家に話を聞く会―……若い会員の集い小委員会…53

若い会員の集いレポート　高層ビルを考える―第１回大阪大林ビルディング，第２回大阪国際ビルディング……62

技術の頁 129.　計画部門　日照環境評価のための日照指数算定図表……関原　猛夫…63

日本建築総合試験所だより 12.　合成樹脂エマルション砂壁状吹付材について／藤川　慧……67

月報　日本建築協会月間の動き（昭和48年６月分）……69

表紙デザイン・島村　昇

編集人　松井昭光
印刷　昭和48年８月20日
発行　昭和48年８月25日
発行人　福中定三郎
発行所　(社)日本建築協会
大阪市東区北浜３－37
電 大阪 231－9648
振替口座 大阪 39975
印刷者　網野栄
印刷所　㈱研文社
大阪市北区堂山町66
電 大阪 361－0351
売価　１部 400円・送料共

昭和48年度編集委員会（順不同）

編集委員長　山田幸一　彦谷邦一　渡辺恵

編集理事　井上滉　五十嵐定義　尾亀清四郎　北垣智造　小西坤　白井周二　菅谷健児　高野考二郎　谷口尚武

事業委員より　窪田祐　大橋一雄　三品哲夫　小泉豊　西村良平

編集委員　日下正基　浜田学昭　辻文三　海道清信　入野義照　石田繁夫　小川克彦　上田信也　谷淳之介　大蔵勝　八木俊樹　西野孝　肌勢良雄　生田隆史　宮坂一也　青木信介　口羽竜二　江藤暢英　川本勝　佐伯晃　松林功　池田敏夫　村田光平　竹山清明　増淵昌利　加藤照男　河目浩吉　上野登統　浅見元

■次号特集予告－構造と施工
■10月号特集予告－仕上と材料

kobori
ライフディベロッパーを志向する

1973年度
小堀住研賞
賞金100万円
小堀「住研ホーム」設計図案懸賞募集

1．趣旨

われわれは、さいきんあらゆる家庭生活機器の進歩、普及によって、より豊かな生活を楽しむべく、いつの日かマイホームを建設せんと、日夜夢みて努力している。

このときにあたり「快適な生活を営む」には、いかなる「住まい」であるべきか。わが国の古き伝統のよさと、現代の生活様式を基調として、将来の日本住宅の帰趨の針路を示すべきものであることを要望する。

なお、入選作のうちより、優秀なるものを「住研ホーム」として建築する予定でいる。

2．主催　小堀住研株式会社
協賛　株式会社　新住宅社

3．応募資格

特別な資格は問わない。

4．応募設計要件

①規模・様式　独立住宅。２階建てを望むも平家建てでも可とす。
②延面積　（A）80㎡～100㎡
（B）100㎡以上～120㎡
③家族構成　４～５人家族として想定のこと。
④構造　木造とす。
⑤敷地条件　敷地面積　180㎡～250㎡のフラットなる敷地で、それに面する道路は自由に想定するものとす。
⑥設備　テーマに対応できる設備を備えること。
⑦建築工費　3.3㎡当り20万円～25万円とする。
但し、本体に附帯する設備は一切含むものとす。

5．所要図面及び設計説明

①配置図　縮尺　1：100
②平面図　1：50　（北を上方に記入すること）
③立面図　1：50　２面以上
（透視図にあらわれざる側を含むこと）
④断面図　1：50
⑤透視図　外観及び内部（着色仕上げ）
模型写真を添付するも可。
⑥設計説明　わかり易く簡潔にまとめること。

6．入選者の人数ならびに賞金

①「小堀住研賞」100万円。賞状　記念品。１名。
（A、B両組のうち最も優秀なもの）
②優秀賞　40万円。賞状　記念品。２名。
（A、B両組１名ずつ）
③入選　20万円。賞状　記念品。４名。
（A、B両組２名ずつ）
④佳作　総額24万円。賞状　記念品。若干名。
（24万円を佳作者に配分）

7．審査員　（50音順）

大阪大学教授　工学博士　足立　孝氏
日本大学講師　建築家　神谷　正信氏
大阪市立大学教授　工学博士　白木小三郎氏
東京工業大学教授　工学博士　清家　清氏
杉野女子大学教授　建築家　高田　秀三氏
（株）創研設計事務所　代表取締役所長　中野順次郎氏
（株）新住宅社　代表取締役　小林　清氏
小堀住研（株）代表取締役社長　小堀　林衛氏

8．締切期日　昭和48年９月17日（月）

①持参の場合は正午まで。
②郵送の場合は当日消印有効。
③提出先（〒530）大阪市北区曽根崎上４－20
大阪駅前第一ビル２階
小堀住研株式会社
「住研ホーム」コンペ係宛

9．入選者発表

審査の結果は本人に、10月中に通知するとともに次の雑誌に発表する。
●「新住宅」11月号　（10月15日発売）
●「すまいりんぐ」7号（小堀住研機関誌、11月発行号）

10．応募心得

①ＪＩＳ、Ａ1版、白色画用紙1枚に図面及び説明書を鉛筆又は墨書、透視図は彩色仕上げとす。
②図面には暗号を右下隅に附し、別に暗号ならびに住所、氏名、年令、職業（勤務先とも）を記せる紙片を密封し、封書の表面に前記暗号のみを記入し、紙筒に同封のこと。
③応募作品は未発表作品に限る。
④応募作品に関する一切の権利は、小堀住研株式会社に帰属するものとす。
⑤応募図案は一切返却しない。
⑥応募図案を実際に建築する場合は、小堀住研設計部と共同で、実施設計を行なう場合がある。
⑦質疑応答は原則として受付けない。規定外の問題は応募者の自由決定とする。　以上

△
●住所
●氏名
●電話
●年令

〒530
大阪市北区曽根崎上4－20
（大阪駅前第一ビル）
5
小堀住研株式会社
「住研ホーム」
コンペ係行

設計図案募集の資料をご希望の方は、資料請求券をハガキに貼って左記の要領で本社へご請求ください。

kobori
明日の住まいを研築する
小堀住研

資料請求券
建築と社会
8月号



海外写真

地中海住環境　2
アビラ　(Avila)

写真と文　鈴木良介



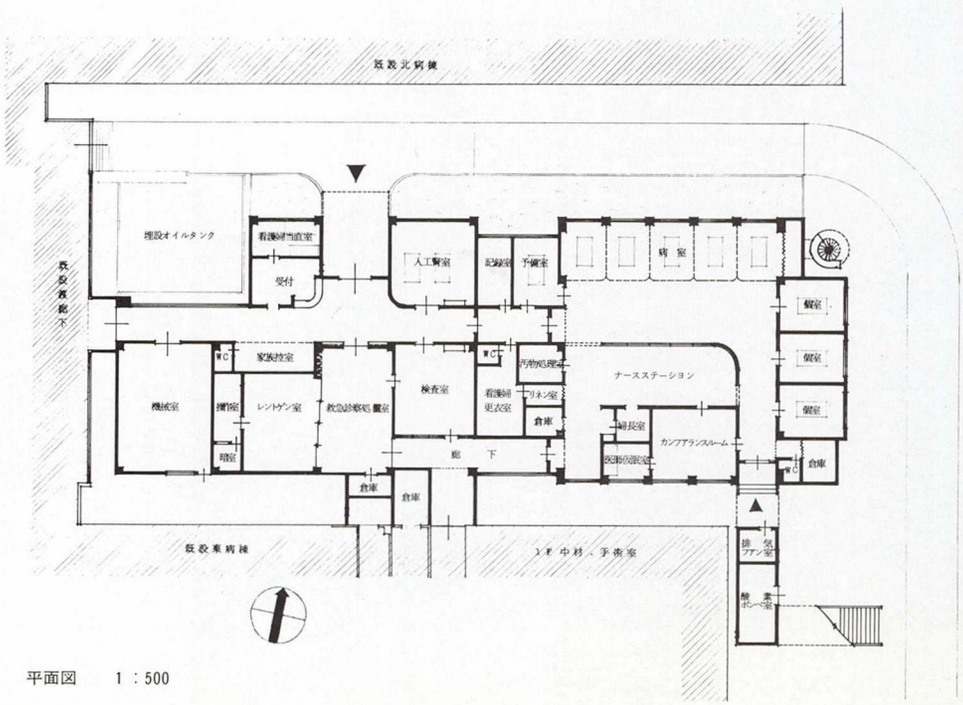


アビラはスペインの首都マドリッドから北に車で2時間程のところにある古い町である。8世紀、ムーア人の建造にはじまる延々3000mにおよぶ城壁がこの町を取囲んでいる。中世、ここは織物、皮革、陶器、鉄工などで栄え、貴族、軍人あるいは聖職者でもあった技術者を除いても2万人の住人がいたといわれ、人口の増加と共に城壁の外へと発展していったが、商工業繁栄の重要な部分を占めていたユダヤ人やムーア人の追放とともに衰退して、忘れられた1つの地方都市となった。このことが幸いにも、今ここを訪れる者を当時の世界に誘いこんでくれる。静かで地味なこのおちついた町並のなかで私はそれを感じたのであった。城壁の外に沿うように建つ農家風の家々の向うには、雑草にみまがう貧弱な立枯れの麦畑が起伏の多い丘に果しなく続き、夏の太陽にまばゆく黄金色に輝いていた。

関西労災病院重症治療部
(ICUおよび二次救急)

尼崎市稲葉荘３丁目１番69号

設計　東畑建築事務所
建築　岡本組
電気　大阪電気暖房
空調　斎藤省三商店



平面図　1：500

概　要

建築面積	863.718 ㎡
延面積	823.066 ㎡
構造	ＲＣ造平屋
工期	47.9～48.2





設計者のことば　　土肥耕一・三宗司郎

この建物の院内名称は重症治療部棟であるが、通称I.C.U.である。このI.C.U.はいわゆる院内I.C.U.のみならず外来救急に対しても門を開いている点が特徴である。このタイプの現在までの例としては、阪大病院災害外科のI.C.U.、兵庫県立西宮病院交通災害外科のI.C.U.があるのみで、実例が少く、また、文献も少ないため、なによりも、本I.C.U.病棟の医長になられた鵜飼先生はじめ、医師，看護婦の方々との打合わせに焦点を絞った。そこで、本I.C.U.の考え方、治療、看護の考え方、実際の処理のFlowとバリエーション、医療機器等を教わり、その詳細については、設計サイドで調査し、理解を深めながら計画をすすめた。

本設計で特に留意した点は、Flowのバリエーション《患者（内科系、外科系、救急外来)・医師・看護婦・家族・検体・医療機材・薬品・給食・カルテ等・エネルギー（給排水、空調、蒸気、ガス、医療用配管——酸素、圧縮空気、吸引——)》とそのFlowに則ったゾーニング（Dirty Zone・Semi-Clean-Zone・Clean Zone)を構造化するときに、それら機能を素直に表現した空間構造を求めた。そして、マクロな空間構造からディテールに至るまでの形態、色彩およびテクスチャーの把握において“空間感情”を大切にした。ただ、増築である難しさから、動線が少し複雑になったのは残念である。

今後の運用において、このI.C.U.が予期し得なかったいかなる問題点を発生せしめるかについて、私達は関心を持っている。

【レポート　“機能と形態の整合性”について　（ 9 ページ)参照】

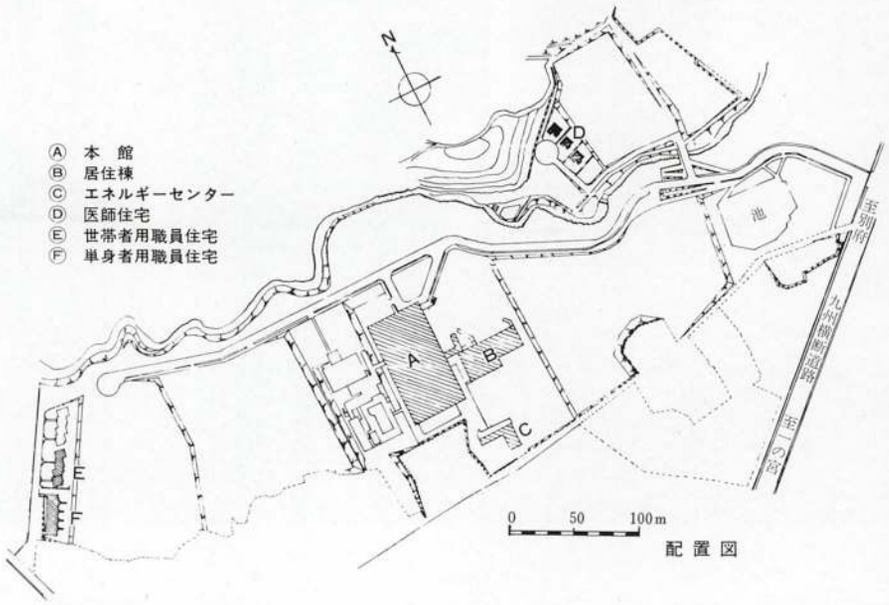


別府リハビリテーションセンター

大分県別府市大字鶴見字中山田1026

設計監理	内藤建築事務所
建　築	フジタ工業
	佐藤組
電気設備	中国電気工事
衛生設備	東洋熱工業
空調設備	三機工業

本館および居住棟	構　造　RC造3F
建築面積　5,722 ㎡	工　期　46.4～48.3
延床面積　7,897 ㎡	敷地面積　57,500 ㎡



配置図

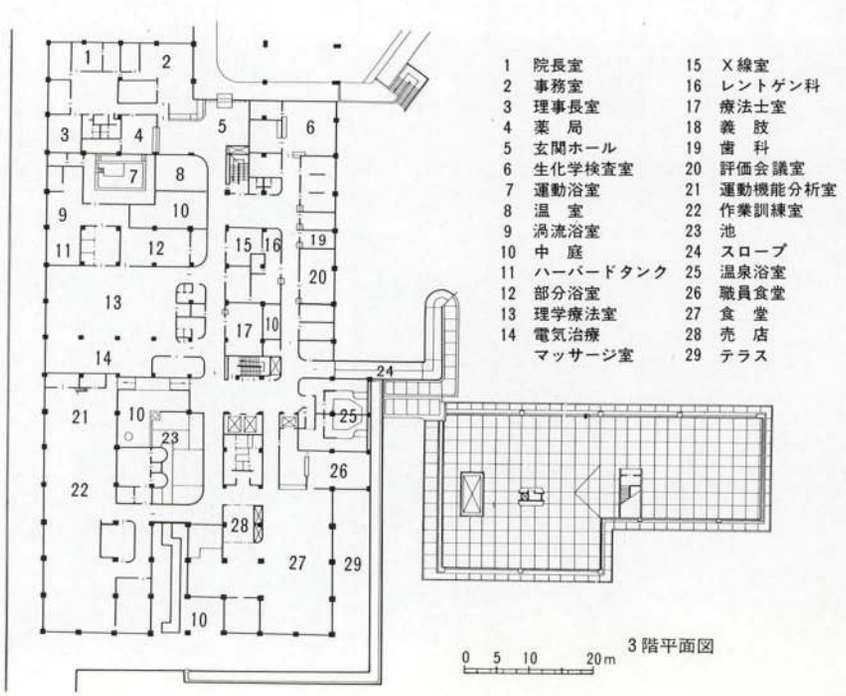
設計者のことば

激増しつつある交通事故や労働災害ならびに脳卒中や神経疾患による身体障害者に対して，別府リハビリテーションセンターは，社会復帰のための治療，訓練等を総合的におこない，社会復帰を促進しようとする施設です。センターは重度身体障害者更生援護施設ですが，医療的リハビリテーションから社会的・職業的リハビリテーションまでを一貫して，より効果的におこなおうとするもので，このために医療法にもとづく診療部門を設置してあります。

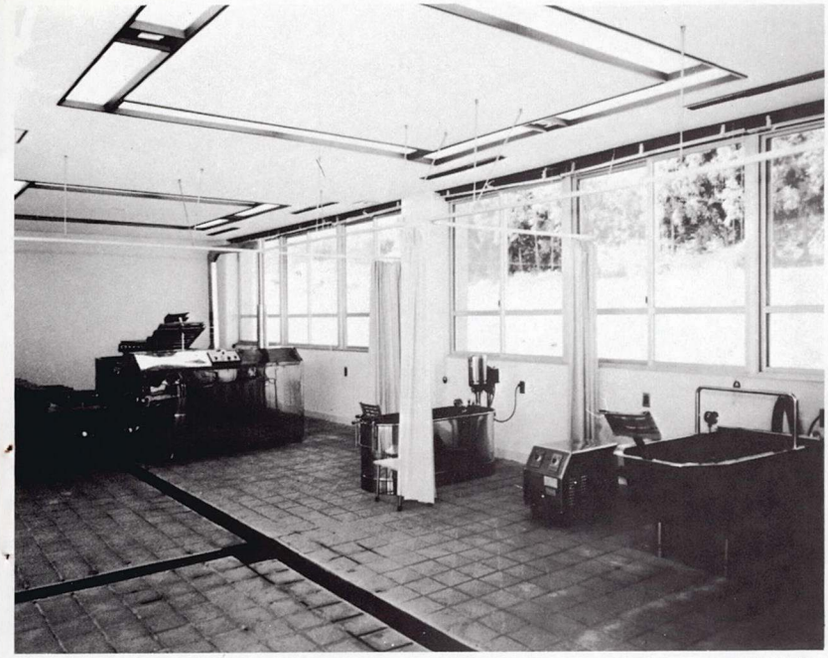
訓練・診療部門とも最新の訓練・治療器具を備え，運動浴室・言語訓練室・運動機能分析室等を整え，最新の理学療法・運動療法・作業療法・言語療法などがおこなえる設備が完備されています。

建築計画においては，つねに，自然環境との調和をモットーに考えて，周囲の景観と調和する建物構造，配置に意を払い，広々とした明るいセンターのイメージづくりをしました。

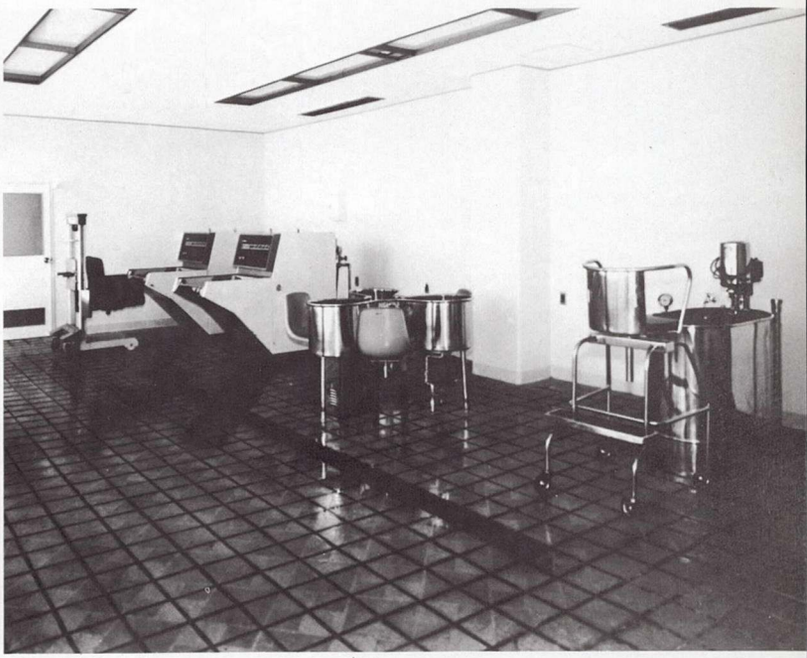
建物は入所者の生活の場として，できる限りの設備を設けて（特殊便所，各所における手スリ等）便宜をはかりました。また，居住棟には，世界的に珍しい自然浴槽や空気マット式ベッドがあり，各室内には便所，洗面所を設け，入所者に快適な訓練ができるよう細心の注意がはらわれております。



3階平面図



水治療室



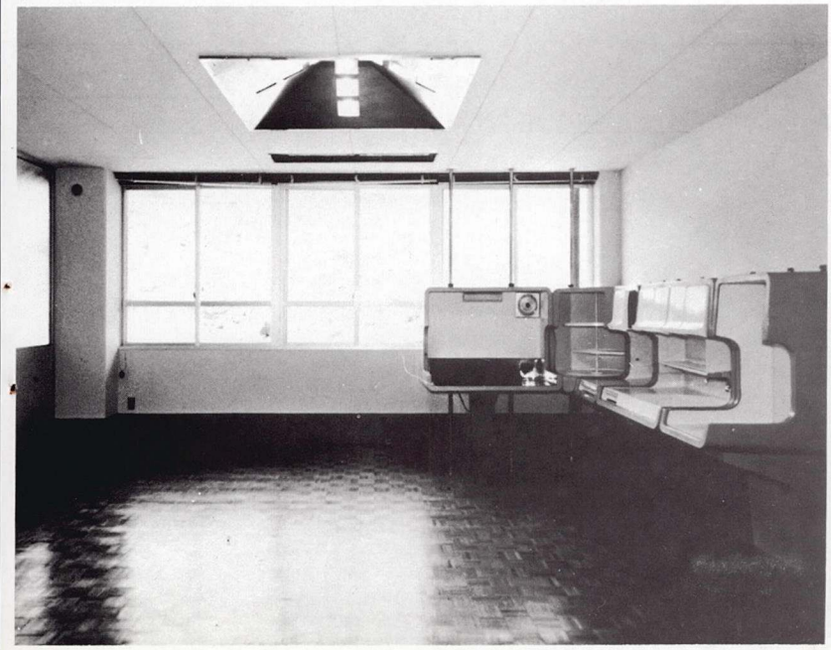
部分浴室



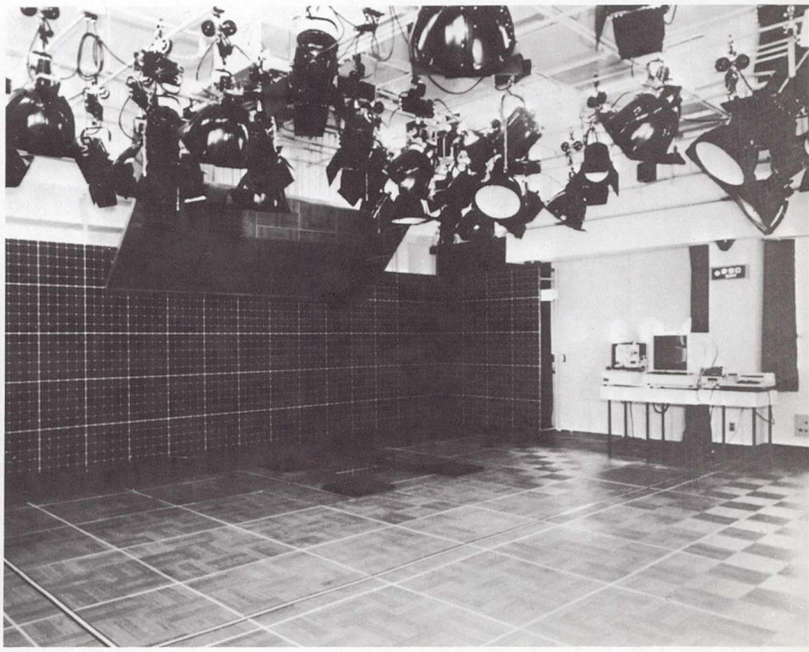
作業療法室



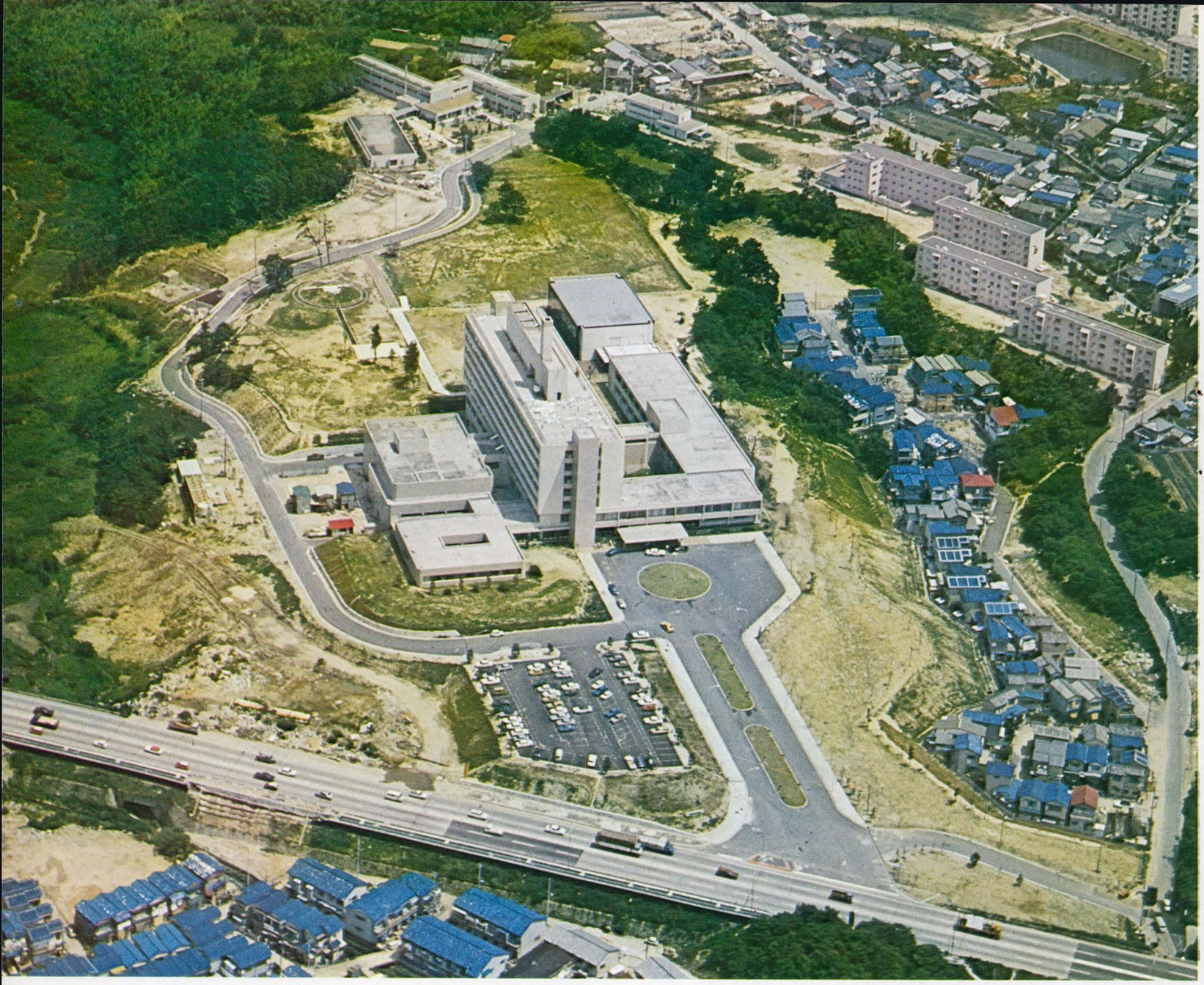
理学療法室



日常生活訓練室



運動機能分析室



星ヶ丘厚生年金病院

枚方市星ヶ丘4丁目8－1

建　築　戸田建設
給排水　西原衛生工業所大阪店
空　調　三機工業
電　気　中央電気工業

施　主　厚生省社会保険庁
設　計　安井建築設計事務所

概　要

敷地面積	100,609.50㎡
本　館	
建築面積	6,026.60㎡
延面積	22,654.02㎡
構造規模	SRC造7F/B1F
工　期	45.12～47.3
体育館	
建築面積	1,215.89㎡
延面積	1,215.89㎡
構造規模	S造1F
工　期	47.4～48.4

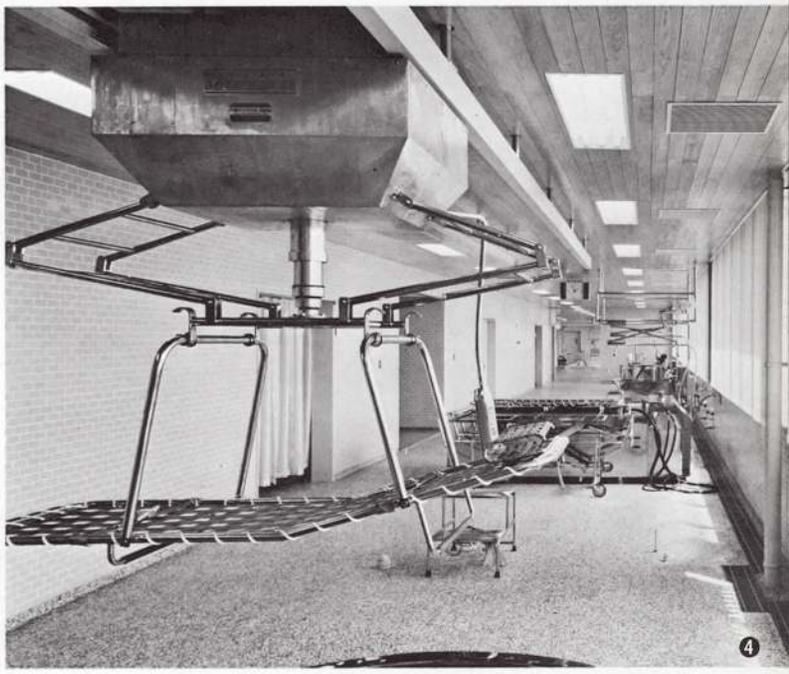
設計者のことば　佐野正一

リハビリテーションという言葉はまだ10年くらいの歴史だ。病気によって治療後の長い養護や機能回復のための特殊な療養が必要であることは今にはじまったことではないが、悲しいことに交通事故その他不慮の都市災害などによって近年この種の医療要請が急増しきわめて重要な意味をもつようになり、従来病院の使命とされた保健、予防、治療とならんでリハビリテーションの強化が緊急の課題になった。この病院はリハビリテーション専門の病院として関西では最初の組織的で高度な医療施設として計画された。星ヶ丘病院はもと国立結核療養所であったが結核患者は最近は激減しておりその約3万坪の敷地は大阪～京都の中間にあって国道1号線に面する地の利もあるので時代の要請に従ってリハビリテーション病院として転換されたものである。敷地内施設は(1)病院－病棟500床、中央診療、リハビリテーション診療、患者用体育館・機能回復訓練、(2)屋外訓練施設、(3)宿舎－職員および看護婦宿舎の3群にわかれ、とくにリハビリテーション関係の治療と訓練施設には現在わが国の最も進んだレベルのものが用意されているのが特徴である。工事は昭和47年度で大半完了し今年度中に供用開始となる予定で、あわせて造園、義肢製作所などの工事を進めている。将来リハビリテーション学校・研究所・といった施設の計画もある。患者は近畿地域内各地の救急病院等一般病院での診療によってオリエンテーションをへて収容されるしくみである。建築設計は厚生省社会保険庁の指導で進めてきたが、従来の病院とは違ったタイプをつくりだそうとして多くの努力を払った。直接のつながりではないが大阪市大栗原研究室のリハビリテーション病院の提案に多くの示唆を受けたことを付記し謝意を表したい。



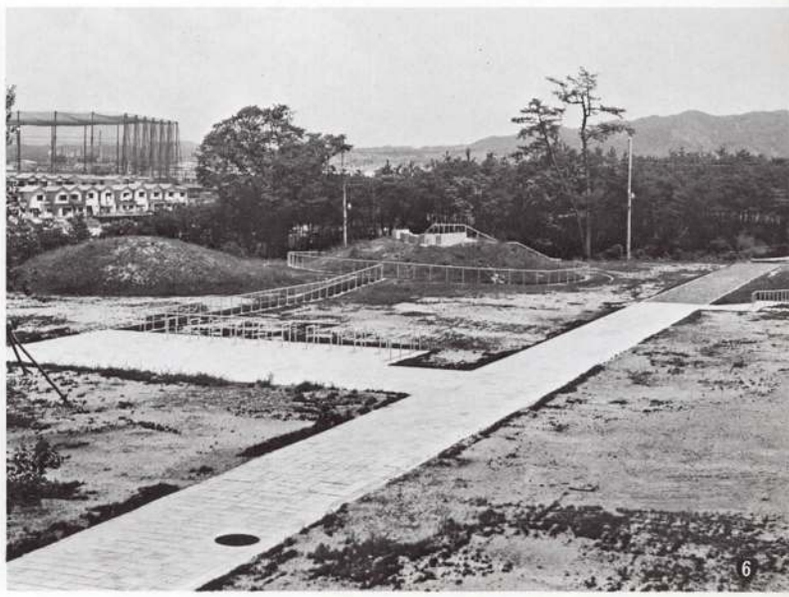




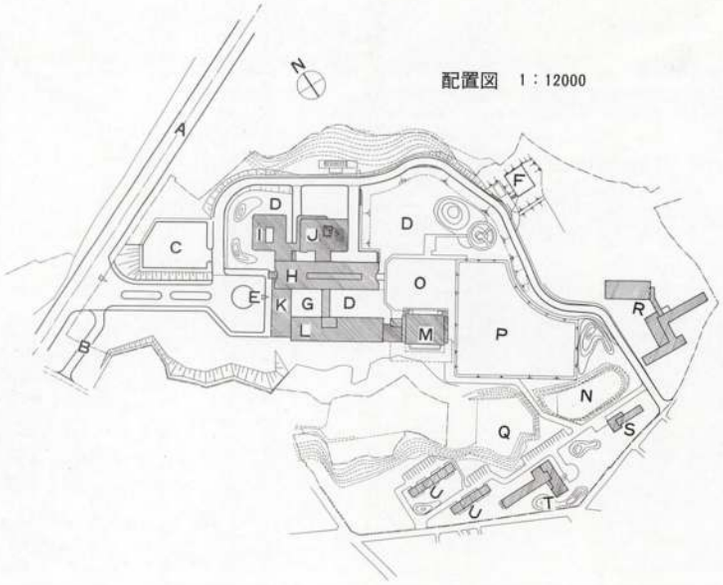


❶ 機能訓練室　❷ 作業療法室
❸ 水治療室　❹ 水治療室
❺ 体育館　❻ 歩行訓練場

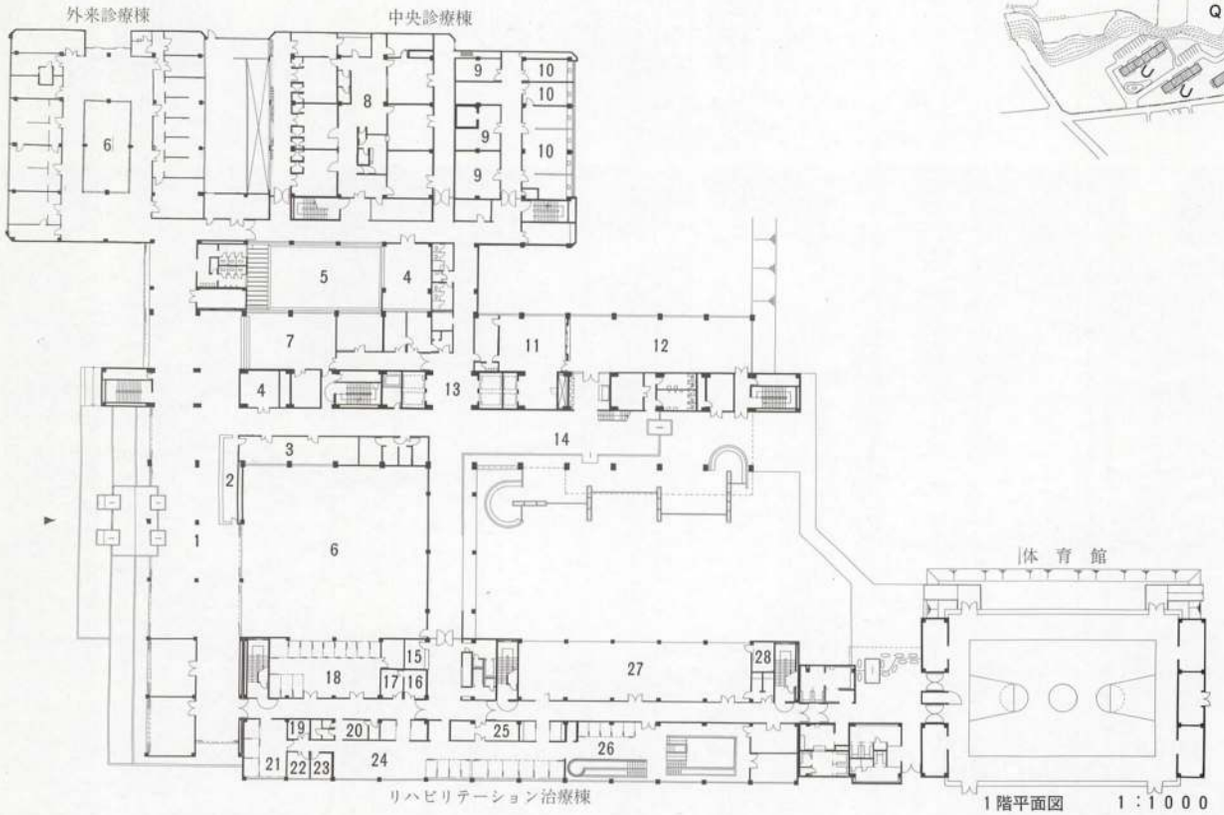




A	国道1号線	H	本館(病室)	7FBI	O 歩行訓練場
B	迂回進入路	I	外来棟	IF	P 屋外訓練広場
C	駐車場	J	中央診療棟	2FBI	Q テニスコート
D	庭	K	管理棟	2F	R 結核病棟
E	入口	L	治療棟	2F	S 独身職員寮
F	浄化槽	M	体育館	IF	T 看護婦宿舎
G	中庭	N	池		U 職員宿舎



配置図 1：12000



1階平面図 1：1000

1 玄関ホール
2 受付
3 医事事務室
4 機械室
5 屋根
6 中庭
7 薬局
8 レントゲン室(6室)
9 測定室
10 検査室
11 厨房
12 職員食堂
13 エレベーター
14 ホール
15 受付事務室
16 診療室
17 ケースワーカー室
18 集団治療室
19 鉱泥浴室
20 技師控室
21 温熱療法室
22 蒸気浴圧注室
23 乾式浴室
24 水治療室
25 プレースショップ
26 運動浴室
27 機能訓練室
28 VTRモニター室

星ヶ丘厚生年金病院



特集・新用途地域制と環境

1　新用途地域制の意義と役割――その期待されるもの

新用途地域制の意義と役割／山本勝

民間ディベロッパーより／中村淳

新用途地域制の批判／白石博三

もめる用途地域制／武曽一郎

2　新用途地域の指定のプロセスと今後の流れ

新用途地域の指定のプロセス／三浦咲男

用途地域・後に来るもの―都市計画の今後の考え方／蓑原敬

3　新用途地域制による新制度

容積制――神戸の例にみる／朝日晃男

高度地区制／甫出裕紀

総合設計制度／岡村雅央



新用途地域制の意義と役割

山本　勝

1. 都市計画の流れ

大正8年に制定された，旧都市計画法および市街地建築物法が，今回の新都市計画法の改正まで，約50年間の半世紀に亘る永い期間，わが国の都市づくりの，根本思想として，運用されてきた。

この旧都市計画法では，都市計画とは交通，衛生，保安，防空，経済等に関し，永久に公共の安寧を維持し，または福利を増進するための重要施設の計画であると定義されていた。この定義に従えば，用途地域，専用地区などの地域・地区も，道路や公園と同様に施設の計画として定められていたこととなる。地域地区を施設の計画とみなすことは，法律的な擬制とはいえ，常識的にみて不自然な感があったことはいなめない。また旧法では，都市計画の決定権限が国にあって，用途地域については，とくに市町村の申し出に基づいて国が定めることとされていた。一般市民にとっては私権の制限が課せられるだけで，直接的メリットのない用途地域は，その重要性が認識されない段階では，とかく敬遠されがちであり，大阪府下においても，市街化区域の設定以前に用途地域制を施行していた市町村は，45市町村のうち26市町村に止まり，とくに市街化の現象が激しかった昭和30年代の前半では，大阪市と周辺都市の14市にのみ指定されていた状態であった。

また，用途地域の基本的な考え方として，都市計画は百年の大計にたって計画するものであるから，少なくとも20年後の土地利用計画をみきわめて指定する方法が最良であるとされ，応々にして，土地利用計画図が，すなわち，用途地域図であるという思想が取られていた。

これが，新都市計画法が制定されるとともに，都市計画の内容も整理され，つぎの4種類に分類することによって，それぞれの性格を明らかにした。

i）市街化区域および市街化調整区域
ii）地域地区
iii）都市施設
iv）市街地開発事業

そのほかに，都市形成のチェック手法として，開発許可制度の新設が挙げられる。

都市計画の決定権限も，都道府県知事および市町村に大幅に委譲され，より市民に密着した都市計画になるよう公聴会の制度が設けられた。

また，都市計画の考え方も，固定的にとらまえるよりも，現実の都市の日夜の変化に対応するため，都市が絶えず変化することを前提として，その変化に対応しながら絶えずその時点で最善の方向に向かって進む弾力的な計画の考え方に進んだ。このことは，おおむね5年ごとに基礎調査を行ない，都市計画の再検討を義務づけている点および市街化のプログラムとしての性格をもった，いわばタイム・ゾーニングともいえる市街化区域の設定について，土地利用の変化，その他経済的，社会的な条件の変化などについて，相当程度の精確さをもって予測できる最長の期間と目される10年間をその目標期間として定めていることからも，都市計画の考え方が弾力的になったことを裏付けている。

過去のわが国における都市計画の歴史をみると，都市計画の

手法も時代によって大きく変ってきている。

明治時代に東京の都市改造計画ができた以後，都市計画はもっぱら道路，橋梁，運河などの基幹的都市施設の建設が主体で，土地利用の規制という考えかたは，ほとんどみられなかった。

それが大正8年に都市計画法ができ，つづいて市街地建築物法が成立して初めて都市計画の法制がととのい，土地利用規制まで含めた都市計画が行なわれるようになった。しかし，その後ごく最近まで都市計画の事業といえばほとんど道路の建設と土地区画整理事業だけで，目標とする土地利用の実現は主として地域地区による規制にたよっていた。ところが昭和30年代に入って，経済成長が加速化し，都市化の波が激化するとともに，建築行為の規制と誘導だけでは，対処することが困難となってきた。また一方では，大規模な宅地造成や水面埋立などを効率的に実施するための技術的，経済的基盤も次第にととのってきたため，道路や公園などの都市施設の整備だけにとどまらず，住宅その他の建築物の計画まで含めての市街地を開発する大規模な住宅団地や，建築物の建設までは行なわないにしても土地利用計画に即した建物を直ちに建築できるような形に整備された宅地を，直接需要者に供給する市街地開発事業が盛んになってきた。とくに最近では公的機関のみならず，民間企業によっても大規模な住宅団地や流通・工業団地などの開発が行なわれるようになっている。こうした大規模な開発事業の比重が高まるにつれ，土地利用計画の考え方にも，従来の規制，誘導を主体とする方法から，もっと積極的に事業によって，直接，目標とする市街地をつくり出していくプロジェクト主導型への考え方の転換がみられるようになってきた。このようなプロジェクト主導型の都市計画においては，地域地区もプロジェクトの計画内容が確定した段階で，その詳細設計にあわせて詳細な専用的規制に変えることが必要であり，この面でも地域地区の弾力的な運用の必要性がある。

また，先に述べたように，都市が絶えず急速に変化していく現代にあっては，都市の将来像を，そのまま規制力をもった法定計画として固定した場合，現況との間に非常に大きな隔たりが生ずることになり，とくに土地利用規制の面で現況と計画との間に大きな矛盾を生ずることとなる。そこで都市の将来像となるマスタープランと規制力をもった法定計画とを分けて扱う考え方がでてきた。つまり法定計画としての地域地区をマスタープラン実現のための手段とみなし，時々刻々変化し発展していく都市の状況に対応して，現在の都市の機能や環境の保護改善を図りつつ都市の将来像を実現するのに最も効果的なように，その時々にふさわしい土地利用の規制を行なうために法定計画があると考えられる。一方，マスタープランは，このような手段としての規制力をもった法定計画における土地利用や各種の都市施設計画相互間に全体としての斉合性をあたえ，長期的な見とおしの裏づけを与える役割を果すこととなり，マスタープランの作成過程および位置づけが相当重要なものとなる。

たとえばある地区の土地利用の現況が都市全体の構成などからみて望ましくないものであっても，現況の土地利用の状態を全く無視して，これを禁止するような規制を行なうことは実際的でない場合が多い。では，これを全面的に再開発することも簡単ではないとすれば，土地利用を望ましい方向にむかってスムーズに変えていくためには，段階的に土地利用規制の内容を変更していくことや土地利用の転換を誘導するような公共施設の整備，土地利用の転換の始動条件を生みだすような拠点的な地区の再開発といったさまざまな方法を総合的に組み合わせて活用していくことが必要となる。このような目標を実現するための，戦略的なプログラムやタイムプログラムもマスタープランのなかに必要となり，現在の土地利用規制計画も，どの段階での規制計画であるかがマスタープランのなかに必要である。

2. 新用途地域制のねらい

今回の新用途地域制が法制化されるにあたっての背景となる都市計画の流れや考え方については前述したとおりであり，この結果，法改正の内容としては，すでに各方面で述べられているごとく，つぎの列記したものとなる。

a．基本用途地域が4種類から8種類
b．容積率の全面適用
c．北側隣地境界線から斜線制限の住居系地域での新設
d．第1種住居専用地域以外の建物の絶対高さの撤廃
e．空地地区の廃止
f．特別業務地区の新設

等々が挙げられ，旧用途地域制と比較した場合，おのおのに理由のある改正のされかたがなされている。

たとえば，現代の都市の土地利用の複雑さに，基本用途地域が4地域では，良好な市街地の形成に誘導・規制する手法としては，余りにも粗雑であり，結果として，雑然とした市街地の

形成を助長してきたことになっていたため，今回の基本地域が8地域になったことは一歩前進したと考えられるが，いまだ，十分であるとはいい難い。

つぎに，容積率の全面適用であるが，旧法では，各地域ごとに絶対高さ制限を設けることによって，ある意味での建築物の容量規制がなされていたが，今回のように，市街地形成の最大原因である建築物を，明確な容積率でもってボリューム規制を図り，市街地の都市施設の状況および環境状況との斉合性を図ろうとした点は，高く評価されるだろう。このことは，建築技術の向上により，わが国にも高層建築群が出現するようになったことも，一つの原因であるが，市街地形成にあたって，その容量および密度がつねに問題であったため，適正な市街地形成に対して良好な手法となることを期待している。

以上，法的改正のねらいが，いろいろと挙げられるが，これを一つずつ分析するのは，別の機会にゆずるとして，ここで，指定の過程上のねらいとして，ぜひ触れておかなければならないことがある。

用途地域の案の段階で，その案の内容を公開し，今回の改正された主旨，制度の内容等も同時にＰＲし，住民に意見を聞いたことがある。わが国の都市計画の歴史のなかで，都市計画案の段階で，印刷物にし各戸配布まで行なったことは，初めての行為であり，都市計画への住民参加に新しいプロセスを切り開いたことは，世界のなかでも類を見ないことであったと思う。とくに，我田引水と受け取られるかも知れないが，行政側が，新用途地域について延200回以上の説明会を開き，ＰＲの，より徹底に努力したことは，読者諸兄に認めてもらいたい事柄である。このねらいは，旧用途地域が余りにもＰＲ不足で，ほとんどの住民が，自分の住んでいる所，働いている所が何地域に指定されているのか知らずにいたことによる市街地の混乱防止と，元来，用途地域指定の目的である適正で良好な市街地の土地利用計画達成のための誘導，規制手段であるから，住民の十分な理解と協力なくして取れ得る手段にはならないからである。この結果，住民から指摘または要求のあった事項を大別すると

a．都市計画の総合性のあり方
b．都市環境向上への要求
c．自己所有地の規制の回避
d．用途地域制と都市の土地利用計画の関係
e．自己の利害得失の事柄

などに分けられる。このなかで，とくに，社会的要求でもある都市の環境保全，そのうちでも住環境の保護が地域住民ぐるみの運動として大きくクローズアップされてきた。

これを大別すると

i　日照の保護
ii　建物用途の混在による住環境悪化の防止
iii　周辺地域の乱開発の防止
iv　地域内公害工場の撤去移転
v　広域公害（車騒音，航空機騒音，大気汚染等）の対策

などに分けられる。また商工業界および土地所有者から，つぎのような観点からの指摘または要求が出された。その内容は

i　住居系地域の指定による不適格建築物扱いの回避
ii　周辺の住居系専用地域指定による環境からの危惧
iii　騒音系規制の強化への危機感
iv　近郊地域の移転のスムーズ化
v　住居系指定による商業振興への障害
vi　商業系地域指定による建ぺい率の増大
vii　容積率指定による地価への影響

などである。これらの要求および指摘は，ある地域においては，全く相反する形で住民および商工業界両者より提案され，市原案作成の過程で最も大きな問題となった。

このようにいろいろの問題が提起されたが，これらが，一歩一歩，都市計画を前進させる足掛りとなっていくことと思うし，今回の新用途地域制の一番大きな意義と役割があったと思う。最後に，新用途地域制のもつ大きな問題点にふれておくならば

a．あくまでも建築物の単体規制であって，市街地建築物の総量規制ではなく，“木を見て，森を見ず”の感が強い。
b．用途規制と形態・容積規制と余りにも単一に取り扱っている。
c．用途規制の許容範囲が余りにも広すぎて，どのような市街地の土地利用を想定しているのか明確でない。
d．用途地域と都市施設整備の斉合性。
e．土地利用純化の達成方法，とくに不適格建築物の取り扱いについて。

等々，法自身がもつ問題点と，運用上の問題点に分かれるが，今後，行政側の者として，一つずつ解決していく所存であるが，協会諸兄の絶大なるご指導とご支援をお願いして，おわりとしたい。

（やまもと　まさる　大阪府土木部計画課）

民間ディベロッパーより

中村　淳

環境破壊に挑戦し，真の豊かな国土建設を目指すわが国は，日本列島改造の名のもとに，幾多の国土開発事業の推進に当っているが，とくに人間をとりまく環境の改善については積極的な姿勢が要求される。

このような状況において，民間ディベロッパーは，都市再開発，住宅地開発などの事業を通して，積極的に都市計画に参画し，都市機能の回復，純化のもとに人間のための都市づくりに取組まなければならない。

■民間ディベロッパーの立場について

ディベロッパーという言葉は，わが国においては明確な概念で整理されていない。一般には（ディベロッパー）＝（大規模宅地開発業者）という解釈が多いようであるが，今回の起筆に当り，かつて本誌（1970年10月号）の「特集・ディベロッパー」のなかの，田村真二氏の「ディベロッパーと開発計画システム」の立場をとりたい。

すなわちここでは，ディベロッパーとは「開発事業を目的としてそのために必要なすべての作業，すなわちプロジェクトの企画・計画・設計・生産に亘るプロセスにおいてあらゆる要素をコーディネイトしつつ，事業を進展させ完成させる主体」として捉えることにする。

私たちは建設業という一つの組織のなかで開発行為を行っており，企画・計画・生産の一連のトータルシステムのなかで，企画力，技術力，資金力を主柱とするシステムオルガナイザーとしての役割を果していると考える。

■新用途地域制をどう受けとるか

太平洋ベルト地帯に偏重する人口集中は，都市をとりまく環境悪化に拍車をかけているが，このような都市機能の麻痺，都市災害の危険な状態，都市公害による環境破壊など，都市計画に起因する都市問題が非常に多い。

都市計画は本来，健康で文化的な都市生活と機能的な都市活動を確保すべく，合理的な土地利用，都市施設の整備，市街地開発事業等を行うことを定めたものであり，民間はこの目的達成の措置に協力し，良好な都市環境の整備に努めなければならないことがうたわれている。

したがって民間ディベロッパーは，都市計画にのっとり，都市のマスタープランを具現する積極的な姿勢をもたなければならない。

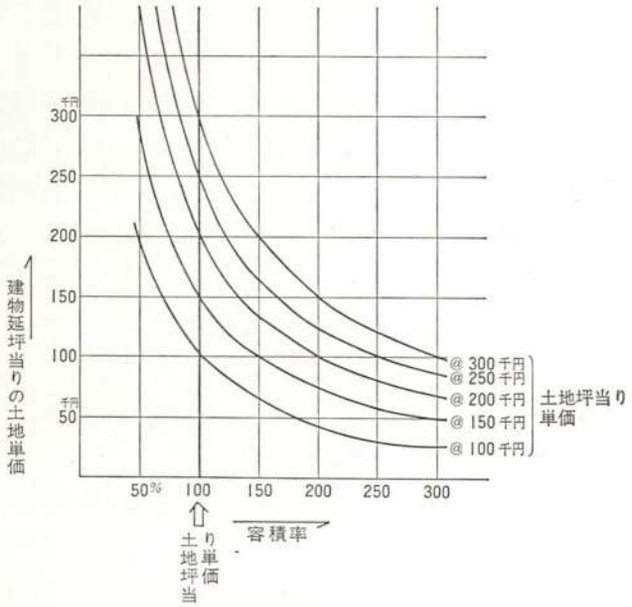
一つの開発事業を企画立案するとき，開発計画システムのトータルフローのなかで，都市計画は，開発計画の制御要因として強力に作用するが，なかでも用途地域制に関する制御要因は，とくに開発事業成立の第1フィルターとなる場合が多い。それは用途地域内の建物の用途の制限が建築基準法によって定められているため，土地利用の採算性からだけでは，地価負担力のある業種を優先させることができず，事業の成立性を苦しくしていることがあるからである。

このように，ディベロッパーの事業成立性の立場から今回の新用途地域制をみると，そこには一長一短があるが，まずメリットとして受取られるものとしては，従来の4つの用途地域で行ってきた目のあらい用途制限に対して，とくに居住環境を重視した新用途地域制の8地域の指定は，都市機能の純化，都市環境の改善などの面で有効な制御フィルターとなり，利益追求のみに走る民間ディベロッパーに対しては，乱開発防止のための強力な歯止めとなることである。

また都市のマスタープランに適合する民間ディベロッパーの開発事業にとっては，都市計画の目的達成に協力する立場をとることにより，地域住民のコンセンサスを前提とした事業の遂行が可能になることである。

一方，新用途地域制が民間ディベロッパーにとってデメリットとなるものとしては，開発事業の採算性の面からみると，市街地の高騰している地価と，都市計画に基づく容積率との事業収支バランスの問題がある。

都市計画の目的達成に協力するとはいえ，民間ディベロッパーは何といってもやはり企業である以上，利潤の追求は大原則であり，開発事業の最終バランスにおいて適正な採算ラインを確保しなければならない。



容積率と建物延坪当りの土地単価との関係

そのため，当該地の地価に対して容積率の指定が低い場合には，建物単位床面積当りの地価負担額が増大し，地価負担力のあるごく限られた業種を除いては成立困難となる。その上，用途地域制による建物用途制限フィルターを通すと，なお一層民間ディベロッパーによる開発事業は成立しにくくなり，都市計画の目的達成への協力の場が崩れる恐れがでてくる。

新用途地域制の施行を目前にした今日，いわゆる「かけこみ」といわれる現行法に基づく建築工事の着工状態は，まさにこの両者のアンバランスの穴埋めであり，この新制度が民間ディベロッパーの開発事業におよぼすデメリットの一つであることを示す身近かな実例として理解することができる。

このようにインフレのなかでますます高騰する地価とは無関係に，新用途地域制による建物用途制限と容積率の指定は，われわれ民間ディベロッパーにとっては確かに開発事業の成立をむつかしくしているが，長期的には，土地の最有効利用を評価する立場から，地価と容積率との相関関係はある範囲に収れんするものと思われる。

現在公告されている新用途地域制の8地域を現状の市街地にあてはめてみると，土地利用現状肯定的なところが多いが，安ホテルの乱立する地区に住居専用地域を指定したり，副都心開発の動向にあわせて商業地域を指定するなど，マスタープランを目標に地域指定の色塗りを変えていく姿勢は，今後とも強く打出してほしい。

■新用途地域制に期待するもの

大都市のもつ共通の悩みの一つに常住人口の減少がある。これは大都市への過度の人口集中に加えて，居住環境の悪化がドーナッツ現象となって現われたものであり，大都市周辺地域の無秩序な住宅のスプロールはいまだに衰えをみせない。

大都市周辺のスプロールがある限度を越えると，再び都市にその利便性を求めて常住人口が増加してくるいわゆる「リターン現象」が現われる。東京におくれること数年，大阪においても都市住宅需要増大の兆候がみえはじめている。

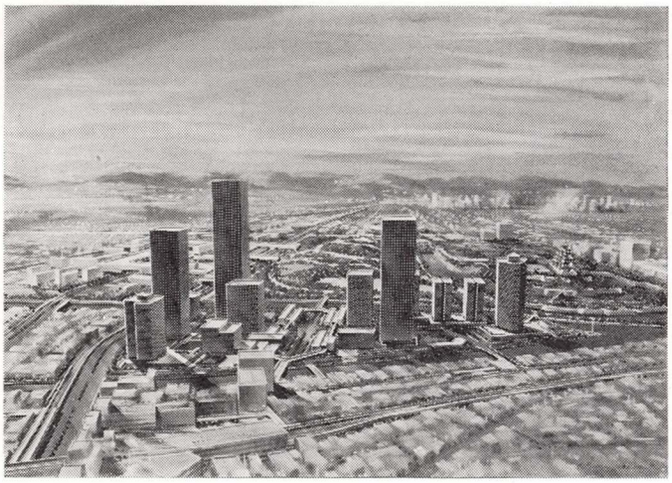
この「リターン現象」をとらえて，常住人口を積極的に伸ばすためには，大都市における住環境の改善が第一にあげられる。この命題を解決するものとして，まず行政サイドの施策の一つが今回の新用途地域制であり，居住環境を保護するという立場から，住居系の用途制限が従来にくらべてとくに強化されている点は十分に理解できる。これはさらに，現在その地区の居住環境を悪化している要因を排除する効果を発揮するものと思われるが，そのためには，その悪化要因が立地性を失なうための他の法規制を二重，三重にかけることが必要であろう。

われわれ民間ディベロッパーが開発事業を企画立案するとき，その地区の土地利用の状態が，あまりにも用途地域の指定内容と隔たりのあることがある。その地区のもつ立地条件から判断すると，明らかに業務・商業施設を中心とする都心型の高度土地利用が可能なところが，工業地域であったり，反対に常住人口の多い住居地域内にいかがわしい安ホテルが乱立したりしている。

これらのギャップについては，その判断基準を市のマスタープランにおくことが必要であるが，このような土地利用のポテンシャルの差のあるところに，民間ディベロッパーの登場が期待されるのではなかろうか。

先にも述べたように，現状肯定的な用途地域制であるが，工場再配置法に基づく大都市圏を中心とした工場転出の動向は，この現状肯定的な用途地域を，柔軟な変化に対応できるものとする強力なインパクトになると思う。

民間ディベロッパーにとって，この工場転出の動向は都市再開発事業の恰好の材料であり，「リターン現象」促進に協力する立場からも，現に住居系を中心とした開発事業を数多く目のあたりにすることができる。これらの地区は，工業または準工



■大阪ビジネスパーク計画
工場跡地を民間が中心となり，緑のオープン・スペースのなかにビジネスパークの副都心をつくろうとするものである。

業地域にある場合が多いが，開発に合った用途地域の指定をうけることにより，工場移転跡地を積極的に開発し，マスタープランの具現に協力することが，われわれ民間ディベロッパーに課せられた使命であると思う。

■都市計画における民間ディベロッパーの役割

マスタープランを具現する原動力となるものは都市計画事業であるが，これはとかく官公庁の行う事業であるという受取りかたが多い。

1970年代の都市計画は，国家や公共団体のみにより計画され，事業化されるものではなく，民間も都市計画の目的達成のために計画の作成に参画し，またその事業者として，官民協調することにより，真の「人間回復の都市計画」になりうるものと考えている。

このような時代のなかで，民間ディベロッパーに課せられた役割は，民間の都市計画事業者として，マスタープランにのっとった開発事業を行うことにあり，もはや一企業としての経済的採算性のみを追求することは許されない時代にある。

民間ディベロッパーの指向する分野は非常に広いものがあるが，大きく分けると都市再開発事業と新規開発事業の二つになる。前者は，業務商業施設，流通交通施設，娯楽施設，都市住宅施設およびそれらを複合した市街地における街づくりであり，後者は，住宅団地，レジャー・ショッピングセンター，工業団地，流通団地など都市郊外における新しい街づくりである。

現在のところ，民間ディベロパーの活動の範囲は，住宅建設



■門真新橋町再開発計画
門真市の表玄関としての本事業は，「門真方式」すなわち住宅地区改良事業と民間再開発事業との合併施行により，官民協調の再開発が完成した。

の分野が圧倒的に多く，市街地再開発の面では積極的な姿勢がみられないといってもよいが，このことは，この種の事業の難かしさを十分に表わしているといえる。それは，膨大な資金量と回収の長期性，複雑な土地問題と権利変換調整の難かしさ，事業の成否を決する需要予測と事業収支のバランス，事業の長期性など，いずれを取りあげても困難な作業の連続であり，これらの条件に耐え，克服しつつ，企業としての利潤追求と，事業の性格からくる公共福祉への寄与という命題をどこまで調和させ，達成できるかという大きな障壁があるからである。

再開発なくして現在の都市問題を解決することは不可能であるともいえる現実の都市の状況から，市街地再開発事業にかけられる期待はますます増大し，事業の成否を決める民間資金の導入において，民間ディベロッパーに課せられた役割もまた大きいといえよう。

都市計画は，かつての上から下への一方通行で，土木的，二次元的な性格から，今や，市民との意志の疎通をはかり，官民一体となって新しい街を創り出す多次元的性格に変りつつある。

今回の新用途地域制は，都市を一歩でもマスタープランへ近づけるための手段としての都市計画の一つであり，少なくとも現状の無秩序な都市の動態に対し，都市機能純化の制御力をもつことになるが，マスタープランと現実との間の土地利用における地域指定の色塗りの相違するところに，われわれ民間ディベロッパーの活躍の場があり，官民一体となった都市計画のなかで，明日の都市づくりに努力を惜しまない所存である。

（なかむら　じゅん　KK竹中工務店開発計画本部副本部長）

新用途地域制の批判

白石博三

先に行われた建築基準法および同施行令の改正は，いわば建築物単体規定の大改正であったといえよう。それに対して，このたびの新用途地域制の施行は，建築物の集団規定における大改正である。

前者の改正によっては，建築物の安全性は従来よりは高められたであろうが，設計上の困難は増加し，防火・排煙などの諸規定が強化され，建築物の工事費坪単価は，かなり増大したことになる。後者の改正では，高度地区の設定の仕方いかんにもよるが，全体的に見て，土地の利用率は，従来より厳しく制限されて低下することになるものと思われる。いずれにしても，国民生活に及ぼす影響は重大であって，これを建築技術者の間だけの問題であるように考えてはならない。

新用途地域制の大きな特色の一つは，地域区分が細分化され，かつ段階がなだらかになったことである。従来の住居地域は第1種と第2種の住居専用地域および住居地域の3段階になり，住居地域と商業地域の間に近隣商業地域が設けられた。また，従来あった住居専用地区と工業専用地区とは廃止されて，新用途地域の中に組み込まれた。それは，住居専用または工業専用という概念を特別扱いせず，他の用途と同等の地位を与えるべきだという認識に基づくとみなされる。

この結果，用途地域の設定は，第1種住居専用地域から工業専用地域に至るまで，同等の意味をもって，きめ細かく行われるはずであり，現実に各地で示されている地域指定素案は，従来より実情に即したものになっているようである。もっと具体的に言うと，従来，ともすれば単純なパターンに理想主義的な色分けが行われ勝ちであったのに対して，新用途地域の設定は，きれいごとでなく，現実的になるであろうことが期待される。

住環境の維持の姿勢が強く打ち出されているのも，特色の一つである。住居を優先する地域は，上述の通り3種に区分された。第1種住専は，低層，小建蔽率に押え，住宅以外の建築物で建築できるものを列挙する規定の仕方で，規定が予想しない建築物を建てることができないようになっており，最も良好な住環境の維持が意図されている。その代わり，既成の市街地では，不適格建築を多く容認しない限り，この地域指定は困難で，例えば大阪市内では，該当する地域は存しないことになる可能性が大きく，一般には，特殊な場所を除き，主として今後ニュータウンの造成が期待される区域を指定するほかないことになる可能性が強い。

第2種住専で中高層の住宅を予定していることも，特に注目をひく。狭い国土のなかで，やたらに自然を破壊しないように，開発を抑制しながら住宅の供給を考えるには，どうしても低層住宅ばかりを建てるわけにはいかず，高層化を考えねばならない。それを可能にしながら，かつ従来の住居地域よりも，もっと居住環境の良い地域を確保しようというのが，この地域である。

この地域に該当するのは，主として既成の住宅地である。そこはすでに低層建築でほとんど埋めつくされている。だから，ここに中高層の住居建築を予定するのは，再開発を期待していることになる。しかし，この地域の建蔽率や容積率が低く押えられ，しかも高度地区の規定がかぶされ，かつ最近のように近隣から日照権の主張が強く出される状態では，この地域の再開発には，相当の困難がありはしないだろうか。

全国的に容積率指定が行われるのも，画期的な変化である。一つの建物が建てられるに当っては，建築物単体の問題があるが，それと同時に相隣関係，近隣関係の問題が起こり，さらに都市全体として，道路等の交通，エネルギー供給，廃棄物処理などの問題が起こる。そのような都市計画上の見地からすれば，土地の利用密度を規制する必要がある。土地の利用密度を最もよく表わすのは，それぞれの敷地に建てられる建築物内に収容される人員であろうが，その人員は建築物の延面積に比例するとみなすと，敷地面積に対する延面積の比，すなわち容積率ということになる。だから，容積率の算定に当っては，地上部分だけ算定すればよいのでなくて，地下階も塔屋もすべて含むことになる。また逆に，公共通路になるピロティ・歩廊などや，バルコニー・開放廊下・ポーチなど屋外に近い性質をもつ部分は算入しなくてもよいことになる。

だから，容積率の算定に当って，同一敷地内に設けられる車庫部分が，一定限度までとはいえ，除外されているのは，論理

的にはおかしい。車庫には，ほとんど人が滞在せず，屋外駐車場と大差ないというならば，ほとんど無人状態である設備機械室や倉庫なども除外すべきである。倉庫を除外すれば，トラックが道路に過重な交通負担をかけることになるから除外できないというのであれば，同じく道路に負担をかけ悪ガスを発散している乗用車も同じことで，車庫部分を除外するいわれはない。

これは明らかに，駐車場法によって駐車場の設置を義務づけていることの見返りとみなされる。しかし，駐車場があるから車が道路にあふれるのであって，最近の新聞が伝える通り，むしろアメリカのように市内の駐車場を禁止することを考えなければならない。駐車場法を廃止し駐車場を義務づけることをやめ，容積率からの除外もやめるべきであり，むしろ設備機械室などの除外を行うべきではなかろうか。

同一地域内であっても，容積率は一定でなく，現地の状況に応じて，かなり段階的に指定されることになったのは，妥当である。同じ住居地域内でも，かなり商業的色彩の濃い地域や広い道路に面するところは，高い容積率を認めて，しかるべきであるからである。この点，建蔽率についても，同様に行われようとしているのは妥当であり，上述した通り，新地域制の現実に応じたきめ細かさとして評価される。

なお，容積率指定が，京都市の素案のように，商業地域でも最高700％となった場合，建蔽率一杯に建てるとすれば，従来は高31mとして，地上8～9階建てられた場所が，今後は地下2階とすれば地上5階しか建てられなくなることは，大きな変化である。また，前面道路幅による容積制限が施行されるから，狭い道路に面する敷地では，斜線制限よりも容積率の点で，商業地域であっても第1種住専なみの厳しさとなることに注意する必要がある。この種の制限が実情と調和するか否かについては，なお検討を要するので判断を保留したい。

容積率制が採用されたにもかかわらず，建蔽率の制限も存置されているが，その趣旨は，明瞭でない。従前のように，全国的にみてわずかな容積地区以外には容積率制が行われていなかった場合には，建蔽率と高さを制限することで，結局は容積を制限したに等しいことになるのだから，建蔽率を規定することに意義があった。それが，容積率制を全国的に施行しながら，建蔽率も規定するのであるから，その趣旨は敷地全体を建築物で覆ってしまわないようにするという以外に，意味はなさそうである。

建蔽率を規定しないで空地がなくなった場合に，何が不都合なのであろうか。容積率100％に規定された第1種住居専用地域の場合，建蔽率の制限がなくなれば，空地の全くない平家が敷地一杯に建って，良好な居住環境を損うおそれがあるというのは分かる。しかし商業地域などで，なおも建蔽率を規定している意味は，余り明らかではない。中庭やビルの隙間的空地は避難上有効とは認め難く，都市景観上，ヴィスタの保持にもならない。空地に植樹されて，景観上のうるおいになるという保証もない。

つぎに，建築基準法では，原則的には，建築物の絶対高さの制限を廃止しながら，一方では都市計画法による高度地区の設定という形で，絶対高さを規定するという仕方に変ったことも，大いに注目される。

建築基準法による建築物の単体規定は，全国のどの都市に建てられる建築物も等しく守らねばならない最低限度を示すという意味で，画一的規定であるべきである。これに対して，容積率，建蔽率とともに高さ制限のような集団規定は，各都市の性格に応じて決定されるべきであるというように，基本的思想が変化したのである。したがって，応々よく言われるように建築基準法の改正によって，建築物の絶対高さの制限は，第1種住専地域を除き，なくなったのではなく，都市計画によって決定されることになったのである。だから，一部の区域に絶対高さ制限のない場合もあろうが，一つの都市計画区域にわたって全部高度地区の指定が行われ，絶対高さ制限のないところはないことも，また同一用途地域内でも，絶対高制限が異なる場所があることもあり得るわけである。この点でも，従来よりは，きめ細かな規定が行われうることとなったといえよう。

高さ制限でとくに複雑となったのは，斜線制限である。斜線制限には，道路幅によるもの，隣地境界によるもの，および真北方向境界によるものの3種があり，いずれが厳しいかは個々の敷地によって異なることになった。このうち，真北方向境界による斜線制限は，とくに日照に関する相隣関係の訟訴が増加してきたことに対する行政的措置だとみなされるが，この程度の規定では，私法上の争いを公法規定によって防止するには，ほど遠い。しかも，建築物の一部が，少しでも真北の方位に対してふれている場合には，二面にわたって制限を受けるという複雑なことになった。また，大きな敷地に一棟の長屋式建築を建て，後でこれを分割売却する場合などには，斜線制限の作用しない住戸が生ずるという矛盾が生じはしないのだろうか。

日照権という概念は，どうも日本独特のものであるらしい。英国では，隣地を通して多年（17年とか言う）日照等を享受していた場合には，既得権として保護されるとかいうが，他の国では他人の所有に係る土地の利用を制限したければ，その土地に地役権を設定せねばならないことになっている。

近頃は，日照権のみならず天空権と称して，東西南北いずれの方向にも天空を望みうる権利の主張も出現し，さらに眺望権の主張もあらわれている。良好な生活環境を維持することは，誰しも願うところであって，その主張は尊重されなければならない。しかし，限られた国土を有効に利用するためには，互いに譲らねばならない。城壁に囲まれた狭い土地に密集して住む経験を積んできたヨーロッパの都市と，村落が膨脹したような日本の都市との相違，空気の乾いたヨーロッパと，湿度が高く日照がなければ乾かない日本との違い，それに加えて，いささか「ごねどく」的傾向のある最近の風潮。これが相乗して相隣関係の係争は増加しつつある。

それを防止するのに，北側斜線制限では受認限度を保証するに足りないことは上述した。そのために，地方条令で，さらに高度の制限を規定しようとする自治体が，つぎつぎに現われている。条令を制定するのでなくて，行政指導による方法を採用する自治体もある。しかし，このような方法をとっても，民事上の訴訟がなくなる保証はない。それが受認限度であるということが認められるには，判例の積み重ねが必要であろう。

最後に，今回の用途地域制や高度地区の設定は，10年間を目途にしたもので，約5年ごとに調査を行って修正していくという。従来の都市計画が，紙上の作業で一度決定されると，その後の情勢変化を無視して放置される傾向が強かったのに較べると，この姿勢は進歩である。しかし，多年にわたって，自然の推移にまかせっぱなしにしてきた感がある日本の都市が，このような法的規制だけで，にわかに改善されるとは期待できない。何よりも土地が余りに細かく，しかも不規則に私有されている現況のままで，容積率，建蔽率，斜線制限を厳しくすることは，土地利用率の低下を招くのみならず，建築の設計を困難にし，不自然な形態の建築を数多く生むことになるおそれもある。

土地の私有権そのものに手をつけずに，利用上の制限をする方法だけでは，良い都市の建設が達成されるかどうかは疑わしくなってきたのである。

（しらいし　ひろぞう　京都工芸繊維大学教授・工博）

1　新用途地域制の意義と役割―その期待されるもの

もめる用途地域制

武　曽　一　郎

今回新用途地域の作成には地域住民の声をいれようと各地で説明会が開かれましたが，これは時代の要請の背景があるにしても行政当局としてははじめての前向きの姿勢であり，今後の民主的な地域開発への足がかりとして，きわめて有意義な行為だったと思います。

しかしながら，イザふたをあければ各地で問題が百出し，決定がのびのびになり，行政当局もこんなにもめるとは知らなかったと後悔されておられるかも知れません。私たち高槻市南平台住民一同も昨年来何回もタスキを掛け，市当局にも押しかけましたが，このなかには家でテレビを見るよりこの方が楽しい，また日頃話しもしなかった人とも親しくなれるなど，予想外のメリットも聞かされ，さらに日頃無関心な役所の行政・議員の心理・市長の立場等，生きた政治勉強ができたことも間接的な収獲でした。

①　形式的な説明会

用途地域指定の重要さはちょっと勉強した人ならすぐわかるはずです。しかし正直なところ一般大衆にとっては建蔽率・容積率といわれてもほとんど知識がありません。パンフレットも事前にくばられることもなく，いきなり会場で府が作成した資料を見た人が大部分です。しかもこのパンフレットは巧みな言葉で表現され，一般大衆の判断を迷わします。たとえば「第2種住専地域とは中高層住宅等の良好の環境を保全するための地域」となっておりますが，これは住宅公団等のする大規模な開

発の場合に該当することで，採算ベースぎりぎりの民間の開発をされたときアパート一軒建ててもたちまち日照・通風・プライバシー・電波障害・公通災害等誘発する恐れが出てくるのです。また工業専用地域とは「工業の利便を増進するための地域」とをしておりますが，これは最近の住民の気持からみると「公害の発生の恐れある地域」とうたってくれた方がピントくるのです。しかしこの美しいパンフレットに見とれている間はこのことがわかりません。また，せっかく開いてくれた説明会も広い講堂に出席者は10名前後の会場もありました。これは住民の認識の不足も理由の一つですが，さらに役所の一般大衆への公示も一回限りの新聞・公報発表であり，これで責任を果し得たとする官僚独特の体質がうかがえます。もっとテレビ・ラジオなどもっと有効に活用し，親しみある方法で一般大衆の関心を集めるべきものと思います。

さてようやくの思いで当日出席した人も，目の前にぶらさげられた新用途地域案の大地図をいきなり見せられても，事前に予備知識のない人には「こんなもんかいな」という漠然たる不安感があるだけで意見を申しのべる余裕とてありません。さらにまたこれの説明が高度地域指定の際の技術的な斜線制限等くわしくのべられ，そのため頭もこんらんし，最後には質問時間など制限され，何やら「結構な社会になる」ような印象のみ植えつけられたまま終ってしまった方もおられたと存じます。

しかしなかには止むに止まれぬ気持で意見・希望を申し出られた方もおりましたが，それに対しては「聞きおきます」「検討致しております」「審議会へ申し伝えます」といった儀礼的な言葉でうまく処理され，いっそのこと「もう1回開いてくれ」といった発言には「府への提出期限が切られておりますので」と取りつくしまもなく，一回だけ開けばもうこれで市当局は無罪放免といった態度が見えることは行政に対する不信感をいだかせることになりました。これは裏をかえせば説明会に多く集ってもらっては困る，問題がこじれないうちにさっさと終りたいというのが本旨かも知れません。

私たち南平台住民はことを推測し，説明会当日には450名以上の人が出席，役人に対し質問の集中，また時間ギレを理由に閉会はさせず，さらに市側の法説明の解釈の間違いを認めさせる等，住民がいかにこの「用途地域指定」に重大関心があるかを態度で示しました。

② 責任の所在のはっきりしない決め方

説明会での市の理事者（部長・課長）の説明は言葉使いはまことに丁寧であります。しかし一歩つっこんで質問すれば「糠に釘」のたとえのごとくさっぱり信用がおけません。しかし私たちはこれで決して安心できませんので，市長，助役等もっと上層部に働きかけ政治的解決を迫らねばどうにもならぬこともわかってきました。しかしまたこの人たちもなかなか多忙であり，会う約束をとりつけることは容易なことではありません。またたとえ会っていただいても通り一辺の「聞きおく」「善処します」といった返答では困るので，ここでもまた140名以上の住民が押しかけることになりました。

市長さんのお答えは，用途地域の決定にはまず第一に環境保全を考えたい，そして全体の調和を考え土地所有者の方々の権利も尊重したいと，きわめて概念的な返答であり，これでは何ら前進がありませんので，再三の交渉によりついに市長さんに，具体的にこちらの希望する地域を住専第2種より第1種に変更の公約をとりつけました。交渉は時には夕食ぬきで，午後2時より午後9時になることもありました。しかしまたこのことは審議会のメンバーより市長の越権行為だと突き上げがあり，また市の理事者側よりは技術上の理由で絶えず反撥があったことが想像されます。

そのうち，ついに市の原案が未訂正のまま都計審へかけることになりました。ところがこの審議会は秘密会でありまたそのメンバーは議員以外の方は市長が選んだ者であり，市側の判断に当然協力的です。また議員のなかには地主代表のような気持の方もおられ，ややもすれば利益代表者的な発言のため本来の都計審の立場を忘れがちです。また審議員のなかには現地を一度も見たこともないといった方もおられ，これでは市の案に落つかざるを得ません。また市の理事者の案の出し方・説明のし方がきわめて誘導的であり，住民の声もどの程度伝えてくれるか，非常な危惧感をいだきました。遂に私達は審議会の公開を迫りました。しかしそれは認められず，その代り審議の席上5分間の意見発表が許されこれでようやく一歩前進。お蔭で席上，市の理事者側は一体どんな説明を審議員にするのかその一端を知ることができましたが，やはり予想通り，きわめて形式的な説明であり，失望させられました。このように市の理事者側の発言・態度はきわめて重要な判断材料になっていることも事実です。審議会は何回も開かれましたが，いつも問題の本質よ

りはずれなかなか決着がつかず，そのうち住民どうし話し合いそれを市長がまとめよと風向きが変ってきました。しかしこれは，お互いに立場が違う場合容易にまとまりません。すなわち地主側は自分達の土地は自分達のもの，これにマンションを建てようがとやかくいわれる筋合いはない，ことに目下宅地並課税に対する先行き不安などのため，できるだけマンション業者に有利に買ってもらうためには第1種より第2種を希望するという程度の判断と目先の利害にまよわされ，環境保全を含めての新用途決定には頭が廻りません。それで私たちは環境保全のためには用途地域はもっと広域にとらえなければ意味のないこと，またこんな良い環境は住専第1種で低層住宅がふさわしいこと，それには所有権への侵害ではなくある程度の協力をしていただきたいこと，これが将来必ず子供もふくめお互いのため利益につながること，あらゆる角度よりくわしく説明しましたがついにかみ合いません。

そして最後はまるで地所のぶんどり合戦のような結末に陥り，用途地域決定の本来の精神から遠くはなれたことを大変残念に思います。しかしまたこのことは市当局の思うツボだったかも知れません。このやり方に対しては私たちは市に裏切られた印象をうけました，しかしこんなときこそ市当局の大局・高所に立った勇断を期待したいものです。

③用途地域決定に際し考えてほしいこと

今回の用途地域指定案の作成には現状の状況を基準にしたとも聞いております。また当市より公害を追放するため第2種住専地域の拡大を図ったとも聞いております。その判断は一応うなづけます。しかしながらひと目その案を見たときまさに虫くい的色分けであり，権利のいがみ合いであり，緑はほとんど少なく，これで果して住み良い町になるのか心細い限りです。現在役人の行っているのは都市計画ではありません。単なる色鉛筆による色分け作業であります。その間一部土地所有権者等の圧力も当然加えられる危険もあります。また都市づくりに対する確固たる信念，研究も見受けられません。

たとえば今回の用途地域指定で問題になった広域道路通過による道路両側の緩衝地帯設置（約25m幅）の問題，これら全く画一的な解決であり，この設置によりかえってその地域が破壊される恐れもでてきます，第1種住専内通過のときは，そのところを第2種住専にするのでなく，25m幅の緑地帯で守るよう前向きの判断がほしいのです。もちろんこれには多額の買上げ費用がかかることでしょう。しかしもうこのことは他の公害都市では失敗しており，なぜくりかえす必要があるのか，私たちは今後は万難を排してでも街に緑を多くする決意が必要と思います。もしそれができないときは思い切って道路の建設はあきらめるべきです。そうでなければ将来必ず町はスプロール化し収拾ができないくらいの公害の誘発・住民パワーの爆発につながることは必至です。このように用途地域決定には単に建築基準法や都市計画法等だけの狭義の立場から考えず，もっと広い立場すなわち地域開発と道路公害の問題・地域開発と河川汚濁の問題・地域開発と緑地保全の問題・地域開発と文教施設の問題・地域開発と人口増大の問題・地域開発と通勤・通学の問題等・給排水・電力等，もっと広い視野で検討し用途地域指定を考えるべきと思います。しかしこのことは現在の市の一部職員に案をつくらせることは現在の機構では不可能ですし，そのようなことは到底一部職員だけでできるものではありません。

私たちはこのようなときにこそ，その地元役所でつくられた綜合開発計画書を基準にすべきと考えます。これは第三者の人たちにより多額の税金と多くの日数・労力をかけ，まことに立派なもので，これは決して「絵にかいた餅」に終らしてはなりませんし，たとえ今すぐそのようにならなくとも一歩でもそれに近づけさせる必要はあると思います。また住民には日頃よりこの内容をもっと知らしめるべきですし住民も知る権利があると思います。もしこの計画書に不満足なら市民より案を募集するか，真に中立かつ良心的な大学研究所・優秀設計事務所に用途計画案をいくつもつくらせ，その案より住民の投票により行き方を決めるのも一方法とも思います。ただし日本の政治家の欠点はいくらよい案をつくっても，その重要さを認識しようとしません。これをさせるにはまず住民の協力はもちろん，市長をはじめ各職員の地域開発につき深い情熱，そしていかなる圧力にも屈せず，断乎取り上げる度量・勇気がなければできないことでしょう。このことは議員の方々にもお願したいところです。

現代は公害の深刻化した時代，住民はようやく都市開発につき疑問と関心をもちはじめてきました。どうかこの新芽を将来の真の福祉社会建設に役立つよう暖く見守り育ててもらいたいと存じます。

——南平台住民より

（むそう　いちろう　南平台自治会役員）

新用途地域の指定のプロセス

三　浦　咲　男

(1)　堺市の概況

本市は大阪府の中央部よりやや南よりに大和川をへだてて大阪市に接しており，市域面積は約132平方キロメートル，人口は68万人を越えており，人口の増加傾向が非常に高い都市である。

用途地域は昭和2年に市街地建築物法に基づき初めて指定された。その後，主な変更としては戦災復興都市計画による全面的な改正変更を昭和22年に行い，さらに昭和40年には堺・泉北臨海工業地帯の造成や隣接町村の合併等により既定計画を全面的に再検討して，道路計画，公園計画と合せて用途地域の変更を行った。また昭和45年には市街化区域および市街化調整区域の決定にともなう変更を行って現在に至っている。

(2)　準備作業

ア　新用途地域別研究委員会

新用途地域制に関して，合理的な土地利用をはかるために，新用途地域制をいかに活用していくべきかを検討し，新用途地域の指定方針，指定基準および運用上の問題点についての調査研究を，昭和45年度に大阪府，大阪市，堺市，豊中市および吹田市が共同して，日本都市計画学会に委託した。

日本都市計画学会では，三輪大阪市立大学教授を委員長とし，学識経験者9名で構成する新用途地域研究委員会を設けるとともに，別に行政機関の代表者で構成する幹事15名を設け，個別会議あるいは必要に応じて合同会議を開催して調査研究を進めた。

その内容としては，

現行地域地区制の問題点をまず明らかにすることとし，

① 法制の限界
② 土地利用の将来構想と地域地区制との関係
③ 法律構成上の問題点
④ 都市計画の目標年次
⑤ 都市づくりの総合性
⑥ 住民参加の問題

以上の6項目が提起され，今後の検討方向を明らかにした。

つぎに改正都市計画法と地域地区制との関係を明確にし，そして新用途地域制の意義と限界，さらにはその実効性を明らかにし，これらをふまえて新用途地域制の計画方法を確立させた。

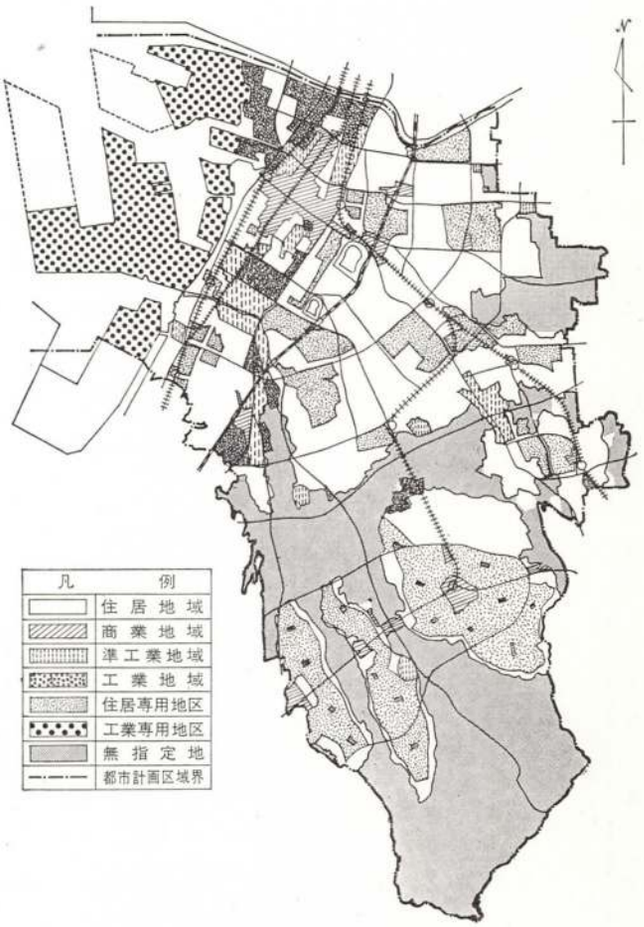
そして新用途地域の指定にあたって，①基本となる事項の整理および確認，②市街地の状況に応じた各地域地区のイメージの明確化，③指定作業における計画手法または判断基準となる要素の提示などの指定基準試案を立案し，これらの具体化として府下各都市においてケーススタディーを行ない，指定基準試案のとりまとめを行った。

イ　基礎調査

昭和45年6月に建築基準法が改正されたが，新用途地域指定のための基礎調査は昭和45年度および昭和46年度の2年間にわたってつぎの項目について行なった。

(3)　素案作成作業

基礎調査が一段落したところで，素案作成にかかったが，まず大阪府



用途地域（昭和45年11月末）

新用途地域に関する基礎調査項目表

番号	調査項目	図面		調書
		図名	縮尺	
1	人口調査	人口密度図	1/2万	町丁別人口表
		250mメッシュによる人口密度図	1/1万	町丁別産業別人口表
		宅地面積に対する人口密度図	1/1万	町丁別住宅延床面積に対する人口密度表
		住宅延床面積に対する人口密度図	1/1万	町丁別宅地面積に対する人口密度表
2	土地利用現況調査	土地利用現況図	1/1万	土地利用現況調査資料
		地価分布状況図	1/2万	
3	建物調査	建物用途別現況図	1/3千.1万	町丁別建物床面積調書
		建物容積による地域の混在度図	1/1万	町丁別建物構造及び建築年令調書
		総延床面積に対する住居率図	1/1万	町丁別建物用途別建設年度調書
		総延床面積に対する商業率図	1/1万	町丁別建物容積率及び平均階数調書
		総延床面積に対する工業率図	1/1万	町丁別建物用途別容積変化調書
		木造率分布図	1/1万	
		容積率分布図	1/1万	
		宅地面積に対する容積率分布図	1/1万	
		3階以上建物分布図	1/1万	
4	住宅調査	公営住宅現況図	1/2万	住宅戸数及び世帯数
		宅地開発状況図	1/2万	公営住宅調書
		建ぺい率図(低層住宅地)	1/1万	建築動態調書
		生活環境図	1/2万	生活環境基礎調書報告書
5	商業調査	堺販売商業分布図(卸売市場、スーパーマーケット、小売市場)	1/2万	業種別従業者数及び販売額表 鉄道乗降客数表
		業種別特殊商業施設分布図	1/1万	業種別商店分布表(駅前周辺)
		許容地域別特殊商業施設分布図	1/1万	パーソントリップ調査結果による通勤、通学集中度表
		鉄道乗降客現況図	1/2万	
6	工場調査	業種別工場分布図	1/3千.1万	業種別工場調書
		許容地域別工場分布図	1/1万	不適格建築物調書
		不適格建築物分布図	1/1万	製造出荷額調書
7	危険物取扱所調査	許容地域別危険物取扱所分布図	1/1万	許容地域別危険物取扱所調書
8	都市施設現況調査	都市施設現況図	1/1万	都市計画街路計画表
		公園緑地整備状況図	1/1万	公園、緑地計画表
		都市計画街路事業進捗状況図	1/1万	教育施設分布調書 公有地利用状況調書
		下水道現況図	1/2万	
		教育施設現況図	1/2万	
9	交通調査	路線別交通量図	1/2万	交通量調書
		交通混在度図	1/2万	交通量混在度表
		民営駐車場分布図	1/2万	路上駐車実態調査資料
		バス路線図	1/2万	民営及び民間駐車場実態調査表

が示した指定基準をもとに堺市の歴史的社会的経済的な条件を加味した独自の指定基準を作り，努めて本市の実態および将来傾向に即応させるようにした。

土地利用計画は昭和60年を目標とする堺市総合基本計画（昭和45度作成）で立案済みであったが，利用計画そのものが基本的な事項しか表示されていなかったため，同一用途系の細分化をまず行う必要があった。

土地利用計画の確立に従い，つぎに基礎調査の結果を用いて現況との整合性のチェック，都市施設の整備状況とその計画，市街地開発事業の計画等を考慮しながら新用途地域素案を作成していった。

一方，人口配分計画，建物容積計画等を計数的に把握するために予測作業を行い，都市施設の配置計画との整合性を検討してみた。

これらの作業の進捗につれて浮かび上ってきた問題点地域の現地調査を内部作業と並行しながら行い，素案を逐次かためていった。

つぎに関係部課と10数回にわたって協議し，各セクションの意見の吸収に努めた。一方，大阪府とはそれぞれの段階において意見の交換を図り，各都市とのバランスに留意した。以上の手順を経て堺市新用途地域素案をかためたが，素案づくりに着手してからほぼ1年の年月がかかった。

(4) 都市計画審議会

地方自治法にもとづき，市条例により設置されている都市計画審議会（委員は学識経験者5名，市議会議員9名および市の職員4名合計18名）に新用途地域を協議したが，まず第1回は新用途地域地区の概要，新用途地域制調査研究報告書について説明会を行った。

第2回から，指定基準および素案の説明を行い，審議にはいったが，都市計画のうちでもベーシックなものであり，そして市民生活にもかかわりあいが非常に深いなどから慎重な審議がなされ，本素案で地元説明にはいってよいという了承を得たのが第6回目の審議会であった。

(5) 地元説明会

用途地域制の目的とするものは良好な市街地の環境の維持・増進と機能的な都市活動の確保であるが，この制度を地域に定着させ，向上させるものはその地域に住みあるいは働く市民である。したがって市民がこの制度について理解を深め，地域での合意を作りあげることが重要である。本市では市民の理解と協力を得るため，47年2月に新用途地域制PRパンフレットを市民に配布し，さらに3月には堺広報で同じく制度の概要を説明した。

市都市計画審議会から地元説明の了承を得た後，PR版"堺市新用途地域素案図"（9色刷，タブロイド版）を20万部印刷して全世帯に配布を目標とした。

このPR版には表に素案と地元説明会の日程表（場所・月日・時間），裏面には指定基準の概要と制度の説明，さらに防火・準防火地域，高度地区などの市が指定を考えているその他の地域地区の説明，さらに建築協定などを記載した。

説明会の開催場所・回数はきめ細かくして市民の意見を十分に聞く必要があるが，限られた時間と職員数のため中学校区を対象に22回開催す

堺市新用途地域粗案に対する付帯要望

用途地域は，住居の環境を保護し，商業，工業等の利便の増進を図るなどして，都市機能を向上させ，良好な市街地を形成させるために，建築行為に対し，適正な制限を加えるものであるが，新用途地域の指定は市民生活および産業活動に及ぼす影響が多大であるので，堺市新用途地域粗案についての審議を終るに際し，特に次の事項について格段の努力を要望する。

記

1. 用途地域制の主旨に鑑み，道路，公園，下水道，市街地開発等の都市計画事業，中小企業の振興対策ならびに公害防止対策等を推進し，計画的かつ総合的なまちづくりを積極的に行なわれたい。

2. 第一種，第二種住居専用地域および住居地域内にある不適格建築物に対しては，公害防止等の必要な対策をとった場合の緩和措置を実施するとともにその移転が必要となった場合の移転用地の確保と斡旋，跡地の買上げ営業補償と長期低利融資などの助成措置を確立するとともに特に中小工場および地場産業については，特別工業地区の設定をおこなうほか，体質改善を積極的に推進するために，中小企業団地あるいは工場アパートなどを適地に早急に建設されたい。

なお工業専用地域，工業地域，準工業地域および商業地域内にある住宅にたいして特別の環境保全対策をとるとともに適地に移転することについては，用地，住宅の斡旋など必要な対策を実施されたい。

3. 工業専用地域，工業地域および準工業地域については，公害防止に努め，特に総量規制の中で発生源対策を一層強力に推進されたい。また臨海工業地帯については準工業地域などを設定し，中小零細業者や住民が利用しやすい用途地域の指定をされたい。

さらに臨海工業地帯と内陸部とを遮断するための緩衝緑地の設置については，早急に着手し，内陸部環境保全を図られたい。

4. 新用途地域制の実効性を確保するため，市民に対する啓もう，指導活動を積極的に行ない，まちづくりに対する関心を高めて，十分な協力を得られるよう努められたい。

5. 新用途地域に関する諸規制の厳正かつ円滑な執行を確保するため担当部局の機構および人員の充実を図られたい。

また，日照，通風，電波障害等の生活環境問題についての市民からの相談を処理するため，担当部局の機構の整備，拡充を図られたい。

昭和48年　月　日

堺　市　長　殿

堺市都市計画審議会
会長名

ることにし，このうち1回は全市を対象とするため市民会館での開催を予定した。

しかし，市議会および市民の強い要望もあって町会単位あるいは業界などに対して23回説明し，合計45回の説明会を2カ月間に行った。この場合，説明会開催の要請のあった地域あるいは業界に対して，すべて受諾したので，日によっては2班を編成して説明にのぞんだこともあった。このため説明図，器具等も2組用意した。なお，同一場所で重複した説明会は1カ所のみで，残りは説明会場，対象地域を異にした。

新用途地域PR版の配布は市民組織の新生活運動推進協議会にお願いして配布していただき，協議会に加入していない地域には市職員が配布して素案図および説明会開催の周知徹底を図った。

説明会場は小学校の講堂をあて，当日は会場設営とともに対象地域に対して広報車による説明会参加へのPRをさらに行い，市民の関心を喚起した。

説明会は総数で約3,000人，1会場当り多い所は300人，少ないところで20人程度の参加をみたが，市と市民ともどもこのような説明会に不慣れなため，多少の混乱はあった。

会場で住民から出された意見は市の行政全般に対するもの，新用途地域制度に対するもの，地域の意見という順に多かった。一方では都市計画課の窓口で意見を述べられる方もあり，陳情書も数多く出された。

このようにして市民の意見をできるだけ広く多く聞くという姿勢で素案の周知を図っていった。

(6) 都市計画審議会付帯要望

地元説明会終了後，説明会場での市民の意見，陳情書，都市計画課での意見の三つに分類にして，その要旨をまとめて再度審議会に協議したが，①住居系については環境保全のため努めて意見を尊重する。②商業系については指定基準の原則を守る。③工業系については地域住民の総意（住宅側，工場側）であり，さらに土地利用上可能なもの，以上に限り修正を加えて第8回目の審議会で了承を得て堺市新用途地域素案から原案とした。

この答申の際に左記の付帯要望を市長あてに会長から出された。

(7) 公聴会および案の縦覧

堺市原案を大阪府に送付したが，大阪府は検討の結果，大阪府原案を決め，広く住民の意見を聞き，新用途地域原案に反映させるため公聴会を都市計画区域ごとに開催した。堺都市計画区域では16名の公述人が意見を述べた。これにもとづき原案の見直しが行われ，一部修正の後，原案から大阪府案となり，住民および利害関係人の意見を反映させるため“案の縦覧”が2週間行われた。

縦覧後，提出された意見書を検討して，修正があれば再度縦覧がなされる予定であるが，意見書の要旨は大阪府都市計画地方審議会に提出される。

大阪府の審議会は近く開催される予定で，審議会の議を経て，建設大臣の認可を受けてから大阪府知事は新用途地域の決定告示を行い，即，効力は発生する予定である。1973.6.記　（みうら　さきお　堺市都市計画課長）

用途地域・後に来るもの—都市計画の今後の考え方

蓑原　敬

この小論では，用途地域決定の後に都市計画で取組むべき課題を主として現在，建設省で話題になっていることがらを中心として，メモ的に列記して，ご参考に供したい。

1. 用途地域のアフター・ケアー

「線引き」，「色塗り」という土地利用計画上の基本となる仕事をわずか数年のうちになし遂げつつあることは，驚くべきことであるが，それだけに，アフター・ケアーとして残された課題も多い。まず現行法の枠内で，引続き問題となってくるものには，高度地区の指定，特別用途地区の指定などを通じたキメの細かい土地利用行政の展開が不可欠になってくる。高度地区については，建築審議会の日照問題専門委員会で，かなり包括的で，技術的にも普遍化できそうな日照基準およびその規制技術の体系が建設省住宅局市街地建築課を事務局として煮詰りつつあるので，この結果によって，大きな影響を受けたのではないかと考えられる。特別用途地区については，かなりの実例が蓄積されつつあるので，これを見ながら，計画標準の作成にとりかかりつつある。

市街地の景観対策が，さまざまな都市で大きく取上げられるようになってきているので，美観地区，景観条例などの問題もクローズ・アップされよう。

一方，用途地域そのもののアフター・ケアーとして，既存不適格建築物対策・幹線道路・沿道利用建物対策なども大きな課題である。全国的に見ても既存不適格工場が多量に発生しているので，既存不適格工場の移転対策を具体化する必要があり，住宅局市街地建築課から2年にわたってこのための費用の国庫補助の要求を出しているが，まだ陽の目を見ていない。

2. 法改正まで含めた土地利用計画行政の展開

都市計画法，建築基準法の大改正の後始末がまだ終らないうちに，もう，新しい法改正の問題が提起されており，そのうちの一部は，すでに国総法，工業再配置法とのからみで，今国会に上程されている。これは，開発許可基準の強化のほか，工作物の用途規制，工業専用地域の建ぺい率制限の選択制などを内容とするものであって，前回の法改正の積残し分も，これで若干整理された。（ただし，国総法が継続審議になりそうなので，これと運命をともにしている。）

建築基準法の改正点として新たに問題となってきているのは，容積率の切下げの可能性の付与（たとえば現行住居地域の容積率の下限が200％であるのを100％まで落とすなど），立体用途規制（たとえば，10メートルを超える高さの部分には，住居系の地域では，住宅以外を原則として禁止するなど），用途別容積制（たとえば，現在横浜市が条例化しているように，用途地域別に，住宅，商業施設などの容積率の用途別規制を行なう）などが，話題になっている。都市計画的にみて，現在の規制値の上限は，確かに安全率がかかり過ぎているのは事実であり，理論的には，このような制限強化が当然，問題となるが，実際的には，高地価のなかで，制限強化がなかなか困難であろう。その意味では，現在の新用途地域の決定作業のなかで，旧制度に比較すると，非常に大幅な切下げが行なわれつつあること自体が大変なことであるといえる。ニュー・ヨークでは，容積率切下げがネックになって，1916年のゾーニング条例が1960年まで，たび重なる改正案の提出にもかかわらずできなかったと聞いている。

ただし，筆者は，個人的には早く，立体用途規制に踏み切るべきであるという気持ちをもっている。事務所や店舗などが建てられる可能性が残っていることが，局地的な地価高騰を招き，それが全体としての地価高騰にも何がしかの寄与をしていると思えるからである。

前回の法改正で若干迂遠な形で出てきた，いわゆる，総合設計制度も，ようやく軌道に乗ってきた観があるが，特定街区の制度の運用は，これを契機として当然変わることになり，計画標準の早期改訂が望まれているところである。同時に，古くなった一団地の住宅施設の計画標準も同様に改訂する必要があるが，これらの制度は，いわば，詳細計画的手法の分身であって，むしろ一体として通観し，共通の基盤の上に基準が設定されるべきであろう。その方向で検討を進めるべく，準備中である。

なお，建築基準法の別表についても，建築研究所を中心として再検討の構えを準備中であると聞いている。前回の法改正の積残しとしては，防火地域規制が手着かずに残っており，これは防災地域制として新たな観点から取組まれるべき重大な課題であろう。

同時に，防災性の向上と，旧い街並みの保全との矛盾を解決しなければなるまい。近代的市街地景観だけでなく，日本古来の街並みは世界に誇るべき文化資産であるが，現在，急速に崩壊しつつある。都市計画上，これをいかに保全するか，伝統的に，シャベルと金槌の行政を行なってきた都市計画行政の脱皮を迫る大きな課題であるといえる。

法改正には直接関係がないが，従来の都市計画が，大きなネットワーク，構造的土地利用に関心を集中し，地区レベルのキメの細かい環境改善におよばなかったことに関連し，シビル・ミニマムの思想などともからんで，このレベルの都市計画の展開が強く期待されるようになった。その意味で，都市計画法に定められた，住居系地域における義務教育施設の都市計画決定の義務づけは一つの大きなキッカケを作るものである。

大阪府下では大東市が，全国に先がけてこれを行なっているが，つぎの都市計画の展開のなかでは，この問題が最大の眼目の一つになろう。義務教育施設の位置決定は，必ず，小学校区の再編成，通学路の整備，コミュニティ施設の複合的開発などとリンクして，コミュニティの計画に発展することが必至であるから，今後の行政の大きな課題となってくる。

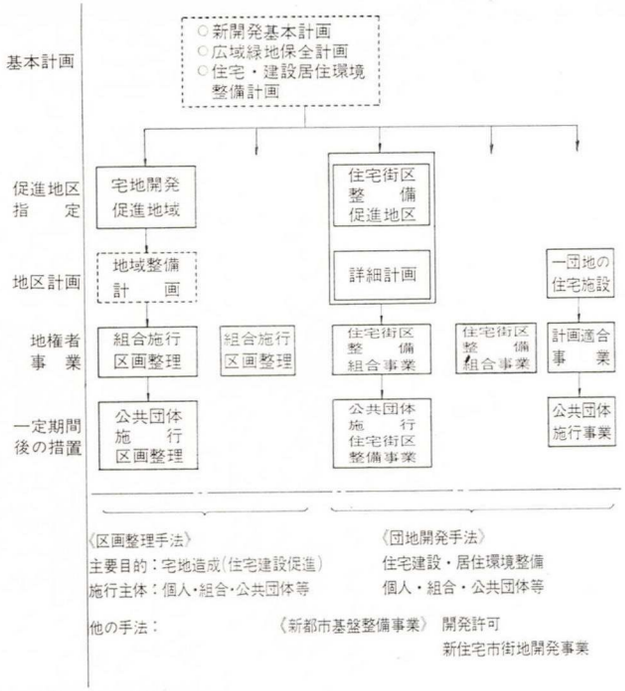
3. 線引きのアフター・ケアー

用途地域の決定もまた線引きのアフター・ケアーの一つといえないこともないが，都市計画全体としては，線引きのアフター・ケアーが最大の課題となっているので，以下，若干詳細にこれに触れてみたい。

筆者は，線引きを都市計画における一種の全面戦争の開始と見ており，戦争遂行に必要な持続的努力と戦力の投入（体制と金）がなければ，線引きの制度自体，根底から危なくなるという考えをもっている。

しかも，以下に述べるように，線引きは，従来の縦割り行政では解決のつかない複雑で，重層的な問題の解決を迫る効果をもつ。端的にいえば，線引きは，都市計画行政のなかにスケジュールをもった開発，あるいはプログラムという概念を導入したので，従来の縦割りの公共投資が空間的にも時間的にもリンクされ，たとえば，インフラストラクチャーへの関心のみに終始してきた姿勢を否応なく変え，住宅を中心とする建物問題を真剣に都市計画としても取上げざるを得なくなってきている。

真の意味での総合計画が，観念でなく，実態として要請される時点に達したといえよう。



◀新市街地およびスプロール区域の整備の方策
（都市計画中央審議会答申骨子）

(1) 都市公共施設の整備

10年以内に計画的かつ優先的に市街化すべき区域としての，市街化区域であるから，公共投資のプログラムに真剣に取組み，飛躍的な公共投資の増大を必要とする時期になっているが，同時に，個々の公共投資，道路，ゴミ処理場などについての市民的抵抗が強まり，単なる点と線の拡大という一種の公共投資における生産第一主義がなりたたなくなりつつある。この辺で，市民的コンセンサスを得た形での都市施設整備の基本計画を確立しておかないと，将来，二進も三進もいかなくなる事態になるのではないかと思える。総論賛成，各論反対という世情のなかで，各論を分担する公共施設事業関係者が安んじて働けるフレームを作ると同時に，各論の作り方についても，点と線の整備から面の整備へ，また，環境に対する十分な配慮をほどこした点と線の計画へと切替える必要があり，このためには，大胆な発想の転換が要請されるかも知れない。

しかし，それによってはじめて市民的コンセンサスの得られる計画になるとしたら，それも止むを得ないことになろう。

(2) 住宅・宅地供給の緊急対策

線引きと時を同じくして起った円切り上げ，金融緩和などによる地価暴騰によって，住宅・宅地に対する飢餓感が急速に成長し，また事実，住宅の水準も巨大都市では，低下しつつあるおそれが強い。これにたいして住宅・宅地を供給することが，都市計画という長期的政策課題を上廻る政策課題とし問題になりつつある。

しかし，周知のように，住宅の供給戸数が不足しているわけではなく非常に劣悪な水準の住宅の大量供給が行なわれていることにこそ，問題の本質があるのであるから，その意味では，都市計画上の長期的要請も住宅政策上の短期的要請も同じ平面で解決すべき問題であるにもかかわらず，両分野にまたがった仕事をしている人々がほとんど皆無の状態のなかで問題の所在が，はっきり把めないままに，運動暴発的発言が多くなりつつある。これに対して，現在，都市計画中央審議会では，市街化促進部会および再開発部会を設け，新たな解決策を検討中である。とくに市街化促進部会では，市街化区域内農地の宅地化の促進という課題にたいして，宅地開発促進区域制度および住宅街区整備促進地区制度の創設と，一団地の住宅施設制度の活用という提案を行なっており，今や，都市計画と住宅政策の両分野が緊密なチーム・プレーをせざるを得ない仕組みができあがりつつある。この制度の骨子については，資料として掲げておくが，この段階でも先にも述べた詳細計画的な手法が大きな問題となっており，今後の都市計画が上物（建物）まで含めた真の街づくりとなる大きな契機を孕んでいるといえよう。

(3) 生産緑地保全の問題

線引きによって，当初は，市街地と農地を100％黒と白に分ける考え方であったが，実際は，市街化区域の拡大によって市街化区域の外縁は灰色となり，また市街化調整区域でも，実際には，宅地化指向が強く出る部分もかなりあって，これを何らかの都市計画的手法によって再仕分けすることが，実態上，要請されてきている。その上，環境問題の深刻化のなかで，とくに大都市市街地内における農地の役割が再認識され，また，農地の宅地並み課税の問題にともなって，農民の政治的抵抗も強いということから，生産緑地問題が，一挙にクローズ・アップされてきた。都市計画中央審議会の市街化促進部会の討論のなかでも，とくに広域緑地体系のなかにおける生産緑地の役割が強調され，その結果，新たに，生産緑地部会を設けて検討を始めることとなり，また，建設大臣もつぎの通常国会にこれに関連する法案を提案する旨の発言を行なった。

先に述べた宅地開発促進区域，住宅街区整備促進地区の考え方のなかにも，一定の割合以下の集合農地区の保全を考えることになっており，その面からも生産緑地問題への手法ができることになる。

日本の市街地は，歴史的にみても，ヨーロッパのような城壁に取囲まれた町ではないから，市街地と農地の入り組みのなかで安上りに比較的高水準の住居環境を形成してきていたものであるから，このような歴史をむしろ積極的に生かした，ユニークな都市開発のパターンを産み出す必要があるといえよう。その意味では，生産緑地問題は，都市計画に新しい大きな問題を投げかけているといえる。

(4) そ の 他

このほか，市街化区域内の宅地開発にともなう開発者負担の問題も，線引きのアフター・ケアーとして重要な問題になっているが，これについては，建設省，宅地部で，現在法案の整備中である。国の援助が十分でない場合には，地方公共団体の財政事情をさらに悪化させるおそれがあるが，逆に，この問題の解決がない限り，適正な水準の住宅地を真に必要とする需要層に与えることができなくなるので，公共団体としては，いずれ解決を迫られる問題となろう。

市街化調整区域，都市計画区域外の土地買占めは，全国的に広がり，その規模はおそらく25万ha以上に達していると思えるが，この開発の解禁についての政治的プレッシャーも高まるものと思われる。しかし，少なくとも短期的には，大都市圏周辺では，むしろ凍結の気構えが強く，実際，部分的な解禁は，線引きの将来に対して悪影響のみが多そうである。

この問題については，長期的，広域的観点から，じっくりと腰を落ちつけて取り組むべきであろう。

4. その他の諸問題

今後の都市計画の流れのなかで，さらに基礎的な問題は，住民参加というより，真に市民の手になる街づくりの方法について，もはや観念の問題というより，実践の問題として，真剣に探究する必要があろう。このほか，大都市内諸機能の再編成の問題，環境作りを基礎においた交通体系の再編成問題など取上げるべき問題は枚挙にいとまがないが，紙数も尽きたので，ここで筆を止めることとする。

（みのはら たかし 建設省都市局都市計画課）

容積制—神戸の例にみる

朝 日 晃 男

〔1〕は じ め に

新用途地域の設定に際して，法改正の主眼の一つとして，従来一部の都市で選択的に利用されていた容積地区制度が，今回全面的に組み込まれたことは，画期的なことであった。

都市において，容積率が過大になると，道路等の交通施設や，その他の公共施設が不足となり，都市機能を阻害し，また必要な日照・通風・採光・開放感等の都市環境を悪化せしめ，不健全な市街地を形成することは例を挙げるまでもない。

〔2〕神戸市における新用途地域設定の基本方針

本市においても昭和40年ごろから，容積地区の研究を行ない，昭和45年12月線引（市街化区域および同調整区域）の設定後，本格的に新用途地域の設定に着手し，まず基礎調査から開始し，現況解析を行なうとともに，これらの諸調査の進展とあわせて，新用途地域設定のための本市の基本方針をつぎのように決定した。

① 生活環境の保護改善を図るため，現行の住居専用地区およびそれ以外の良好な住宅地についても，第1種および第2種住居専用地域を積極的に指定するとともに，高度地区を併せて指定し，日照等の住居環境の保全を期する。

② 都市公害の防止を目的とし，現行の工業地域における住工混合地区については，今後用途純化を図るべき区域として，将来は住居地域を指向するも段階的に準工業地域とし，規制面で前進させる。

③ 市街地（都心等）の再開発育成に努め，必要な地域を商業地域に指定する。

④ 上記以外の区域については，現行用途地域を尊重する。

⑤ 容積率，建ぺい率については，各地域の実情および将来の動向を勘案し，適切な規制内容とする。

原案策定に際しての問題点としては，(1)現況容認型か将来指向型か，(2)安定性と順応性のどちらを選ぶか，(3)住民意見と個々の利害が地域として必ずしも一致しない相反性等……多々あるが，解明すべき最大の問題点として，基本方針⑤にいう適正な容積計画の配置は，いかにあるべきか，ということであった。

〔3〕土地利用予測の作業課題

都市の変化は，多くの要因の複雑な相互関連からなり，その空間利用を予測することは困難であり，直感的な推測の域を脱しきれない場合が多い。

都市の将来推計は交通計画において，プレゼント・パターン法・グラビティ・モデル等比較的発達しているが，土地利用の予測は，あたかも不可能であるように扱われ，信頼ある予測が行なわれていないことが多い。

今回の新用途地域の設定に当って，土地利用の変化のメカニズムと将来をシミュレーション・モデルによって解明し，科学的な都市構造論への足がかりとした。

1）土地利用予測の考え方

基礎調査とその分析の過程において，まず計画のためのゾーン設定と，操作すべき基本ファクターの問題がある。

これらの整理とあわせて，予測作業のフローチャートの検討を行なった。これをごく概念的に記述すると……「本市のマスタープランにもとづく基本フレーム〔人口（夜間・昼間）・産業（製造品出荷額・工業従業者数・商品販売額・商業従業者数）〕等の将来値をコントロールトータルと考え，〔土地・建物（用途別土地面積・建築床面積・建ぺい率・容積率・公共用地率）〕等の因子を小ゾーン（20～30haの程度）別に主成分分析等を用いて解析し，ゾーンの特性に応じてトータル量を配分し，各ゾーンの将来における変動過程を予測する」……ものとした。

2）密集市街地における土地利用分布の変動過程シミュレーション

以上のような課題のもとに作業を始めたが，プログラム作成と演算については，UG都市設計KKの協力を得ることとした。

本市の利用形態は，主に4つの区域に分かれている。第一に六甲山以南の港を中心としたコンパクトな旧市街地，第二に住宅地を中心に開発が展開された垂水地区，第三に非連続的に市街化が進行しつつある北神地域，第四にいまだ目に見えた変化はないが，今後北神同様市街化が進むであろう西神地域である。

第二から第四の地域については，別途の方法で予測を行なったので，ここでは最もクリティカルな部分である旧市街地において試みたシミュレーション・モデルを紹介したい。

3）—1 シミュレーション・モデルの方策

都市の変化は非常に複雑な活動の相互関連のもとに総体として現われ，総体としての都市の変化が個々の要素の活動に影響を与える。このように都市は内生変数による変化と，外部の政治，経済，国際関係等の外生変数による変化とが互いに複雑に影響しあって変化する。

ここでは，外生変数による変化は，神戸市の基本フレームにもとづく建設計画としてコントロール・トータルの内部にとらえられているものとし，内生変数による変化のメカニズムの解明から将来状況を予測することとした。

ここに一つの工場が建設されたとしよう。工場に勤める人々の住宅は通勤に便利な場所に建てられる。それにともなって，その住宅を目当てにした商店が増加する。さらに関連企業が工場の周囲に進出する。やがてこれらの進展に続いて，地域内での移動が起こってくる。たとえば目抜通りの住宅が買収され銀行等が進出し，住宅は工場の公害を避けて郊外へ転出したり，逆に工場が別の地区へ移動するという，いわゆる土地利用の変化が生ずる。

3）—2 親和マトリックス

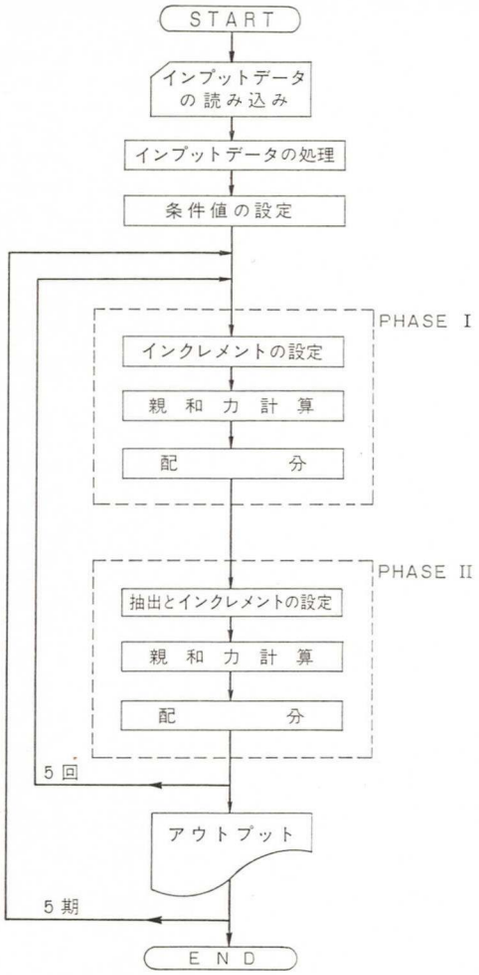
まず土地の利用を，クラスターアナリシス等により，5つの種類（住宅・業務・店舗・娯楽風俗・工業）に分類し，それぞれの活動が行なわれる場合の各活動間の関連度をマトリックスとして表現した。これを親和マトリックスと呼び，具体的には正方行列〔A〕で与えられる。

$$〔A〕=\begin{pmatrix} a_{11}\cdots\cdots & a_{1j} & \cdots\cdots a_{1n} \\ \vdots & \vdots & \vdots \\ a_{i1}\cdots\cdots & a_{ij} & \cdots\cdots a_{in} \\ \vdots & \vdots & \vdots \\ a_{n1}\cdots\cdots & a_{nj} & \cdots\cdots a_{nn} \end{pmatrix}$$

Aの要素 a_{ij} は第 j 種の業種が1単位あるときに第 i 種の業種がもつ好ましさを表す。ゾーン k' に l' 業種が $m_{kl'}$ 存在するとすれば，第 ℓ 業種のゾーン k' における「好ましさ」は，$\sum_{l'} a_{ll'} m_{k'l'}$ となる。

つぎにゾーン k' にある業種分布がゾーン k におよぼす影響を重力モデルに従うとして $C_{kk'}$ とする。

さらに各業種が各ゾーンを占めるのであるが，各ゾーンも面積に限りがあり，そのゾーンの収容の和が増加するに従って，新たにそのゾーン



図－1　シミュレーションのフローチャート

表－1　区別予測結果表

		住宅	業務	店舗	風俗	工業	人口
東灘区	45	2983194.	116569.	224280.	42987.	1117253.	171109.
	50	3407779.	136568.	256125.	43429.	1263865.	202603.
	55	3828406.	158652.	280364.	44873.	1374487.	205718.
	60	4399250.	173041.	301399.	45839.	1467011.	215650.
	65	5196436.	181767.	322921.	46575.	1538676.	233758.
	70	5951931.	187753.	342607.	47521.	1598617.	247276.
灘区	45	2536334.	119051.	278313.	57112.	1010475.	170730.
	50	3170998.	143581.	320644.	63714.	1096207.	188526.
	55	3506246.	171419.	353696.	71783.	1165412.	188407.
	60	3702021.	192378.	383999.	77929.	1229699.	181472.
	65	3816828.	209135.	416424.	83046.	1290382.	171697.
	70	3901394.	225712.	448251.	88493.	1350458.	162085.
葺合区	45	1019868.	298268.	340029.	96295.	957390.	84889.
	50	999891.	338351.	413709.	116015.	1028525.	59447.
	55	907591.	391272.	475321.	141355.	1088044.	48769.
	60	821632.	433811.	533843.	161958.	1143644.	40276.
	65	743934.	469443.	597064.	179017.	1195684.	33465.
	70	673700	506067.	660800.	195809.	1246389.	27989.
生田区	45	1012267.	770235.	636158.	214927.	481416.	63397.
	50	917607.	777935.	690508.	232863.	511977.	54555.
	55	832042.	798596.	731793.	254643.	543412.	44709.
	60	754698.	807007.	769293.	268643.	575636.	36995.
	65	684786.	808752.	811233.	277640.	608591.	30805.
	70	621591.	812382.	853196.	285686.	642233.	25824.
兵庫本区	45	2240942.	284425.	582264.	184902.	1323684.	188333.
	50	2133691.	332051.	637817.	200924.	1484343.	126854.
	55	1937934.	390589.	678943.	219865.	1621462.	104134.
	60	1756810.	436494.	715455.	232247.	1750479.	86118.
	65	1593086.	473616.	754955.	240596.	1868835.	71664.
	70	1445095.	509765.	793521.	248551.	1984010.	60037.
長田区	45	2673232.	126504.	416333.	37453.	805797.	210066.
	50	3427609.	160375.	473987.	44103.	863787.	203782.
	55	3871360.	197775.	512956.	53868.	884199.	208026.
	60	4287069.	224918.	544700.	62760.	888944.	210151.
	65	4755677.	245386.	576844.	70905.	881753.	213931.
	70	5318076.	264590.	607564.	79511.	870343.	220942.
須磨区	45	1693722.	35472.	134049.	51081.	152907.	111080.
	50	2364430.	48461.	169125.	56706.	145888.	142769.
	55	3257774.	63921.	203738.	62764.	137065.	192846.
	60	3929922.	76574.	232012.	66673.	128050.	215358.
	65	4562912.	87323.	260057.	69268.	119029.	227900.
	70	5102637.	98154.	288256.	71673.	110282.	234684.

に入るには，より高い費用がかかることになる。いま，ゾーン k を占める業種の床面積の和を $N_k=\sum_i m_{ki}$ とすると，その影響は，N_k と容量との関係から定まる費用関数 $P(N_k)$ によって決まる。結局，親和力Sはつぎのように与えられる。

$$S=P(N_k)\sum_{k'}C_{kk'}\sum_{i'}a_{ii'}m_{k'i'}$$

したがって，都心では地価が高く，そこへ店を出すには，高い費用を払っても可能な業種のみが，その場所へ進出するという実情が反映されている。

以上が親和マトリックス・シミュレーションの概念で，そのフローチャートは図－1のようになる。

3）－3　シミュレーションの結果

シミュレーションの結果は，昭和50年から70年までを5年ごとに，ゾーン別，業種別に床面積の予測結果が得られている。これを区別にまとめたものが表－1である。

〔4〕都心の容積計画

4－1　都心区域の設定

都心の容積計画については，本作業の最重点事項として，その構成については，苦心をはらった。まず都心区域を，本市のマスタープランの都心構想を基本とし，商業率（現況調査にもとづく住・商・工の床面積比）・非木造率・昼夜間人口比等により補正し決定した。

4－2　都心容積の設定

容積率設定の課題を，つぎのように考えて操作した。

(1)　過大でない容積率を設定する。

(2)　バランスのとれた容積率を設定する。

都市の容積の増大は現在のところ否定すべくもないが，環境条件・交通条件等を考えると，安易に増大することは決して好ましいものではない。また極端に差のある容積率の設定は，地区の環境・私権の制限からみて問題がある。たとえば一律1,000％の容積率を設定した場合，広幅員街路に面する宅地は目一ぱいの建築が可能であるが，裏宅地はせいぜい3～400％の建築物しか許容されない結果が随所に生ずる。

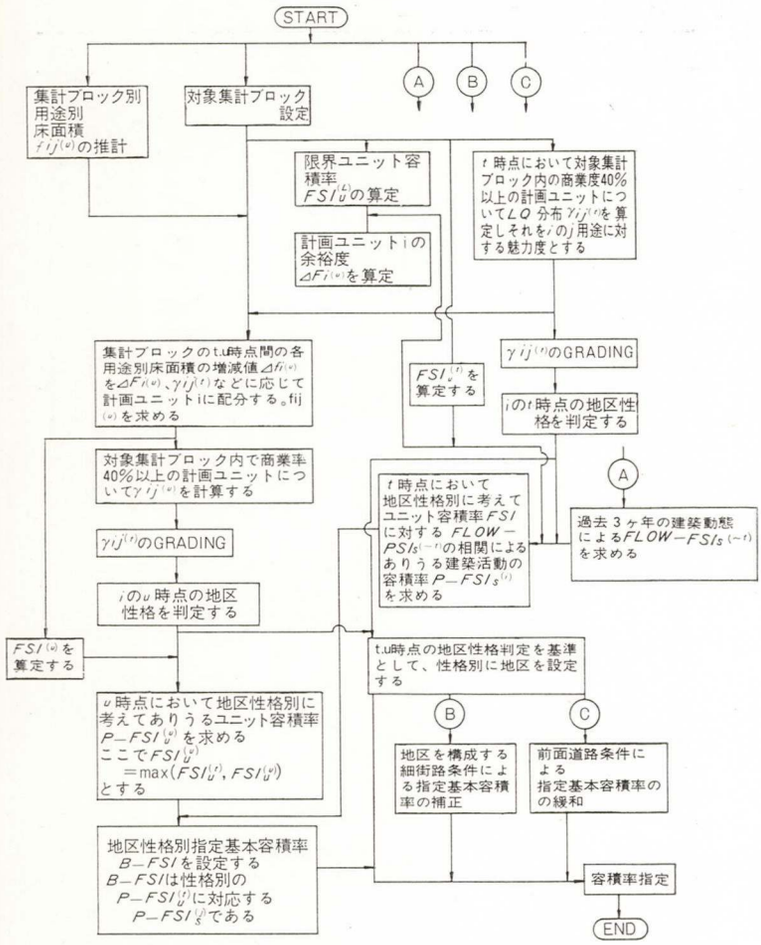
そういった地区内の相隣関係におけるアンバランスのほか，地区相互間のバランス（同じような性質をもつ地区に極端に差のある指定は好ましくない）も考えなければならない。

4－3　解析の方向

以上の課題から，都市施設とのバランスは都市容積全体でチェックするものとして，親和マトリックスによるシミュレーションから得た都心の将来予測容積の配分計画を策定した。これをブロックチャートに示すと，図－2のようになる。

なお，都心区域内の地区性格は，①業務地区，②商業地区，③娯楽地区，④官公庁地区，およびこれらの混合する地区とした。（図－3参照）

上記のブロックチャートにもとづく演算により，おのおのの地区性格の基本容積を設定し，これと地区を構成する細街路による補正条件と，前面幹線街路による緩和条件とを，セットして定式化することにより，市民の方々にも理解が得られ，差別感を与えないように配慮し，他の7つの地域とあわせて「容積率指定基準細則」（次頁参照）として構成した。



γij ;都心地区全体おいてのiユニットのj業種についての傑出度(I-ocal quotieut)

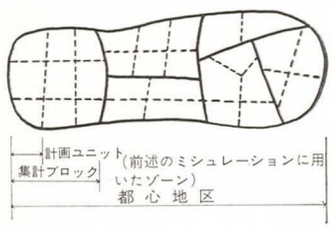
FSI ;floor space index（容積率）

$FSIu$;ユニットの容積率

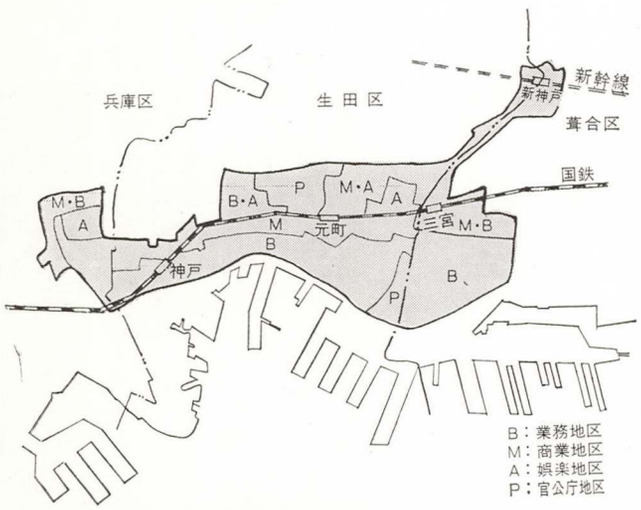
$FSIu$;単体の容積率

$P-FSI$;ありうる容積率（建築活動の容積率の巾を考慮した容積率）

上部の添字(t),(u)は時点を示し、時間の流れは(～t),(t)→(u)



図－2　都心区域容積配分計画ブロックチャート



図－3　都心商業地の地区性区域図

〔5〕む す び

以上が本市の新用途地域による容積制の計画概要である。今回の指定が今後の都市構造や機能に，どのような影響を与えるであろうか。行政効果についての研究を，今後引続いて行なう必要があるものと考えている。悪化する都市環境に対し，少なからざる効果を期待して止まない。

紙面の制約等の関係から，意をつくせなかったことについて，深くおわびする次第である。　（あさひ　あきお　神戸市都市計画局計画部計画課地域係長）

新用途地域容積率指定基準細則

〔A〕商業系

(1)　商業地域

地区性格 ＼ 地区細街路の条件 ＼ 上の欄の補正率 ＼ 基本容積		細街路が主として6m未満で構成されている地区 ×0.8	細街路が主として6～8mで構成されている地区 ×0.9	細街路が主として10m以上で構成されている地区 ×1.0
業務地区	600%	500%	500%	600%
商業地区	500	400	500	500
娯楽地区	400	300	400	400
官公庁地区	500	400	500	500
商業＋娯楽	400	300	400	400
商業＋業務	500	400	500	500
業務＋娯楽	400	300	400	400
都市ターミナル	600	500	500	600

幹線道路沿（奥行30mについて）

幅員30m以上の道路　＋200%

幅員20m以上30m未満　＋100

駅前広場　＋200

(2)　近隣商業地域

a）既成市街地

i）

駅のある場合			駅のない場合
乗降客数が	15,000人／日未満	200%	6ha未満　200%
乗降客数が	15,000～30,000人／日	300%	6ha以上　300%
乗降客数が	30,000人／日以上	400%	

ii）幅員27m以上の幹線道路に接する場合，奥行30mまでについて，100%を加える。

iii）商業地域に接する場合，その一街区を400%とする。

b，西北神地域

4住区以上の近隣センター　400%

4住区以下の近隣センター　300%

ただし近隣センターの面積と，団地人口の割合により補正する。

〔B〕住居系

(1)　第一種住居専用地域

種別 ＼ 項目	基準	建ぺい率	容積率
A地域	イ．敷地の80%以上が250m²以上 ロ．開発計画の未定な区域	40%	80%
B地域	イ．敷地の規模の80%以上が150～250m²	50	100
C地域	イ．敷地の規模の80%以上が150m²以下	60	150

(2)　第二種住居専用地域

i）基本を200%とする。

ii）幅員27m以上の幹線道路に接する場合，奥行30mまでを300%とする。

(3)　住居地域

i）基本を200%とする。

ii）幅員27m以上の幹線道路に接する場合，奥行30mまでを300%とする。

iii）近隣商業地域あるいは商業地域に囲まれている場合，または商業地に接する場合の一街区については300%とする。

iv）駅を含む住居地域内において，その乗降客数が15,000人/日以上の場合，駅周辺に限り300%とする。

〔C〕工業系

(1)　準工業地域

i）基本を200%とする。

ii）幅員27m以上の幹線道路に接する場合，奥行30mまでを300%とする。

(2)　工業地域　200%

(3)　工業専用地域　200%

3　新用途地域制による新制度

高度地区制

甫出裕紀

はじめに

わが国では，北欧諸国のように戸外の日当りのよい広場，公園などで日照を受ける生活様式はなく，個々の住宅のなかでそれを求めてきた。したがって，住宅の設計にあたっても十分に日照を考慮しており，概して南向き住宅が多いことがそれを物語っている。これまでのわが国の住宅はきわめて低層であり，また宅地規模が比較的大きかったことなどの物理的条件と，近隣関係が古い村落的意識の絆によって結ばれていたため，今日のような日照紛争は多くは見られなかったものと考えられる。

ところが，都市の巨大化，地価の高騰，宅地の狭少化などにともなって建築物は高層化し，とりわけ住宅の共同化および高層化が都心部から郊外へ向かって進展するにしたがって，日照阻害などの住宅地の環境破壊が急速な勢いで増加しつつある。日照問題に関する住民の反応は，住宅地の環境破壊を食い止めようとする局地的な住民運動から，地域の生活環境の改善運動などへと組織の輪が拡がり，それと同時に運動の内容も質的に大きく発展してきている。

現在，日照問題を満足に処理できる法律および行政機関はなく，したがって最終的な問題解決は裁判所における判決しかない状態である。そのため，行政機関で問題解決ができるよう法律の整備が要請されているところであるが，現時点は，建築審議会（建設大臣の諮問機関）の最終答申がほぼまとまり，それにもとづいてこれから法制化の準備が始まろうとする段階である。一方，住民から具体的な問題解決を要請されている自治体は，自衛策として，日照に関する条例や指導要綱を制定することにより，現下の情勢に対処しようとしているのが実情である。

日照問題は，国民の基本的人権および財産権，さらにはこれからの都市形成のあり方など，多岐にわたる問題を内蔵しており，この問題の解決はきわめて難解であると言わざるを得ない。日照問題を検討するために設置されている東京都の「太陽のシビルミニマムに関する専門委員会」による中間報告では，自治体としての都がとるべき措置として，つぎの点を指摘している。

(1)　条例の制定——①日照確保のための基準の設定　②関係住民の同意の手続　③公正な第三者を構成員とするあっ旋，調停機関を設置し，その裁定を得ることなどを盛り込むこと

(2)　現行制度の活用——①高度地区の早期指定　②容積率の低率化　③特別用途地区等の指定　④建築協定締結の推進　⑤都市計画法の開発許可制度の活用

(3)　その他——日照紛争処理共同基金の設置　②住宅地再開発の推進　③公園，広場などの確保　④誘導プロジェクトの実施　⑤住宅資金融資制度の改善

ここで指摘されている諸点のなかで，現行制度の活用は，新しい法律の制定や制度の新設を待つまでもなく実行できるものであり，とりわけ建築物の高さを制限する高度地区の指定は，日照問題の解決策としてかなり効果があがるものと考えられる。現在，各地で新用途地域の指定が行なわれており，地域地区制を効果的に活用することによって，いかに日照問題がカバーできるか注目するところである。

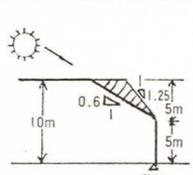
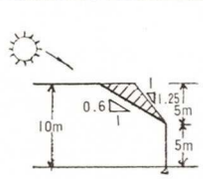
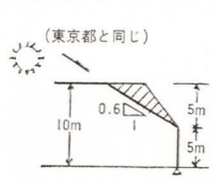
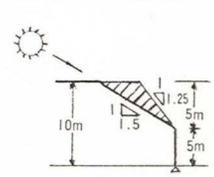
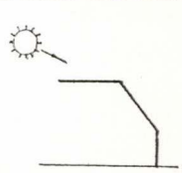
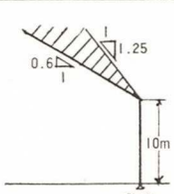
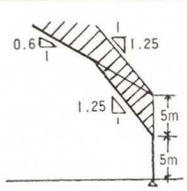
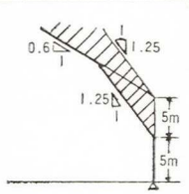
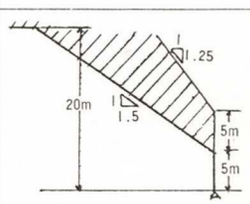
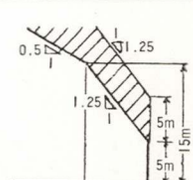
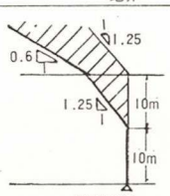
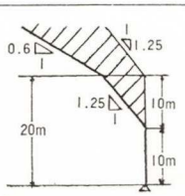
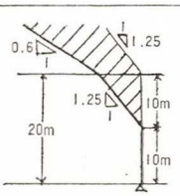
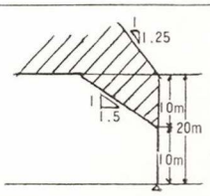
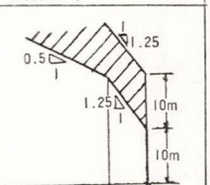
高度地区の指定

都市計画法の規定によれば，高度地区とは，市街地の環境を維推し，または土地利用の増進をはかるため，建築物の高さの最高限度または最低限度を定める地区である。したがって，高度地区内に建築される建築物の高さは高度地区に関する都市計画で定められた内容に適合するものでなくてはならない。

これまでの高度地区の指定は，良好な環境や景観を維持すべき地区において建築物の高さの最高限度が，また都心部など土地の高度利用をはかるべき地区ににおいて建築物の高さの最低限度が定められるのが一般的であった。

ところが，大都市およびその近郊では，地価の高騰，宅地規模の狭少

表－1　各府県高度地区の比較

種別	大阪府	東京都	兵庫県	愛知県	福岡県
第一種高度地区					
第二種高度地区					
第三種高度地区					

化および住宅の高層化にともなって，住宅地の環境は悪化の一途にある。一方，都市計画法および建築基準法の改正にともなって，第1種住居専用地域を除く各地域には，これまで各用途地域によって定められていた建築物の絶対高さ制限が撤廃されたため，今後ますま住宅地における高層住宅の出現が著しくなるものと予測される。新用途地域制では，これら高層住宅に対しては，北側斜線制限，容積率制限などを準備して対処することになっているが，とくに住居系の地域で住宅地の環境を保護する必要のある地域については，日照，通風，採光などを考慮した北側隣地からの斜線制限(北側斜線)を強化ないしは新たに付加することが考えられる。このことを高度地区の指定によって行なうとするものである。

この考えにもとづく高度地区は，すでに東京都，名古屋市，西宮市などで指定されているが，このたびの新用途地域の指定に際して，各地で積極的に指定されようとしている。

高度地区の内容

高度地区の内容は，**表—1**でわかるように，各府県とも，基本的な考え方においてはほぼ一致している。したがって，つぎに大阪府における高度地区の内容を紹介することにする。

(1)基本方針　高度地区を指定する際の基本となる用途地域は，第1種高度地区は第1種住居専用地域内に，第2種高度地区は第2種住居専用地域内に，第3種高度地区は住居地域または近隣商業地域内に行なうものとする。また風致地区内の高度地区の指定は，周辺の地域地区を考慮して行なうものとする。

(2)第1種高度地区　建築物の各部分の高さ（地盤面からの高さによる。以下同じ）は，当該部分から前面道路の反対側の境界線または隣地境界線までの真北方向の水平距離に0.6を乗じて得たものに5メートルを加えたもの以下とする。（図—1）

(3)第2種高度地区　建築物の各部分の高さは，当該部分から前面道路の反対側の境界線または隣地境界線までの真北方向の水平距離に0.6を乗じて得たものに10メートルを加えたもの以下とする。（図—2）

(4)第3種高度地区　建築物の各部分の高さは，当該部分から前面道路の反対側の境界線または隣地境界線までの真北方向の水平距離が8メートル未満の範囲にあっては，当該水平距離に1.25を乗じて得たものに10メートルを加えたもの以下とし，真北方向の水平距離が8メートル以上の範囲にあっては，当該水平距離から8メートルを減じたものに0.6を乗じて得たものに20メートルを加えたもの以下とする。（図—3）

(5)許可による特例等　都市計画法の規定により定められた，一団地の住宅施設もしくは市街地再開発事業の区域内に建築される建築物，同法の規定により行なわれる都市計画事業の施行として建築される建築物，住宅地区改良法第2条第1項に規定する住宅地区改良事業により建築される建築物またはつぎの各号の一に該当する建築物で，特定行政庁が周囲の環境上支障がないと認め，建築審査会の同意を得て許可した場合においてはこの限りでない。

① 建築基準法第52条第3項第3号，第55条第1項第3号および第56条第3項の規定により，建築基準法施行令第136条に定められた敷地内の空地および敷地面積の規模を有する敷地に建築される建築物

② その他，公益上やむを得ないと認めたものまたは土地利用上適当と認めたもの。

(6) 制限の緩和措置

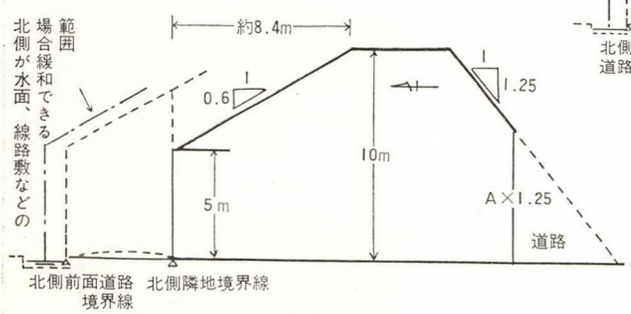
① 北側の前面道路の反対側に水面，線路敷，その他これらに類するものがある場合または建築物の敷地が北側で水面，線路敷，その他これらに類するものに接する場合においては，当該前面道路の反対側の境界線または当該水面，線路敷，その他これらに類するものに接する隣地境界線は，当該水面，線路敷，その他これらに類するものの幅の2分の1だけ外側にあるものとみなす。

② 建築物の地盤面が北側の隣地（北側に前面道路がある場合においては，当該前面道路の反対側の隣接地をいう。以下この項において同じ）の地盤面（隣地に建築物がない場合においては，当該隣地の平均地表面をいう。次項において同じ）より1メートル以上低い場所においては，その建築物の敷地の地盤面は，当該高低差から1メートルを減じたものの2分の1だけ高い位置にあるものとみなす。

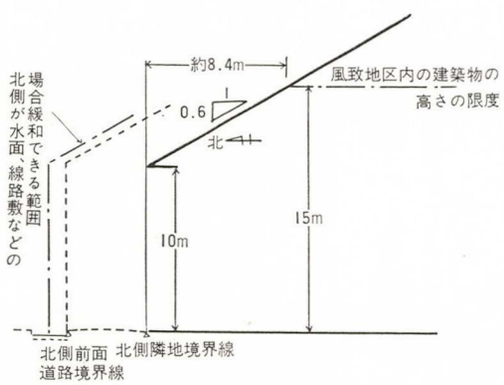
③ 建築基準法施行令第131条の2第2項の規定により計画道路を前面道路とみなす場合においては，その計画道路内の隣地境界線はないものとみなす。

④ 建築基準法第86条第1項の規定の適用により，特定行政庁が同一敷地内にあるものとみなすことを認めた建築物は，この規定規定についても同一敷地内にあるものとみなす。

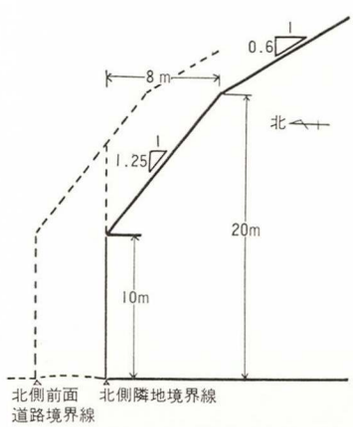
（ほで　ひろき　大阪府建築部建築指導課審査等二係長）



図—1　第1種高度地区



図—2　第2種高度地区



図—3　第3種高度地区

3　新用途地域制による新制度

総合設計制度について

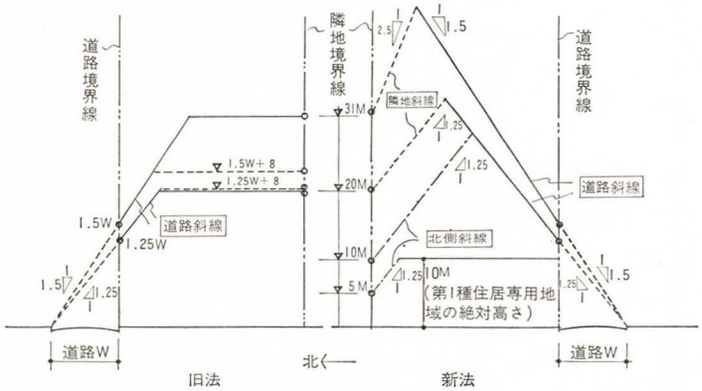
岡　村　雅　央

1.　建築物の形態規制

建築基準法改正前の建築物形態規制は，建ぺい率・住居地域20mその他の地域31mという絶対高さ制限・道路幅員（Wm）による高さの頭打ち（W×1.25＋8mまたはW×1.5＋8m）および道路斜線による高さ制限により行なわれていた。これは同時に容積規制の役割をはたしていたといえるが，直接的な容積規制ではないので，階高を小さくしたり（このため，20mで7階建，31mで11階建という共同住宅が一般化してしまった），地階を設けることにより容積率を大きくできるものであり，都市景観上も満足できるものではなかった。

法改正により容積制になると道路幅員による頭打ちも加味した最大延べ面積が規制できるので第1種住居専用地域の10m規則以外は，絶対高さ制限，道路幅員による高さの頭打ちが撤廃されることになり，建築物の形態は建ぺい率，容積率および斜線制限により規制されることになった。

斜線制限は近隣および道路に対して採光・日照・通風・開放感などを確保することを目的としているものであり，隣地斜線制限が附加された。第1種住居専用地域および第2種住居専用地域では北側隣地の日照を考慮した北側斜線制限がはたらく。（図—1）



図—1　建築物の高さ制限

2.　総合設計制度とは

(1)　法第52条第3項「次の各号の一に該当する建築物で，特定行政庁が交通上，安全上，防火上及び衛生上支障がないと認めて許可したものの延べ面積の敷地面積に対する割合は，第1項（用途地域および道路幅員による容積率規制）の規定にかかわらず，その許可の範囲内において，同項の規定による限度をこえるものとすることができる。」第3号「その敷地内に政令で定める空地を有し，かつ，その敷地面積が政令に定める規模以上である建築物」の規定による容積率の緩和。

(2)　法第55条第1項「第1種住居専用地域内においては，建築物の高さは，十メートルをこえてはならない。ただし，次の各号の一に該当する建築物についてはこの限りでない。」第3号「その敷地内の政令で定める空地を有し，かつ，その敷地面積が政令で定める規模以上である建築物であって，低層住宅に係る良好な住居の環境を害するおそれがないと認めて特定行政庁が許可したもの」の規定による絶対高さ制限の緩和。

(3)　法第56条第3項「その敷地内に政令で定める空地を有し，かつ，その敷地面積が政令で定める規模以上である建築物で，特定行政庁が交通上，安全上，防火上及び衛生上支障がないと認めて許可したものの各部分の高さは，前二項（斜線制限）の規定にかかわらず，その許可の範囲内において，これらの規定による限度をこえるものとすることができる」の規定による斜線制限の緩和。

以上，(1)(2)(3)の許可に関する運用の制度を総合設計制度という。法改正の際に見出しを総合設計と名付けて条項を一つ新設する予定であったが，法制局段階で条文組替えが実現しなかったものであり，「総合設計」の用語が残ったものであるときいている。

総合設計制度とは一定規模以上の敷地で一定割合以上の空地を有するよう合理的な設計がなされた建築物形態に対する特例許可の制度といえる。特例許可の受験資格ともいうべきものが敷地規模および空地率であり，政令第136条に規定されている。建築基準法は最低の基準を定めているものであるが，総合設計制度では一定水準以上の良好な建築物の実現を誘導しようとしていることが明らかである。政令で定める空地率は法定建ぺい率の裏返しとしての最小空地率に少なくとも15%または20%を上積みして得られるものであり，敷地規模の下限は用途地域に対応して1,000㎡，2,000㎡または5,000㎡である。敷地規模の下限は特定行政庁が街区形状，宅地規模その他の土地の状況に応じて規則により半分にできることとされている。

3.　総合設計制度の目的

総合設計制度は，建築計画に対する容積制限・絶対高さ制限および斜線制限を特例許可により緩和することを条件として，敷地規模の拡大を促進することによって土地の有効利用を推進し，あわせて敷地内に日常一般に開放された公開空地を確保させることにより市街地環境改善を図ることを目的としている。

この制度はギブ・アンド・テーク（広辞苑によれば，①交換すること・譲り合うこと・歩み寄り・初めは貿易について言われた。②公平なやりとり。自分から相手に利益を与え，その代りに自分も相手から利益を得ること。）の考え方に基づき相互利益（公共の福祉増進）をはかろうとするものであるともいえるであろう。建築主側からいえば「ギブ」は敷地を分割することなく合併することにより規模を拡大する努力であり，合理的設計により生みだした空地を近隣地区住民や通行者に対して公開することなどであり，「テーク」は「ギブ」に見合う範囲内で容積制限，絶対高さ制限および斜線制限のうち一つか，二つかまたはすべてを突破し得ることである。「ギブ」には与える，授ける，譲るのほか委ねる，託すという意味があるように「テーク」の範囲の公平性は行政側の許可権に委ねられるべきものである。行政側の許可行為には審判役である建築審査会（公共の福祉に関し公正な判断をする——建築基準法第79条）の同意を要することが法で定められている。

総合設計制度の運用は，法的に特定行政庁に委ねられているが，各特定行政庁ごとに運用の差異が大きすぎては，いろいろと問題が生じるので，昭和46年9月に建設省から通達「総合設計に係る許可準則及び同準則に関する技術基準」が出された。この通達の積極的かつ弾力的運用を指示していることが注目される。

4.　通達（総合設計許可準則に関する技術基準）について

(1)　容積率制限に関する緩和

（割増床面積）＝K_1×K_2×（公開空地面積の合計）

＝K_1×（公開空地の有効面積の合計）

①公開空地：公園のように日常一般に開放される空地をいい，車のためでなく人のための空地をいう。このためには，一つの公開空地のまとまりとして受験資格であるところの敷地面積下限の1/10以上，幅4m以上，接道率1/8以上，道路との高低差6m以内といった条件をすべて満足させるものでなければならない。かつ，公開空地は建築基準法に基づいて設けられたものである旨を明記した標識を設ける必要がある。

標識の設置は一般の人が公開空地を遠慮なく利用できることの表示だけでなく，公開空地を将来駐車場などに転用することを防ぐため，一般の人が監視の役目をはたすことも期待している。

接道率は空地の開放度および寄りつきやすさを指数化したものである

から規模が十分大きいものは接道率1/8以下の場合でも評価し得るケースが多い。道路との高低差も寄りつきやすさの尺度となるものであるが，歩道橋やペデストリアンデッキなどに連続するような場合は高低差6mをこえても公開空地として評価できる。

公開空地は小公園・広場・植込みや花壇スペース・歩道・通り抜け通路などに利用され，人のためのオアシスとなりコミュニティ形成の場となる。敷地単位で確保された公開空地が順次連繋して「点」から街区単位地区単位の「線」「面」に発展すればその効用は都市施設に匹敵する絶大なものとなる。したがって総合設計の場合は敷地単位のみで建築計画を行うのではなく，街区，地区の将来像を意識して公開空地のとり方に留意しなければならない。またそのような配慮のある公開空地の確保は，公共事業に準ずるものとして高く評価しなければならない。そのためには，行政側においても建築主側においても個々の建築計画が公共の福祉増進に寄与し得るように前もってその街区・地区の具体的なマスタープランを樹立しておく必要がある。壁面線指定・建築協定・高度利用地区などの適切な活用が期待される。将来構想において最も重要なものの一つは車の動線と分離をはかった歩行者通路の確保であろう。単に平面的の歩道確保にとどまらず（現状では，歩車道分離ですら十分なされていないが），いわば「歩行者専用高速道路」「ペデストリアンデッキ」「恒久的歩行者天国スペース」を歩みだすようなものであってほしい。日常，街のなかで，友との話に夢中になりながら，時にはもの思いにふけりながら真直ぐ歩き続けたいと考えるのは贅沢な夢であろうか。

②K_1：敷地の指定容積率に比例する係数である。行政側が都市施設として公園を整備する場合，用地費が指定容積率に比例してかさむことを考えてみれば納得がいく。大都市と大都市以外では地価の要素が加味されて評価に差がつけられている。

③K_2：公開空地の開放度や寄りつきやすさに比例する係数である。ピロティの有効高さや道路面からの見透しの良さの要素も入ってくる。

なお，公開空地率（公開空地の有効面積の合計／敷地面積）が一定の割合（0.2〜0.5）に満たない場合は，原則として床面積の割増は認められない。また，指定容積率が900%か1,000%の場合は割増床面積の限度は2割で頭打ちとなる（900%→1,080%　1,000%→1,200%）。

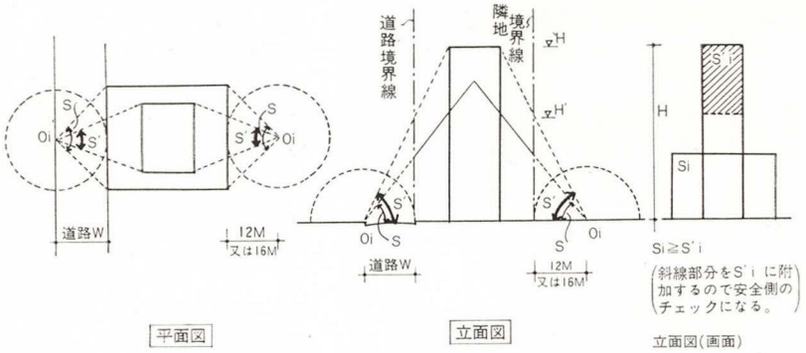
(2) 絶対高さ制限に関する緩和

第1種住居専用地域の絶対高さ10m（通常3階建まで）の緩和であるが，この地域の建築物用途規制から推定すれば学校・宗教建築物・電話局・共同住宅などで10mをこえる場合が生じる。法第55条第1項第2号で学校その他の建築物であってその用途上やむを得ないと認めて特定行政庁が許可したものは10mをこえ得るものとされているので，総合設計制度にはもっぱら中高層共同住宅がのってくることになろう。

政令第136条の総合設計制度適用の受験資格が敷地5,000㎡以上，空地率60〜85%以上と厳しい。さらに通達では北側に対する日照の影響を配慮して一般規制による北側斜線制限H＝5m＋1.25Lに対してH＝4m＋0.5L（H：建築物の各部分の高さm，L：北側隣地境界線までの真北方向の水平距離m）であること，または塔状築物であれば隣地に対し冬至における日照時間を午前9時から午後3時までの間に4時間以上確保することを条件としている。したがって絶対高さ緩和の日照条件は，平家建住宅が北側隣地境界線に接近して建つ場合の日照阻害程度になっている。また敷地の各辺についてつぎに述べる斜線制限緩和の際に考慮すべき事項のチェックをも条件としている。

(3) 斜線制限に関する緩和

斜線制限の役割は，敷地単位に用途地域に対応させて建築限界をきめる立体的な網をかぶせることにより，隣接敷地および道路に対して採光・日照・通風・開放感などの最低基準を確保することであるといえる。敷地のまわりに永久空地としての公園・広場・水面・軌道敷などがある場合には「網」はより大きなものになる。「網」の物理的心理的な規制内容を隣接地や道路における「明るさ」規制に代表させるのが総合設計制度の斜線制限緩和の考え方である。「明るさ」に比例して通風・開放感も大きく確保できると考えられる。「明るさ」を計画建築物による天空光遮蔽量に置き換えるのである。高い「網」であっても幅が小さければ，低くても幅の大きい一般規制の「網」と同等以下の天空光遮蔽量になる場合がある。通達では敷地境界線上の各辺において一般規制による許容壁面（S_i）と同面積の壁面（S_i'）は天空光遮蔽量が同じであるとして$S_i \geqq S_i'$となるように斜線緩和の限度をきめている。通常は計画建築物の壁面は敷地境界線上にないので，境界線上の壁面量に換算してS_i，S_i'を比較することになる。換算にあたって道路側および隣地における視点O_iを定め，計画建築物の壁面を境界線上の画面に投影させる。O_iの位置は明るさを定め得るなかで一番明るい点すなわち斜線が道路側および隣地と交叉する点であり，道路側では道路の反対側の境界線上，隣地側では住居系地域で20m/1.25＝16m，その他の地域で31m/2.5≒12mとなる。なお，投影は壁面の幅についてO_iへしぼることになるが，壁面の高さはしぼらずに実長をとることにして安全側のチェックがなされる。北側斜線制限は原則として緩和されない。（図—2）



図—2　斜線制限緩和の検討

5. 総合設計制度の問題点

(1) 特定街区制度との関係

制度の目的は基本的にミニ特定街区といわれる総合設計制度と同じであるが，特定街区は都市計画として決定されるので，手続上の差異だけでなく，都市計画上の意義が重要視される。一街区以上のスーパーブロック計画やターミナル駅前計画など都市計画上重要なものが特定街区制度によることになる。

特定街区は建築基準法の形態規制の適用を受けず都市計画でその内容を決定するものであり，特定街区計画標準が建設省通達として出されているが，総合設計制度との整合性をもたせるよう調整をはかる必要があるだろう。

(2) 一団地の総合的設計について

総合的に設計された住宅団地などにおける敷地単位の形態規制等の一律的適用は不合理な点が多いため，全体を一敷地として扱い，その矛盾を解消しようとするものである。また一団地の住宅施設として都市計画決定された場合には容積率，建ぺい率および10mの絶対高さ制限の適用が緩和される。

(3) 通達（総合設計許可準則に関する技術基準）について

斜線制限緩和は$S_i \geqq S_i'$が条件となるが，受験資格の空地は単に割合のみであり，公開性のない空地のみになる恐れがあるので，必要空地率に対して一定割合以上は公開空地として確保させるべきであろう。

変形敷地でのS_i，S_i'の検討方法や，一般規制を示すS_iは指定容積率に対応して，てい減させてS_i'と比較検討する考え方や，隣地境界線上に近接して計画壁面がくる場合で隣地が二以上の区画に分れている場合は，特定の隣地にしわ寄せがいくことに対する配慮なども問題点であろう。

（おかむら　まさお　大阪市建築局営繕部企画課）

村野藤吾先生を囲んで
—建築家に話を聞く会—



出席者：若い会員の集い小委員会委員
きき手：福田晴虔氏（大阪市大講師）
と き：昭和48年2月24日
ところ：綿業クラブ

□はじめに

柳副委員長　きょうは皆さん，お忙しいところを多数お集りいただきましてありがとうございます。

「若い会員の集い」の催しを重ねているうちに，ぜひ村野先生を囲んで，私ども生れていない時代から，ずっと今日まで，常に新しい創作活動をつづけておられるその先生にいろいろお聞きしてみたいとか，先生の作品に接することはできても，その作品の拠りどころ，あるいは設計の過程の一端をお伺いできたらとか，そういう希望がでてまいりました。

対談のような形になりますが，座談的にあまりかたいテーマは抜きにして，本当に今日は，ぶっつけ本番でございますが，なごやかに先生のご体験，建築活動，さらに常日ごろお考えになっておられることなどを委員の皆さんを交えて，福田先生にいろいろと引きだしていただこうと，いうことになったわけでございます。福田先生どうぞよろしくお願いいたします。

□島之内の文化

福田　このたびのお話，柳さんを通じて先生のご意向も伺いますと，できるだけかたい話にならないようにということでございましたので，ほんとはあらかじめご相談申しあげればよかったんですが，私のほうの考えましたところで，最初の話の取っかかりというようなつもりなんでございますけれども，大阪という土地といいますか，先生がずっと大阪にいらして，そこに本拠を据えて仕事をなさっていらっしゃる，そういうことから，大阪という土地にまつわるお話から，進めていただいたら，おもしろいんじゃなかろうか，というふうに，勝手に考えたのでございますけれども……。そういうことでご了承いただきまして，少しいろいろお話をお伺いしたいんでございますが。

村野　私は大阪へ来て足掛け57年……うちの家内と結婚して50年も過ぎましたから，それより4，5年前ですか。おそらく皆さんまだ生まれてないときですから，申しあげてもピンとくるかどうかわかりませんけれどね。

まあ人間のチャンスというのはおかしなものだと思いますけれども……，私がこちらへ来ましたころは，今日のようないわゆる大阪の地盤沈下なるものはありません。そのころの大阪は何しろ綿業の中心でもあるし，非常な経済力を持っていました。大阪で名をなした財界人は，たとえば江州系の人，それから北陸，ことに福井，金沢あたりの人がだいたい財界の中心勢力じゃなかったかと考えておりますがね。それらの人はすべて非常に勤勉であったし，それから非常に実際的な人ですね。東京はそのころになっても非常に（いまは違いますけれども）ペダンチックで，何か格式があったり，経歴があったり，それから肩書がないと，ちょっとなかなか取っつきができなかった。そういう点で大阪にたいへん私は心を引かれているわけです。

もっとも私の生れは九州ですから，多少地理的には近い感覚もあったんですよ。

福田　先生は早稲田大学を卒業なさってすぐに渡辺先生の事務所へお入りになったわけでございますか？

村野　そのいきさつですが，いろいろありますが，一つは友人の影響です。私の同窓で親しい友人に大阪の船場の人がいましてね，学生時代にこちらへ来て，家庭のことなどよく知っていました。非常に品のいい，代々宮大工の家柄で中庭のある薄暗い家でしたけれども，いつも座敷は青畳でした。そうして船場，島之内の人のいい生活というものは立ちい振るまいが非常にもの静かで，それでいて，そういうところに丸善が出入りするというんですから，町家の生活のなかに学問や新しい傾向に興味をもつというところは，非常に東京と違うわけです。文化の深さといいますか，物静かで，しぶい生活で，高い声で話をしないような日常の生活をしているわけですね。こんな生活なのに人はみな新しい小説を読むというような，そういう傾向がありました。

もっとも，私の友人の家というのはおもしろいんですよ。前にも言ったように宮大工さんで生国魂神社なども建てたほどのうちです。友人の長兄になる人は大阪の一般の習慣にしたがって丁稚奉公に出されるわけですね。なかなかよくできる人で，話は余談になりますが，まあ大阪の船場，島之内のいい家庭というのはこういうものだという意味を……それからまたそれに引かれるという意味をここで申しあげるんですが。

その長兄になる人が丁稚に出されたんですけれども，非常に学問が好きな人でしてね。それで丁稚をほどなくやめて，（まあ了解を得られたんでしょう。非常に金持ちなんですよ，うちは。）中学校の検定試験を受けて，それから一高に入って，東大に進んで，そして哲学をやった人です。ケーベルという哲学者の弟子ですね。阿部次郎，安倍能成，岩波さん，みんな同期なんです。船場，島の内の良家の家庭の様子を申しあげたのですが，こんな傾向に私は非常に心をひかれました。

そういうような，（すべてじゃありませんけれども）船場，島之内のいい家庭というのはそういう傾向をたどる。それでいて自分は丁稚にやられる。非常に実際的なところがあるし，また同時に，非常に，一口に言えば"いぶし銀のような文化の深さ"といいますかね。そういう家庭なんですね。で，おそらく私の友人の家庭ばかりじゃなくて，船場，島之内の気風というものはそれで大体おわかりだと思います。



富田屋 昭和32年



北川邸
昭和34年



北川邸 昭和34年

非常に厚さといいますか，東京のような直輸入の文化でなくて，自分自身の持っている深さというものがあるわけですね。これに私，まず学生時代に心をひかれたわけです。しかし大阪に来ることができたのは，渡辺事務所の渡辺先生から招かれたのがチャンスです。

□自由な大阪

福田　私はまた，全くの偶然で大阪へいらしたかと思っていたんですけれども……。

村野　機会というのはそういうことです。その友人のところの家庭を私は非常に尊敬し，ああ，いい家庭だなあという感じ。そこで，私の建築の傾向の一つになると思いますけれども，少し暗い，渋い……暗くて，それでいて奥の座敷は澄んでて，いつも青畳で，それで襖とか障子はりっぱに維持されて，中庭があって……。ですから，自分の仕事の上の一つの傾向がその時に私は頭の中にしみ込んでいるのじゃないかという気はいたしますがね。

それで学校を卒業するまぎわになる，そうしたら，これは何べんも申し上げたことだが，ともかく早稲田の私は六回目ですが，まだ世間によく知られない，景気もあんまりよくないころですから，職を求めるということはなかなか……役所へ行くのなら何でもないんですが，私は役所などへ行こうとは毛頭考えなかった。それで亡くなった佐藤功一先生が奔走して，「大林組の設計部に君，行ってくれたまえ」といわれてきまりましてね，東京駐在ということで，東京支店詰めということになりましてね。で割合に月給もくれるし，それじゃそこへきめようかなと。

ところが，うちのおやじから大へんな故障が出てきた。いまでこそ九州とか東京，何でもないんですが，ともかくわれわれのときには九州に行くのに十何時間という距離があるわけですね。それで親ですから，学校を卒業したらまずなるべく自分の近くのところへ置いてと，何か親は親らしい夢があるわけですよ，それを東京にわたしがおるものですから，きっと東京じゃ，うちへ帰ってこないだろう，ということになりましてね。親が非常に反対した。そんなら卒業の金をやらんとか何とかいろんなことを言ってきましてね。困ったなあと思ったんですが，きまった以上は仕方がない。そのときに渡辺先生というのはなかなかえらい先生で，自分のところへ来てもらうのに，学校へ行って，いちいちその作品を見て，それからきめるというような態度ですね。

そういうことで，何かの機会で，わたしのディプロマが気に入ったのでしょうか。変なディプロマですけどね。いまから考えると。

とにかく，それが気に入ったと見えまして，「これをどうしてもおれのところに何とかよこしてもらいたい」「これはきまってる」と言うと，「じゃ，大林にぼくが直接交渉する」と。そんなことで，今のことばで言えばスカウトされて，それで渡辺事務所へ来たんです。これはうちの者も，おやじたちも，東京が大阪になったんだから，非常に喜ぶ。自分としても大阪は決して嫌いじゃない。で大阪ということになった。

その一つの理由は，さっき申しました通り，その頃名をなした実業家というものは皆苦労して，自分でたたき上げてといいますか，自分の力でそれだけになった人が多いわけです。したがって，自由といいますか，東京と違って，何もかかわりない，自分の目的さえ達してくれればその人に頼むという，何にも先入主がない。したがって，私は今でも記憶に残ってる建物が二，三目についているのは，東京にないような自由な建築がそのころ私の目を引くわけです。

もともとわれわれの時代はいわゆるセセッション万能の時代ということでありまして，新しい建築に変りつつある転換期みたいなものです。ですからそういうところには非常に引かれるわけですね。それが，大阪に行ってもいいという気になった動機だし，それからそういう機会を与えてくださった渡辺先生の……何といいますか，どこが私見込まれたか知りませんけれども，そういう機会で……。両々相まって，関西が非常に好きだものですから，そういうことでこっちへ来る機会があった。

ですから，ここで申し上げたいことは，その当時の大阪は非常に自由であったということ，力さえあればいつでも名をなすことができるという，こういうところが大阪では一番大事なことじゃなかったかと。東京と比較しますと，もう今日とだいぶ違うわけですが，やや大阪もだんだん東京に近くなって……気分的にですね。やっぱり世の中が変るからそうですが……。以前はそんなことはありません。実際に仕事をした人が多かったですね。ですから渡辺先生などがあれだけの仕事をなさったということは，全く大阪という地盤があったからできたのじゃないかという気がするんですがね。ですから，そこはもう東京と大違いですね。その点では。

福田　この建物綿業クラブは，渡辺先生の傑作の一つといわれておりますが，どうもお話しを伺うと，村野先生がほとんど線をお引きになったという……。

村野　いや，これは渡辺先生の作品ですけれども，ただわたしはこの仕事に関係さしていただいたというだけのことでございますけれどね。

これはまた他の話になるんですけれども，とにかく学校では先生の言うことをなかなか聞かない。まあこのごろの学生もそうでしょうと思いますがね。（笑い）で，スタイリッシュの問題が出ても，決してスタイリッシュのをやらなくて，セセッション一点ばり。というのは，自由な考え方で——まあ先生の評価もあまりよくなかったんですけれども——やってきたものですからね，それがこういうスタイリッシュなものに関係させられて，学校を出たときは相当目方があったんですが，渡辺先生のところへ来て三年目には，もうごっそりやせてしまってね。（笑い）それくらい苦しい思いをした。

もっとも，渡辺事務所に入って以来，ずっと様式的な建築に関係させていただいて，次第にそのよいところがわかってきまして，この建物などは，渡辺事務所では最後の仕事です。しかし，結果から言えば，大変わたしはいい修業をしたと自分では思っているんですがね。これをやりますとすぐ，お許しを得て，事務所を一人で持つようになったんです。渡辺先生のところへご厄介になって約十五年間ですか，それくらい修業時代といいますか……。それは今とスピードが違いますから，そのころの十五年といったら，ほんとに相当長いですよ。

福田　渡辺先生という方もずいぶん大阪ということを意識して仕事をなさっておられたように……。

村野　ええ，あの人，大阪でなければね。東京に向かない人でしょう。東京では格式とかいろんなものでえらくなれるけれども，渡辺先生のように実力を持った人は，東京よりも大阪のほうがドンピシャリでしょうね。一番合った人で……。

それで大変な力を持った人だし，それから目のつけどころが違うわけですよ。そうして非常に実際的でしてね。だから当時の大阪の実業家には受けたわけですね。

福田　実際的ということと……ここら辺ちょっと話がむずかしくなっちゃうかもしれないんですが，割合クラシックなスタンダードを踏まえた作品というのがどうやって両立していくのかというのは，なかなかぼくらにわからないんですね。そこら辺の……。

村野　技術としての建築と見れば様式如何ということは同じですからね。たまたま最近用があって，タウトが来たときに，旧朝日会館で講演会があって，そのときに私が自分で話しをした原稿をちょっといま整理をしているんですが，「日本における折衷主義の功禍」といいますか，最近出版された学会の論文集みたいなものができまして，あの中に入ってるんですが，そのうち，「禍のほうは言われてない」と批評されてありますけれども，ほんとは禍の方を言ってるわけですよ，わたしとしては。最後に一言いってるわけだけれども。ですから，それでおわかりの通り，まあクラシックというよりも折衷主義でしょうね。もちろんその中にクラシック，言って見れば様式的な勉強をしなければできないわけですね。ですからこれが，そこをよく，その当時の私の気分など，よくあらわれておる……。

福田　そこら辺の話をやっていきますと，またちょっとかたい話になりますので，もうちょっと後回しにいたしまして……。

先ほどのお話しですと，船場，島之内のああいう雰囲気というか，そういうのを感じとられたというお話なんです。それから，現在だいぶ変りはじめてきたというふうにもおっしゃっておられるわけなんですけれども，しかし大部分，おそらくここにいる方たちは，先生が変りはじめたとおっしゃったころに生まれたような世代だと思うのです。

村野　そうですねえ，もっとそれよりあとかもわかりませんね。

福田　それでも，私，大学で歴史を教えてるものですから，こちらへまいりまして，いろいろ同僚に頼まれたりして，こちらの古いものを見て歩いておったわけです。

こちらへ来ましたのは四年前ですけれども，その年にすぐ大阪府下の民家の調査をやらされたわけです。で文化財に指定するような，指定候補の民家ばっかり見て歩いたものですから，特別にいい家ばっかりだったんですが，それまで関東にいて見ていたいわゆる民家というのと，あまりにもケタ違いなもので，驚いてしまいまして，どうしてこういういいものがあるのに，今の大阪というのはだめなんだろうという，そういう気がしてしまったんですけれども，先生のお考えで，いつごろからそういうふうな変り方がはじまったとお考えですか。

村野　まあ私に言わせればね，戦後からじゃないですか。戦前はむしろ関西の方が良い建物があったし，経済的な優位さもさることながら，渡辺先生や片岡，長谷部，安井，松井，竹腰その他，優れた建築家が，それよりもっと古いところで日高，その他有名な建築家やその作品などがありました。それらの先生方の作風は人によって，ちがいますが大体において，所謂折衷主義的な傾向と言ってよいと思います。このような傾向は，実際的で関西の土壌には育ちやすかったし，建築的にも，その時代としてはそれだけの理由があった。この点については，「日本における折衷主義建築の功禍」という題で，ブルノー・タウトが来た時に話した通りであります。しかし折衷主義は，実際的ではあったが，そのなかに，建築が次の段階に変位する要素を含んでいないで，それ自身で没落する，つまりそれだけで終るという，要素があった。これが折衷主義建築を語る重要なポイントだと思います。少しむつかしく言えば，折衷主義，平たく言えば，様式的な建築が時代の変化についていけなくなって，次第に主観的な方向に押しやられて客観性を失なっていくことになったと思います。言うまでもなく，客観性が失なわれるということは数値に変るものがない，ということです。数値が失なわれるということは，進歩や社会の変化に変位するものがなくなったと言えるでしょう。これは，あらゆる建築の興亡や変遷に当てはまるもので，折衷主義建築の没落についても例外ではないと思います。

さらに言葉を変えて言えば，次代に生き延びるための理念に欠け，次代への適応性を失うということは，非常に良いところだけが抽象化されてそれ以外のものは，取り残されていくことを意味します。そして，その抽象化された部分が即ち古典として伝承芸術のような形で温存されましょう。私はこの現象を主観という言葉で述べました。そこで渡辺先生のことを申し上げたい。渡辺先生の言葉をそのまま借りれば，「売れる設計をしてくれたまえ」というのが渡辺先生の口癖ですね。その意味は折衷主義が客観された状態，すなわち普遍的な状態を指します。先生は自分でプランとか計画とか基本的なことをなさって，そうして私が外観のスケッチをして，先生の了解を得て，「ああ，それならいいから」ということでやりますね。その時には，売れるやつをやってくれたまえという……つまり「図面が売れる」ということばは非常に卑近，皆さんにはピンとこないかもわかりませんけれども大体において折衷主義的な一様式的な一アメリカ風のもが多かったが，その間における先生のお気持というのはよくおわかりでしょう。設計が関西のクライアントに承諾されて実現されるようなものをやってもらいたいと。実現されないようなものをやっても事務所は困るということだと思います。これは建築事務所の経営としては当然なことです。それなら，売れるのは一体どういうものかということになると，そこに問題があるわけですね。いい建築も悪い建築も……みんな売れる建築のなかに含まれ，その中にいろいろあ

るわけでしょうからね。それから先はわれわれとしては，第一義的なものをねらう以外はありません。先生はわれわれの努力にまかして，いいのをこしらえるように指導される。これが関西における一建築事務所のあり方です。しかし，戦後は事情が変った。その有力な理由は関西における経済的な地盤沈下ではないかと思います。

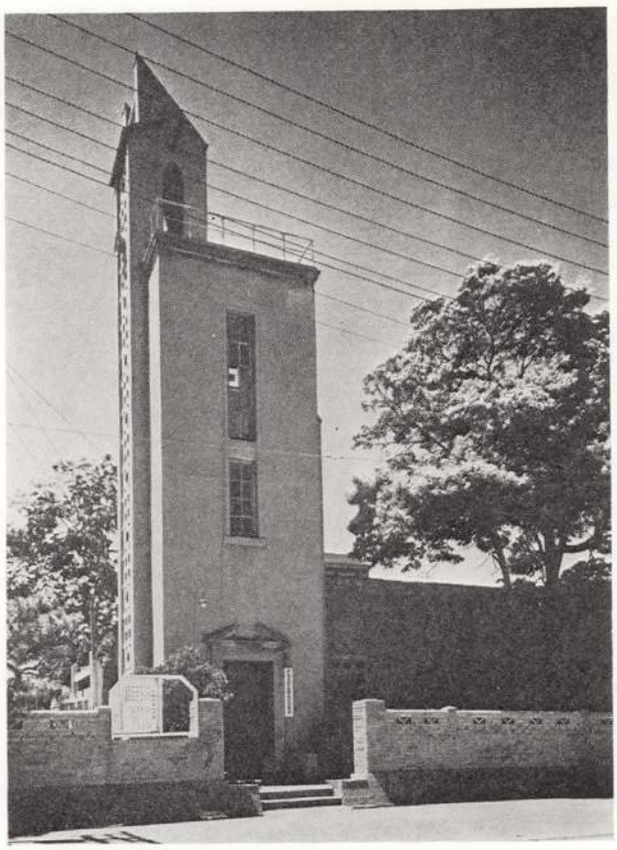
福田　何かわかるような気もするんですけれど，結局売れるというのは，ぼく流に解釈しますと，結局その図面に描かれたもの自体が，ある大阪なら大阪という土地の文化を踏まえてるというか，そういう文化の上に乗っかってる，というふうなことなんでしょうか？

村野　そうですねえ，遠回しに言えばそういうことになりますが，その点は先に述べた通りだと思います。クライアント側のほうの持っておられる自分達の西洋建築に対するイメージというのは，折衷主義ですよね。アメリカへ行ってもヨーロッパへ行ってもそうです。昔のままのやつがあるわけがないわけで，それだけでは8階建を建てるとか……まあそのころは7階ないしは8階ですね……。そういう風に，時代の変化，社会的な要望に折衷主義建築ではついていけなくなった。どっちみち昔のままのものがやれるはずがないわけでしょう，これがすでに述べたように，折衷主義の宿命です。さて，様式的な手法，その頃アメリカでやっているように渡辺先生のことばを借りると，外観を上下三つに割れるというんです。外観も上と真中と下とに分かれ，それで伸び縮みを考えればいいわけでしょう。そこでバランスを考えたりする。また，その中に持ってくるディテールというものが重要な要素になってくる，いわゆるスタイリッシュのものがディテールの中へ入ってくるわけです。ですから，そのディテールをよく練り上げて，全体を纏める。それにはリファインメントということがどうしてもついて回る。そのリファインメントというのが問題になってくるわけでしょう。ですからその修業が私は問題だと思っておりますけれどね。一般にはこのことを，古典的なものも含めてクラシックと申しておるようですが，このディテールの問題が非常に重要であると思います。しかし，ディテールと申しましてもその時代時代にある特有の線とか，面とか，それから影だとかというものがありましょう。それの勉強でしょうね。私はそうだと思います。このように考えれば，どんなに時代が変ったって，いつも新しい要素を持っていて，みんな同じですよね。

福田　先ほどセセッションや何かのお話をなさったんですが，そこら辺もぼくらには全く昔の話で，どういうことがどういうふうに起ったのか，あまりよく知らないんです。先生が学生時代のセセッションというのは，そういうリファインメントみたいなものとはあまり無関係……

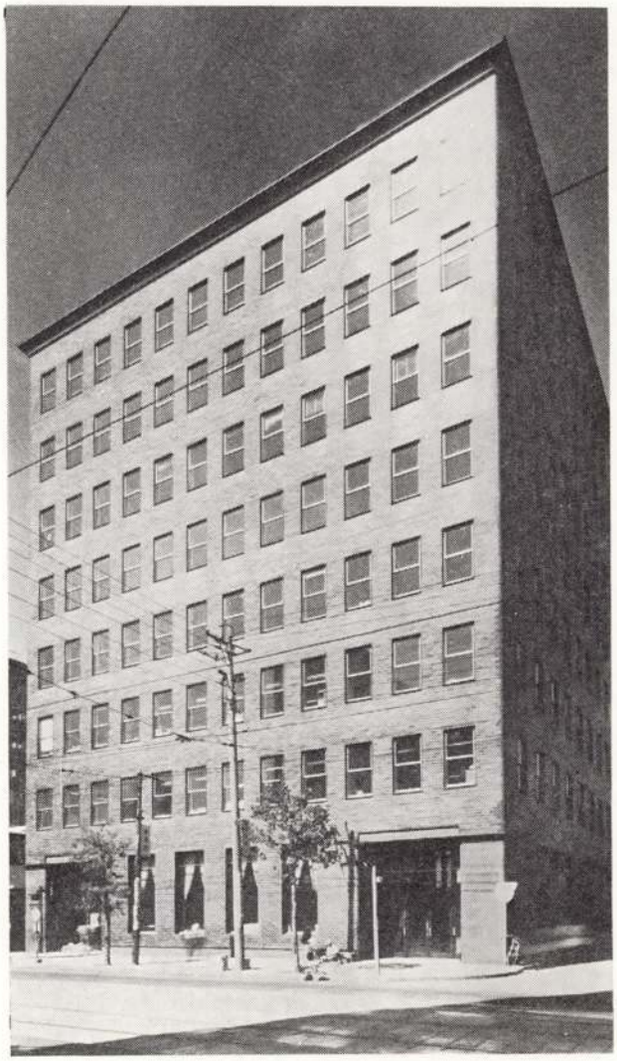
村野　リファインメントということは様式的なものを修得する場合，昔のもののように美しいものになるように，その時代に合せて再現しようとする努力のことを指すので，そういうことまでは学生時代にはわかりません。ただ，学生の頃のセセッションをやったということは，いまと同じことですからね。体制に対する反抗でしょう，きっと。(笑い)それがセセッションという形をとったこともあったんでしょう。スタイリッシュみたいなあんなもの，いやだ　ということでしょう？それに対する一種のレジスタンスでしょうね。ですから先生がいくら口をすっぱくして言ってみたところで，なかなかやらない。学生はみんな簡単なやつを端的に表現しよう，頭だけで，それだけならむつかしいこともなく頭脳だけでやれるわけですよ。ある程度コンポジションだけでやれる，リファインメントや，感触なんてむつかしい修業を必要としない，いうなれば，スチューデント・ワークみたいなものが一時横行して，（まあ最近は少し変りつつあると私は見ますけれどね）そのようなもので，スタイリッシュのような難しいものに係わりあって，図書館をやったり公会堂をやったりするのは面倒なものだから，みんな簡単にやってのけようという，まあ体制に対する反抗みたいなものですかね。

しかし，結局やっぱり心の中にあるのは，自由じゃないですか？これは今も昔も変りませんよ，やっぱり自由ですねえ。自由を求めるというところからくる。様式の桎梏（しっこく）から逃れる，と。その形がいろんな形でてきますが，まあそこからくるのじゃないですかね。私はそうだと思い



南大阪教会　昭和5年

森五商店　昭和6年



ますよ。これはやっぱり時代の，明らかに時代の変換，古い世代から若い世代に移るという一つの動きじゃないでしょうか。どう動くかということになると，そこに私はいろいろと問題があると思いますけれどね。そうじゃないかと思います。

□フリーアーキテクトの形成

福田　あの当時，大阪で村野先生が事務所をお始めになったころといいますと……

フリーアーキテクトというのは大阪でないといないみたいな感じが，年表なんか見てるとするんですけれども，どうして大阪にフリーアーキテクトが集まったというのは……どうなんでしょうね。

村野　1930年(昭和5年)というと，わたしが事務所を持つころになりますからね。そのころになりますともうたくさん出てますよ。たとえば，例の分離派の石本喜久治君が東京朝日をやり，その他にも事務所を持つ人が出てきたりして，そうですね，もうそうなると渡辺先生の時代と年代が少し下ってきますね。そのころになるともうかなり……自由なスタイルでも依頼者も納得するような時代に変っていったと思います。しばらくすると，拙作，森五商店や大阪パンション，それに続いて大阪のそごう百貨店などが現われることになります。福田先生がおっしゃるフリーアーキテクトというのは……

福田　プロフェッショナルなフリーアーキテクトですね。

村野　それはもうかなり出てます。

福田　それにしても渡辺先生からの因縁もあるんでしょうが，大阪というのはフリーアーキテクトの舞台として非常に格好だったというふうなことがあるんでしょうか？

村野　私などの例をとっちゃあまことに申しわけないんですけれども，お仕事をいただくということは，大阪におったからだと思いますね。たとえばそごうを仰せつかった……第一作は森五ですか，それから大阪パンション，たしかそのころだったと思います。

福田　経歴書に一番最初に載ってるのは南大阪教会です。

村野　それは渡辺先生のところにいるときに，私はクリスチャンじゃないんですが，非常に熱心なクリスチャンと懇意だったものですから……。

まだ事務所を持ってるか持ってないかぐらいのころですね，それで，ちょっとやってくれということで，やって差し上げたわけです。

福田　その次の年に大阪パンションになってますね。

村野　大阪パンションのときはもう事務所を持ってましたから。

福田　そういった話で，やはり大阪のほうがクライアントが建築を見る目があるというふうな，そういうことは言えますか。

村野　そういうことじゃなくて，建築家にまかせるということでしょう。

福田　しかし，建築家というのは，いまでも日本はそうですけれども，やはりどうもよけいなもののように見られる傾向がありましてね。建築家というのは家を建てるときにはあまり必要のないもののように思われてまして，大工に頼むと全部できちゃうというような，そういう考え方が一般的じゃないかと思うのですが。

村野　それはいい例がたくさんあるんですよ。これはわたしら住宅頼まれますね。そうすると船場とか島之内の金持の家ですね。それが別荘を建てるとか，別にまた新しい家を建てると，それは最初に，出入りの大工がおりますでしょう。それに非常に律義ですからね。あそこは江州の人，(これは別な話ですが)入るまでが実際はほんとは難しいんですよ。ただ，ペダンチックでない，実際的であるということですね。実際の腕があれば認めてもらえるということ。その点はちっとも変らない。だけども，そこの家に入るということは難しいというのは，入れば非常に家庭的なんですよ。自分の内輪の人のように思ってもらえる。実にいいところがあるわけです。全部信頼をしてくれる。東京の話ですけれども，大体その人は江州出身の人。場所は言いません。言いませんが，ともかく非常に重要な場所なんです。ところが東京のほとんどすべての有名な建築家は皆そこへ頼みにいってるわけだ。そこでどうするかといったら，まず興信所で皆調べるわけだ，その人のことを。そうしてその人の財産とか，それからしまいにはその人が第二夫人を持ってることまでわかってしまうわけだ。(笑い)私はおそらく一番あとだったと思いますが，森五さんの紹介で(森五さんというのは江州の人ですからね)そこへ頼みにいった。戦争前の話ですよ。それで私，頼みにいったところが，例によって調べられたわけだ。ところが私は事務所を持ったが，まだ借家住まいですし，別に財産があるというわけじゃない。それでそこのおじいさん，一番年寄りが見て，これは資産も何もないから，これはだめじゃないかと，長男や重役の人達に言われた。ところが，そこで，いや，あなたは請負と間違えてるのじゃないかと。設計をする人というのは財産のないのがほんとうだと。(笑い)おもしろい話でしょう。それはあなた，いい仕事をして，その上に金をもうけようというのは，間違いですよこれは。私は皆さんに申し上げておきたいのは，自分がいい仕事をして，そうしてその上に財産に恵まれるなんてことはとんでもないことで，それも間違いだと私は思いますね。アメリカでも建築家の収入といったら他の職業に比べて少ない，ただ地位は日本より高いわけだ。建築家は金持なんて，なれゃしません。

そういう話があって，ああそうか，そんなものか，それならこの人がいいだろうということで，(笑い)私が何にもないというところで，いや，こういう人がいいです，と。そこで私にその仕事がきまった。そうときまれば，今度は非常に大切にされるわけです。そのおじいさんが大福帳みたいなところに私の住所をちゃんと書いて，ほんとに大事にして内輪のようにして，何でも明かしてくれる。

そういうふうですからね，したがって自分のところへくる大工というのは非常に信用しているわけだ。ご予算なしで何でも仕事をさせるわけでしょう。ところが，だんだん締め上げてくると，えらい金になってくる。最初大工は，もう主人の性格を知ってますから，大体ケチだとか何とか……ケチじゃないんですよ。そうじゃない，ほんとの値段で本質的なものをもらおうというのが大体こっちの人の性格だと思いますね。なぜかといったら，苦労して産をなした人ばっかりですからね，よくわかってる。ところが，大工は初めは安いことを言うわけだ。ところがあとから締め上げてみると，えらく高くなってくる。これで，だんだんと仕事のやり方が近代化して工事はうちの出入りの大工にさせるけれども，設計は建築家に頼むということになった。だから第三者の証明というものが必要になってくるのはそういうことですね。

今日の建築家の仕事のうちの一つは，まず信用ということでしょう。たとえば株主総会などで，この建築家がこの工費を証明しているから間違いありません，ということになると，株主がそれを承諾するということになる。だから建築家の職能というものは，デザインができるばかりじゃなくて，その人の行ないが正しいということですね。これが一番必要なことだ。だからこの人に頼めば間違いのない仕事ができる，と。設計がうまいということよりも，より以上に重要な問題だと思います。

福田　そうしますと先生のお話を伺いますと，むしろ大阪のそういう商人といいますか，そちらのほうから建築家というプロフェッションを要求したといってもいいわけでしょうね。

村野　まあそういうことになるわけです。自然的に，それがほんとの移り方でしょう。建築家は職能的にはクライアントを代表するが，社会的には第三者の立場に立つということになります。

福田　そうしますと東京と全く逆なわけですね。

村野　そういうことになりますかね。つまりほんとの移り方じゃないですか。で第三者の証明を要求する。もちろんその人がデザインがうまければ，さらにいいわけでしょう。しかしデザインがうまいというよりも必要なものは信用ではないでしょうか。第三者としての正しい行き方じゃないですか。昔から出入りの棟梁にやらせると，始めは安いがだんだん高くなっていかんという，もちろんやらせる方でも高くなるようにするが，昔からの商習慣のようなものもあって悪いのになると，材木屋と

結託して，それで口銭を取るとか頭をはねるとかということをやるわけですよ。ですから次第にそれが高くなる。それでだんだん建築家に移ってくるわけです。これがほんとの移り方じゃないですか。だから建築家の職能というものは，ひとりデザインができるばかりじゃない，その行ないが正しい，ということではないかと私は思いますがね。

福田　大阪という土地柄，私もそういう点でいろいろ関心を持ったんですけれども，これまではいま先生から伺ったほどには，的確にはつかんでなかったので，大変おもしろいお話だったんですけれども……。

村野　それは全くほんとの移り方でしょう。シティー・アーキテクトに頼むという移り方の，大阪はほんとに的確な例の一つじゃないですか。そういうことですよ結局は。それで渡辺先生の行き方は，（また別な話ですが，大阪のまた一つの特徴です）たとえばこの建物に大へんな資本を投ずるわけです。この建物をたとえば1年なら1年でやりましょうと，こう言いますね。大体は，建築家が自分がたとえばオフィスビルディングを設計しますね，そうするとそれに対する収支計算を出すのがヨーロッパの常識なんです。それに対して収支計算を出して，そしてこの建物は何年で償却して何分に回ります，ということを出すわけですね。渡辺先生はそれをおやりになった。私が経済に興味を持ちだしてきたのは，そこから始まってきてるわけです。

ともかく大へんな資本を投下するわけでしょう。建てる方では，それをなるべく早く使いたい，そうすると渡辺先生は，たとえば，普通なら1年半かかるものでも私は，「15カ月でやりましょう」というと，いわゆる頼む方では大へんな資本を投下しているから早くできれば，それだけ助かるわけですから大へん喜ぶわけです。「そのかわりあなたは工費をもっと出してもらいたい」こういうやり方。これはなかなか言えないですよ。よほど建築に対して自信がなければ。まあ渡辺先生の功績といったらいろいろありますけれども，シティー・アーキテクトとしてのほんとの行き方といったら，渡辺先生にまさる人はないと思います。まあ設備などに対して大へん金をかけるということ，これも説得力が非常にあるわけだ。設備に金をかけて，建物の質を良くするということは，テナントがたくさん集まるとか，早く集まるとかいうことがありますね。それに対してクライアントから金を出させるわけだ。そうして請負に対する指導の仕方も，同時に伴ってくるわけだが，それに対してしっかりした自分の施工法が自分の頭にあるから，それができるわけだ。そういう先生の行き方。えらいですよ，そういう点は。

福田　そう伺ってくると，現在はどうかという問題がありますけれども，大阪というのは大へん建築家というプロフェッションにとって重要な場所だということになりそうな気がするんですけれども。

村野　やっぱりほんとの建築家というのは大阪を発祥としたと私は思いますね。

福田　こういうことはもっと先生に，いつも声を大にして言っていただかないといけない……（笑い）

□建築家へのみち

福田　日本の今の建築，ことに大学の建築教育でございますね。これがまたかなりどうもよくわからない状況になってるのじゃないかという気がするんですけれども，はっきり言って，アーキテクト教育ということを言ってるところは，それだけに専念すると言ってるところはないし，またそうかといって，完全な現場技術者を養成するというわけでもない。ドラフトマンを養成するというわけでもない。何か非常にオールラウンドな調子になってる。それで学生がかなり，どちらのほうからも，アーキテクトを目ざす側からも，それからエンジニアリングを目ざす側からも同じような不満が出てきてる。ぼくなんかよくそういう苦情を聞かされるんですけれども。

村野　アメリカも大体同じような傾向じゃないですか。福田先生のお話に当てはまるかどうかわかりませんけれども，これは皆さんと一緒に考えなければならんことですが，私が聞いたアメリカの例を，たとえばエールの例をとりますと，学校の卒業生で失業するのが多くなったと。

それからもう一つ，数年前に雑誌で読んだんですが，「デザイナーをつくるということは学校では不可能だ。学校を出て，デザイナーというものは勉強して，ならなければいかん」ということですね。これも一つの踏んまえどころですね。

それから，そのエールの例でいくと，ルドルフがおったころは図面をやかましく言うから，図面を描くことの技術はとにかく勉強する。ところがルドルフが出て，何といいましたかな，ひげの生えた背の高い人がいますね，わたし会ったことがありますが，その人が来て，今度は理論ばっかり言ってるそうです，学校で。だから図面を描くことをしないわけですよ。そうすると，実際学校を出てよそのオフィスで働こうとしても，図面を描くすべを知らないから，雇うにも雇えないわけですね。ですから日本から行ってたとえば向こうの大学へ入って，出て，それからその事務所で働いてちょうほうがられるのは——これは去年も行ってみたが，非常にちょうほうがられている——図面が描けるからだ。（笑い）だから図面が描けないために失業するそんな人は図面は描けなくとも口で設計してもいい州にいって，そこで働く。そういうことがあるそうです。だからいずれにしても失業者が案外ふえてるということを聞くんです。だから図面を描くということがアーキテクトのことばにつながっていくんですけれも……。

どうですかね，これは福田先生に伺わなければならんことですがね，大学出ても，うちの事務所では，学校の如何，質も言わないんですよ，どこの学校を出てきても，どんな程度……ただ，大学を出りゃ，年をとってますから，高い給料を出すのはあたりまえ。それからそうでない工業高校を出た人は年が若いから，それに比例してたとえば少し手当が下る。これも当然なこと。しかし事務所の要請としては，必要な期間，できるだけ図面が描けるということが一番要請されるわけです。だからそれができなければ，大学出だろうと，いくらそんなことをしたって，うちは何にも関係ないんです。（笑い）工業高校を出た人だって，できさえすればどんどんよくなると言えばおかしいけれども，われわれのところはそんなに差はないんです。

福田　最初に，大学ではデザイナーは教育できないと釘を刺されましたので，（笑い）どうも最初にそれを言われてしまうと，どうしようもないんですが，一つはデザイナー教育の問題があると思うんです。実は，そういったデザイナーというか，あるいは建築家というのは一体どうやってつくられてくるんだろうかと，そういう疑問がありまして，とくにきょうの場合は村野藤吾先生はどうやってつくられたんだろうかと。そういうことを知りたいために，遠くから手を回しまして，大阪というところから攻めてみたつもりだったんですけれども……（笑い）。

そういうことで，いわゆる公式教育機関で建築家というのは教育できないとすると，一体どうやっていくかというと，どうも漠然とし過ぎますけれども，何が建築家を育てていくというふうにお考えでございますか。

村野　なんといっても学校教育，ことに技術教育以前の教養過程の教育如何が支配的だと思います。次は図面を描いて訓練されることが一番だと思いますね。私の例を申し上げてはなはだ恐縮ですけれども，私がようやくにして今日あることを得ましたのは，もちろん協力者のおかげですけれども，それ以前に，やっぱり修業時代に先生の指導を受けて，一生懸命で……図面も何も引けないでしょう。私は学校を出て，3年間の間に目方がずっと減ってやせてしまった。

大学で私は非常に程度の高い話を聞いてるわけですよ。ですから，大学を出た人のメリットというのは，私はいい教育を受けてるということじゃないかと思いますがね。そうでない人もいい教育を受けてるでしょうが，けれども，大学生というのは，たとえば高等学校の課程その他で，ことばは正しくないけれども，ともかく教育を受けてるということじゃないでしょうか。しかし最初っからそれが出るかどうかということは非常にむずかしい。最初からそれを出そうと思って焦ると，一人でやるよりほか仕方がないということになる。

福田　その場合，村野先生がおっしゃるいい教育というのは，必ずしも建築プロパーの教育ではないわけですね。

村野　じゃないと思います。いろんな教養。建築自身のつまり技術的な教育ばかりじゃない，もっと広い教育，つまり教養ですねえ，これを受けてる。その教養の大事さということ，これが建築の根本になってきますね。建築というより芸術に対してみんなが，外から何かが建築を支えているわけですから，これは大切なことですよ。それを教育を受けてるということは，確かに大学出とか，または独学でも勉強した人の一つのメリットじゃないかと思う。しかし，それはそのまま行なわれるとは限らない。何年かの間にそれがずっと芽ばえてくるという時間が必要だ。それには，どうしても訓練というものが必要じゃないでしょうか。私はそうだと思いますね。だからその訓練にたえていくということがなければ，早く自分が一本になって，そうして一本になりながら仕事をしながら訓練されることも一つのチャンスでしょう。そうでない一般のコースをとっていれば，やっぱり訓練をされる。そうすると訓練をされるならば，その訓練のされ方と，された結果について何かがない限りは，教育の効果はないじゃないかという気がいたします。そこが私は大切じゃないかと思います。

だから，私は自分の例を申しますと，学校を出てそういうつまり頭だけができてる，頭でっかちになってきてるわけですね。だから，実際にものをいう，実際の仕事を進めていく人の下で勉強というものがされてないわけだ。それで渡辺先生のような実際家の中へ入ってくると，これはとても困っちゃう。木造一つやるんでも，木造の小さな寄宿舎をやったことを覚えておりますが，それに２カ月ぐらいかかってる。あれだけの人だから，イライラしておられたと思いますけれども，（笑い）とうとう２カ月……木造というのは非常にむずかしくて，やっとそれができたんですがね。渡辺先生はなかなかがまん強い人ですが，しまいにはいやな顔をされる。そうするとそれが身にこたえた。まあそこは学校を出たといいますかね。

ところが，一つのチャンスといいますか，神戸に海洋気象台というのが（いま山の上にありますけれどね）これは私が関係したのとは違うのですが初めにできたのは，塔があって，ややゴシック風のものでしたがそれを取壊して現在のものになったが，その最初の設計は面白かった。そのとき私に，「おまえ，すぐやれ」と言われましてね。それでわたし，パースで出したわけですよ。色をつけて出した。人間の運命というのはおかしなものですね，それで渡辺先生の気分がすっかり変ってきた。村野には，学校を出たものには，そう直ぐにディテールをドラフトマンの仕事をやった連中と同じようにはできないこと謂んやフル・サイズをやらしたが，これが間違いでもっと時間をかけなければということを，渡辺先生ほどの人でも初めて知られたわけです。（笑い）それで，これにはやっぱりゼネラルのデザインをやらそう，と。そういうふうに変りましてね。

そのうちに大阪商船の神戸支店のコンペティションがあったのでね，東京のえらい建築事務所と指名で。幸いにして私が関係して描いたパースペクティヴが，まあいろんな工夫をして描いたんです。私にいい助手がいましたが，それと一緒になって描いて，それが当選したわけです。それで渡辺先生，すっかり気分が変って，そこでチャンスに恵まれてくるわけですよ。そして今度は，あれをやれこれをやれということで仕事をする機会が非常に多くなってきたということですね。

その間に三年かかるわけです。今なら五，六年はかかるでしょう。だから最初の三年間は苦しいので渡辺さんのところを辞めようかと思ったことが一再ならずあったわけですよ。

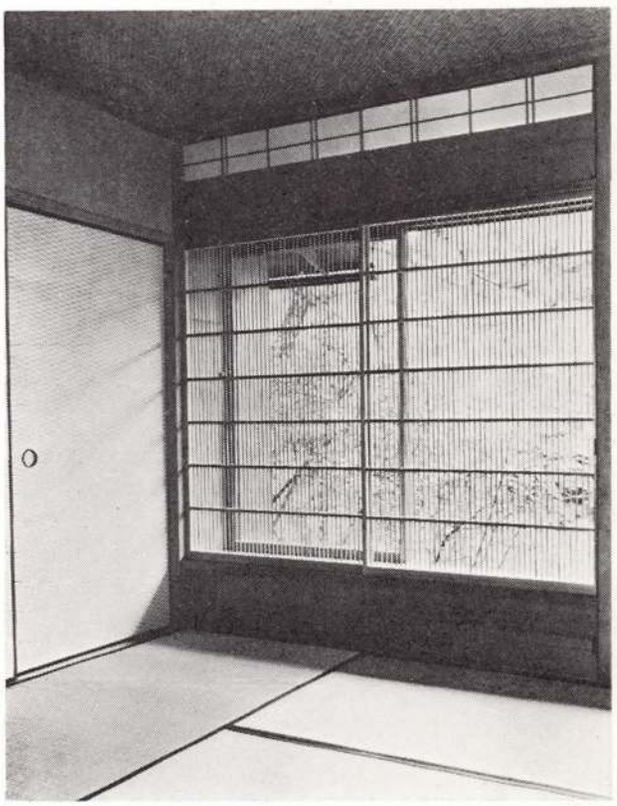
それはねえ，学校を出たばかりで，長年修業した人と一緒になってディテール描いたりフル・サイズで描けといったって，できっこありませんよ。先生もちょっと認識不足だったですよ。（笑い）しかし今の学校を出た人は，すぐ図面，描けるんですからね。私共の時代よりずっとよくなりました。

福田　いや，なかなかそれがそうは，いきません。（笑い）



広島世界平和記念聖堂　昭和28年

村野藤吾邸



村野　それはもう私は身にしみてるんですよ。

福田　しかし，先生自身，いわゆる建築プロパーのそういう技術教育じゃない部分については，やっぱり先生ご自身なりに，自信を持っておられたわけでしょう？

村野　一般教養ですか？これは私はほんとにいい先生に，いい教育を受けたと思いますよ。いまでもそれが滋養になっていると私は思いますね。だから80歳にして初めて，われわれが若い時代に教わった先生の影響というものはいまに続いてると私は思いますけれどね。ほんとにいい先生達でしたよ。

そのうちで，私はよくものに書きますし，言いますけれども，われわれのときは今の高等学校といいますか——早稲田の——それを高等予科と称した。大学と関連してますからね。その時代に予科長の安部磯雄さんという人，有名な社会主義者。かつては社会大衆党の党首になったほどの人である。また早稲田の野球部長を永くやられた人で，今日の六大学野球の草分けの人です。ともかくその当時，社会主義者といったら大へん恐れられて，刑事があとからついていくぐらいの人ですよ。その安部さんが予科長で，そのときに先生は英語の講義を担当された。そうして英語の経済の本でしたね，ミルだったかな，その原書で講義をするわけですが，それで英語を習った。

そのときに私は，学校に入って間もなくでしたが暑い盛りで，何しろ安部磯雄さんという人は大へんな怖がられている人でしょう，ところが非常に謹厳で，あれは同志社を出て敬けんなクリスチャンです。アメリカで教育を受けた人ですが，それで自分は夏だというのに三つボタンをかけた洋服を着て，そして学生に向かって，「諸君，上着は取ってもよろしい。それから扇を使ってもいいけれども，人のじゃまにならんようにしてくれ」と。こういう教育の仕方です。これで私は，ああ，えらいものだなあと深い感銘をうけましたね。ほんとの自由とはこうかなあ，という気がしました。このような感銘を受けましたことはこれがやっぱり一生そういうことが付きまとうわけです。また佐藤功一先生のルネサンスの講義もありましたしね。その他いろいろありますけれどね。まあそれにはちょっとどぎもを抜かれた。私は田舎の学校を出て早稲田へ入ったんですが，そのときに，ああ，大学というのはこういう教育かな，という気がいたしましたね。これがやっぱり一生を支配するのですね。その感銘は青年のような若さでいまに続いております。つくづく教育というものの大切さを思いますよ。

□書院と数寄屋

委員（A）　先生は住宅以外にもいくつかの和風建築を作っておられますが，書院風のが一つもなくて全部数寄屋風建築ばかりであると思うんですけれども，その辺は何か特別な好みがおありなんでしょうか？

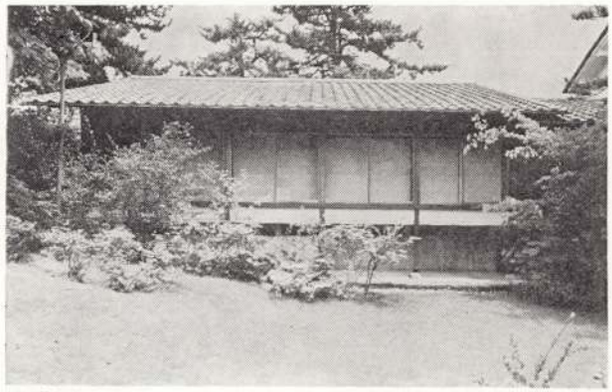
村野　これもちょっと余談になるかもわかりませんが，私はほんとは書院が好きなんですよ。（笑い）これはとにかく何といったって，書院と数寄屋とすれば，数寄屋は一段下るですよ。書院はやっぱり上ですね。武士……さむらいですよ。それだけに数寄屋のほうがやさしくて書院のほうがむずかしい。私は書院というのは非常に好きで……ただ，やる機会がないだけです。なかなかやれないですよ。実際むずかしいですしね。ですから数寄屋のほうがやりやすい。つまり，ごまかしがきくわけです。（笑い）

委員（A）　とすれば今後先生の書院建築を拝見できる機会があるわけですね。

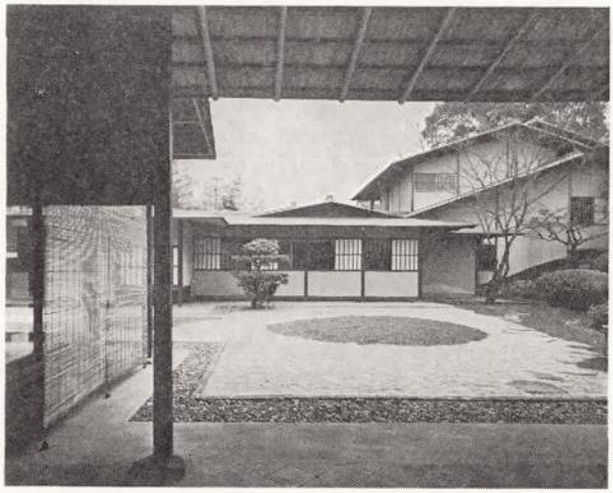
村野　私は書院が望まれるならば，書院はちょっと取っ組んでみたいような気はしますね。ただ，いままで頼まれた住宅のうちで，書院らしいものはやったことがありますよ。それはしかし数寄屋と一緒になりますからね，いわゆる書院のプロポーションにはどうしてもできない。ですから数寄屋と一緒になるところにある書院ですね。これは一切まずやったことがない。しかし木割りを私は考える。木割りをずっと小さくする。細くする。それから面を大きく取るとか，そういうことでやわらかくする。こういう手法はいたします。ですから，書院のむずかしさといいますか，これは数寄屋以上だとわたしは思いますね。ほんとの書院はなかなか容易にできないでしょう。ただ，書院のイメージが，鎌倉時代のことだとか，それから昔の書院とはというイメージでは……それはいまやることはおかしなことですからね。やっぱり書院といっても，近代の感覚で感ずる書院でなくちゃいかんのじゃないかという気はいたしますね。

わたしの家を例にとっておかしいけれど，古い家を改造したんで，床の間があるんですよ。これはいわゆる書院風にして，そうしてこれは日本のよき手法ですが，ゴヒラといいますか，細いところとつまり長手を使って，そうして木割りをかげんして，そして「残月」くずしみたいなことをやってるんですがね。これは古い昔の家を移転したものですし，それが三寸三分ぐらいの角柱でできてます。それの床の間ですから，そういうふうにやってみたんですが，わたしは書院なれば一ぺんやってみたいなあという気はしますがね，私にはむずかしいですよ。

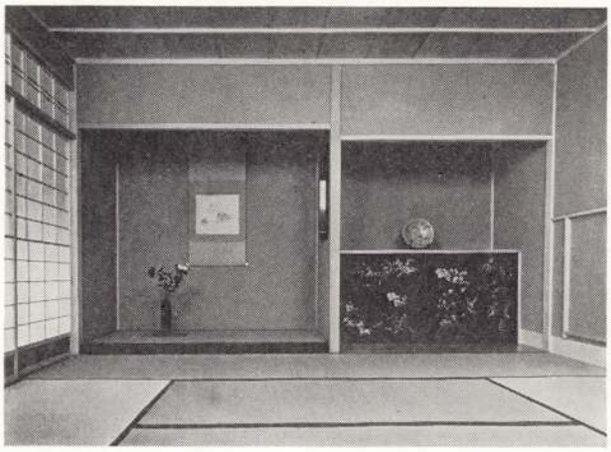
委員（A）　木割りを小さく取るとか，面を大きく取るとかというその話



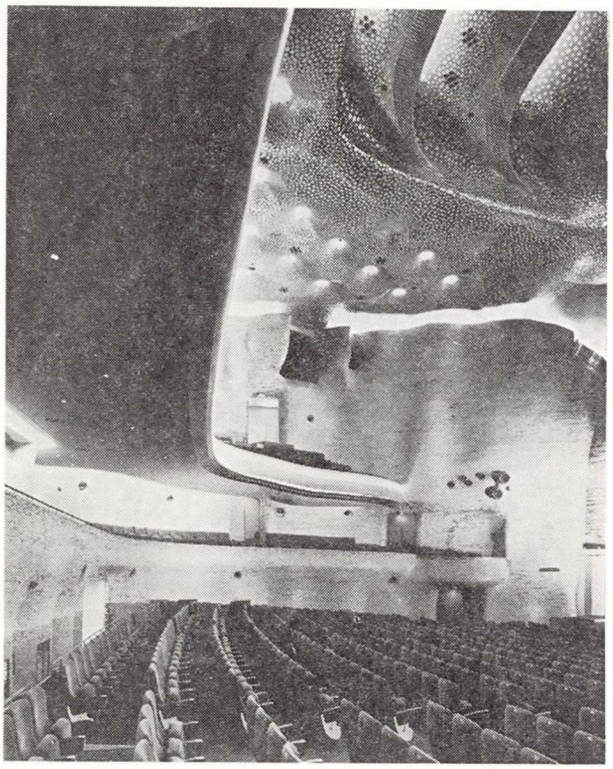
村野藤吾邸



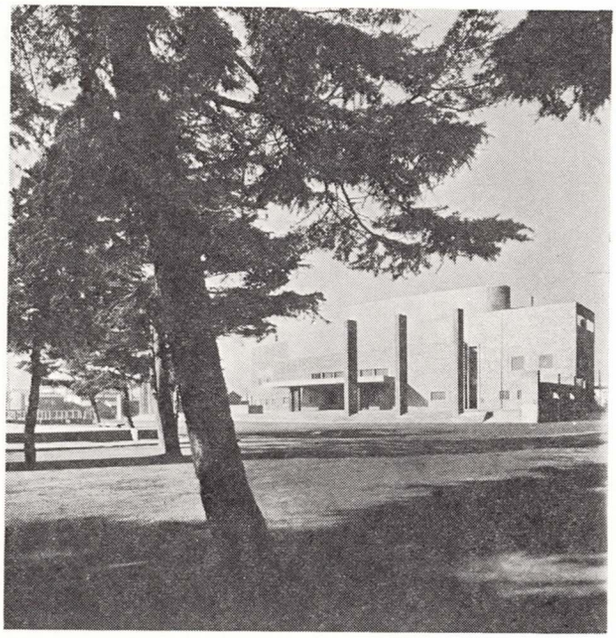
都ホテル佳水園　昭和34年



北　川　邸　昭和34年



日生劇場　昭和38年



宇部市市民館　昭和12年

とは別に，非常に天井高を低く押えるような方法でよく和室をつくられるというこを聞いておるんですけれども……。

村野　そうですよ。それはわたしが大へんお世話になった，わたしの事務所の地所をわけてくださった泉岡宗助さんのことをお話しなければなりませんが，材木屋さんで，大へんな金持ちで，しかも非常にそういうふうなことが好きだ。それでロンドンに行かないでロンドンの町のことを自分で覚えてる。(笑い)それぐらいの人ですからね，その方が自分の家ももちろん書院でやっておられます。そこで，木割りを細くすることと……細くする考え方ですね。三寸という柱は大きいですよ，ということを聞いてる。それから七尺五寸以上の天井というものはそれは高いですよ，七尺五寸でいいかげんに高く感じます。ただ，料理屋の大広間なんかだったらそうはいきませんけれどね。それでも木割りを細くするんですよ。それから柱と壁との桟(さん)を非常に少なくするとか，床柱をゴヒラにするとかさもなかったら，どうしても構造上できなければ面を大きくするとか，そういうことで桟(さん)を少なく見せる。そうするとやさしく見えるわけです。

□日生劇場の苦労話

委員（B）最後に先生に，いままで50年以上の創作活動の中で，一番印象に残っておられる作品は何かお聞かせ下さいませんか。

村野　一番苦労したのは，やっぱり日生劇場の劇場内じゃないでしょうか。あれは非常に苦労いたしましてねえ。何しろボリュームが大きいし，一歩間違えたら，大へんなご迷惑をクライアントにかけなければならんし，といって劇場なんてのはもうみんなやり尽して，やるものがないわけですよ。一番こわかったのが音響の問題。その点はほんとに苦労いたしました。ですから苦労したという点をもって，いい印象に残ってるかどうか，そいつはわかりませんがね，一番苦労いたしましたのは日生劇場の内部のデザインです。これはほんとに身を削るような思いをいたしました。それと，あとからベルリンオペラがくるということですから，これがもし音響が悪かったらどうしょうかと。これは石井聖光先生にはずいぶんご迷惑をかけて……。石井先生が十分の一の模型をつくりましてね，中で，それで中へ銀紙を張って音響テストをやったり，こまかいテストをやった。やれやれと思ったら，また私がいって形を直すものですから，また先生が……。(笑い)そういうことを書いてありましたがね。やれやれと思っていたら，また私がいって形を直す，というようなことですね。それでずいぶん先生にはご迷惑をかけた。

宇部の市民館などは，あれは非常にオーソドックスな形ですから，音響がいいのはこれはあたりまえだと思う。戦後内部を改装したので創建当時とは非常に異ったものになった。けれども，あれもマテリアルをどれだけの硬さにしょうかというのは，ずいぶん苦労いたしました。朝日会館で私は話をしたことがありますが，それが実に話しよかった。あっ，この硬さだな，というのが，その印象があって，それで硬くしなければいかんなということが……そのころは音響学というのはまだ盛んじゃない。音響というのは，あるところまで音響でテストできるでしょう，それから先のことは，もうこれは度胸ですよ。実際音響というのは，なんかこまかくやったようなことを言ってますけれども，そうじゃなくて，実際度胸ですねえ。それでも修正がきくときは修正がききますね。たくさんありますよ，修正したのはね。しかしあそこは，修正なんてききゃしません。(笑い)で，日にちは迫ってるし，それから先は度胸ですね。破れかぶれだった。まさか違ったら，どうしようかなという，それくらいの切迫した気持だった。

福田　貝がらをはめ込まれたあのマテリアルの感じというのは，最初からイメージに……。

村野　あれはどういうことでやったのか知らん，あんなエフェクトになるということはほんとは私は知らなかったですよ。(笑い)それはあなた，想像つかないですよ40尺も上のことを，小さな模型だけであれを考えて，どういうふうになるかということは。それはまあ最初に私の頭に浮んだことは真珠の色，オパールの少し鈍い光が出るだろうということでしたね。まあ硬くすることは当然のこと。鈍い光が出るだろうということはわかった。それであの貝がらを見つけて，あのときはまだ装飾に張るぐらいの程度です。あっ，これはいいな，ということですね。全部張るといったって，とても金が大へんですから，まばらに張ってみたんですがね。ですから，あんなになるということは私は知らなかった。(笑い)まあよしあしは別問題で，ああいうエフェクトになったんですがね。非常に心配したのは音響の問題です。

そのころ，小沢征爾さんが関係してましたよ。音楽家の指揮者の。それでそれが来て，ベルリンオペラの指揮者が来て，やって見たらこれだったらヨーロッパの一流劇場と同じだな，と言った。それで小沢さんが非常に喜んで，私のところに電報を打とうかと思った，と言った。みんな心配してるわけだ，うまくいくかどうか，ベルリンオペラ，もう来てるんですからね。うまくいかなかったら，さっぱりですからね。そのときのうれしさといったら，ないですよ。まあそんなものですよ。ホールをつくって，建築家がやっと，ああよかったなあというのは。ホールの

音響というのは，そんなものですよ。最後まで，残響時間がたとえば一秒なら一秒というようなこと，3，4日でわかるわけがないですよ。それでほんとにそのときは，手を握って2人とも喜んだですよ，よかったッ！てなことで。それくらいに苦労しましたね。

福田　もう大分，予定の時間も過ぎているようでございます。いろいろとお伺いしたいいことがまだ沢山のこっておりましょうが，先生に最後に何かひとこと。

村野　そうですね……特にあらたまって言う程のことでもないんですが，やはり若い方々には古典を読むことをおすすめしたいですね。

福田　本日はこの辺でおわらせていただくことにいたします。村野先生にはご多忙中のところ，まことにありがとうございました。司会の不手際で，皆様のご期待のようには話題の整理ができませず，たいへん申し訳けなく思っております。どうぞお許し下さい。長時間にわたってご協力いただき，ありがとうございました。

（文責・若い会員の集い小委員会）

写真提供・村野森建築事務所

昭和48年度・第1回・第2回若い会員の集いレポート

「高層ビルを考える」

第1回・大阪大林ビルディング

東京に遅れること数年ではあるが，大阪の街にも超高層ビルが，堰を切ったように一気に出現しだしている。今回の企画は，その幕明けとして今年初めに完成した大阪大林ビルと大阪国際ビルにスポットをあて，実際に設計や施工技術を担当された方々に，高層ビル建設の基本的な考え方や姿勢を伺い，一歩突込んだかたちで高層ビルを把えてみようと試みたわけである。

4月28日（土）連休前日にをかかわらず，40名の方々のご参集があった。まず映画“よりよい超高層ビルを求めて—大阪大林ビル”を見て，ビル建設の概要把握とし，引続きスライド“大阪大林ビル—意匠編”でビルデザインのシステムを，構造・実験・施工・仕上りの段階でとらえた詳細説明があった。その後，設計担当者から，高層ビルの特殊性をとりあげ，プレファブリケーションの追求，層間変位の対処方法，防災計画のシステム化，設計と施工部門のコミュニケーションなどについての補足説明があった。工事施工について，新開工事事務所所長から説明があり，定められたタイムとコストのテーブル上で，いかに“早く・安く・安全に・良いもの”を造りあげるかという，施工技術のプリンシプルには変りはないが，地上工事の建築構成上，軀体と仕上げ材が明確に区分され，しかも基準階単位の同じ作業が繰返し行なわれる高層ビル工事の特徴を十分把握して，工事作業を一連の流れのなかに組み込んだトータル・システム化が必要であること，そのシステムには，各種資材と作業員の運搬・揚重計画はもちろんのこと，安全管理に至るまで綿密な計画とそのフォローアップが要求され，品質と安全に最重点をおいたものであること，また高層ビルと言えば，地上部に焦点を合わせがちだが，地上部の工事をスムーズに進めるためには，実際は地下部に苦心があることなどの話が出た。

終りに，この集いの企画，説明，報告と一人三役の大任を負うはめになり，もともと不器用な身に，不手際な進行で，企画時の意図とはかなり相違した内容になってしまい，ご参集の方々のご期待に添えなかったのではないかと心を痛めている。当初の予定では，スライド説明として，意匠編のほかに，構造編・設備編・施工編を入れるつもりであったが，編集に手間どって，お見せできなかったのを残念に思っている。せっかくご来訪下さったので，最後にビル見学のプログラムを組み入れさせてもらった。

（藤縄正俊記）

第2回・大阪国際ビルディング

前回の大阪大林ビルディングに引き続き，第2回企画として，大阪国際ビルディングをテーマにとり上げ，5月19日（土）御堂ビルにおいてシンポジウムを行った。当日は，暑い中にもかかわらず39名の方々の出席を得て，このプロジェクトを担当された株式会社竹中工務店の方々を講師に招いて，熱心な雰囲気のなかで進められた。

まず計画を担当された平内氏より，この超高層ビルが実現されるに至ったいきさつ，またこの建物のもつ都市計画的な意義，さらにこの超高層の構想をまとめるに当って，考慮された基本的事項などについて，説明された。とくに，建物を高層化し，壁面を後退させることによって，周辺街区に良好な日照条件をもたらし，自動車にさまたげられない広々した都市空間を，太陽と緑の広場として，開放するという基本ポリシーが，企画段階から強い意志で貫かれているという話は，非常に興味あるものであった。

つぎに設備設計概要について，井上氏よりスライドをまじえた詳細な説明があった。この建物が，つぎの新しい時代への道標となる使命をもったものとして，建物の内部環境のみならず，都市環境をも含め，健全で，快適な環境を創造することが，この建物の設備計画の基本方針であり，また，それらの意図のもとに，新しく開発された無公害の冷熱源システムTACNES—HR，およびこれらのシステムを最適に制御するコンピューターシステムCOMDEC—Ⅱの開発などの数多くの新しい試みがなされているということが，それらのメカニズムとともに紹介された。

最後に工事を担当された丹羽氏から説明があり，高層ビルの特色である多層階の繰返し作業を合理化するために考慮したいろいろなファクター，たとえば資材の搬入，動線の確保，揚重ルールの確立，作業工数の定量化，作業の安全性などを，いかにして実施に移し，またフォローアップしていったかという話が，いくつかの事例を引用して説明された。

各講師によるひと通りの説明が終ったあと，質疑応答に入った。日常建築にたずさわるわれわれにとって，身近かな興味あるテーマであったこともあり，非常に活発な質問が出されたが，そのなかでもとくに，このプロジェクトと船場再開発との関連性はどうか，TACNES—HRと従来のヒートポンプとの相違点，また，コンピューター制御の必然性はあるのか，さらに，電波障害に対する対策はどうか，などというこの建物の計画上，基本的な事項を鋭くついたものが多かった。このシンポジュウムを行う直前に発行された「建築と社会」5月号で，大阪国際ビルディングの特集が行われ，出席者の方々が，あらかじめこの建物に対しある程度の予備知識をもっておられたことは，非常に好都合であった。

今回の企画で，心残りに思うことは，かねて小委員会より検討を依頼されていた，ビルのオーナー側の説明を，実現できなかったことである。建築家とは立場をかえた，別の意味で興味ある話が，聞けたのではないかと後悔している。

（岩瀬英之記）

〈第1回・大阪大林ビルディング〉

日　時　4月28日（土）13.30→17.00
会　場　大阪大林ビル　4階，土木部会議室
講　師　（株）大林組本店ビル工事事務所所長　新開　信之氏
　　（株）大林組本店建築本部設計部　藤縄　正俊氏

〈第2回・大阪国際ビルディング〉

日　時　5月19日（土）13.30→16.00
会　場　（株）竹中工務店大阪本店　9階談話室
講　師　（株）竹中工務店大阪本店　大阪国際ビル作業所建築主任　丹羽　稔氏
　　（株）竹中工務店大阪本店設計部計画設計課長　平内　祥央氏
　　（株）竹中工務店大阪本店設計部設備設計課　井上　良則氏

日照環境評価のための日照指数算定図表

関原猛夫

1. はじめに

日照を空気や水と同じように，その恵みに馴れて生活してきたわれわれにとって，にわかに太陽の恵みを断たれたときの苦痛はきわめて大きく，筆舌には尽し難い。

最近の日照についてのトラブルは，都市施設の急激な集中化と巨大化に対する施策の不在に起因するものであるが，住民と企業が入り乱れて，お互いにエゴ呼ばわりしての論争は果てしなく続いている。

東京都では，日照専門委員会がおかれ，太陽のシビルミニマム策定に腐心されていると聞くが，その中間報告なるものを見ても，日照確保のための基準の設定に対する理論ならびに方策の貧困は目に余るものがある。その内容の一端に少し触れると，

① 日照を検討するのに基準とする日を，最も寒い頃の1月下旬に択ぶとあるが，1月下旬に4時間日照の得られる南北隣棟間隔をとっても，冬至前後の1カ月間は日照ゼロということになるのを見のがしてよいかどうか。

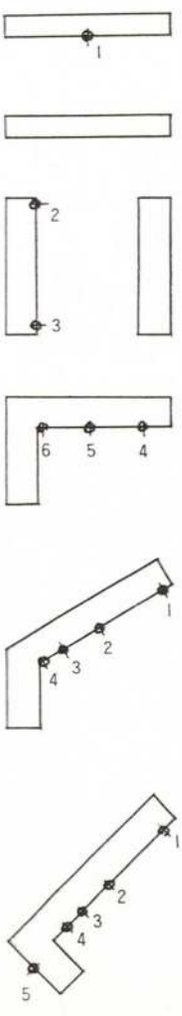
② 日照効果の算定方式についても，積算日射量の概念の導入を，住民の日照を求める度合に比例しないとして斥けて，単にわかりやすさの点から日照時間の増減に，日の強さ（法線面日射量）を考慮するといった程度にとどまっている。

なお，旧聞ながら，三年前の建設省通達の「市街地高層公営住居に対する日照条件の環境基準」では，

① 開放性（視界を遮るものに対する制限）
② オープンスペースの日照条件
③ 各住戸への最低320Kcal/㎡の日射量の確保
④ 居室窓面へ最低1時間の日照確保

などをあげていたが，これも市街地再開発地区の高層高密度の南北軸住棟建設を可能ならしめるための布石に過ぎなかった。

また一方，野放しの建売住宅や木賃住宅に至っては，日照など全くお構いなしに建てられている。このように，都市の居住環境の劣化は近年とみにはげしくなったが，これを防ぐ方策もなく，ただ放任されているのは実に嘆かわしい。この現状を打開するために，良心的な都市計画者や建築の設計者の輩出をまちのぞむばかりである。



方位	可照時間帯	S.I.
S_1	4（10～14）	74
E_2	2（10～12）	10
E_3	3（9～12）	20
S_4	6（9～15）	100
S_5	5（9～14）	88
S_6	3（9～12）	50
$S-30-E_1$	6（9～15）	87
$S-30-E_2$	5（9～14）	80
$S-30-E_3$	4（9～13）	70
$S-30-E_4$	3（9～12）	53
SE_1	5（9～14）	69
SE_2	4（9～13）	62
SE_3	3（9～12）	50
SE_4	2（9～11）	34
SW_5	6（9～15）	74

図—1

2. 日照効果評価法の提案

従来，日照時間を居住環境（日照，採光，通風，開放感）をあらわす総合指標として見てきたが，生活行動（日光浴，ふとんや洗濯物干し，園芸）の便宜を考えると日照時間帯の考慮が必要であり，また，採暖，乾燥，殺菌などの効果をあげるには日照の受熱量の獲得をはからねばならない。これらを個別にとりあげる代りに，日照時間数のみでなく，日照時間帯の影響も反映し，建物方位による受熱量の差を包括する指標として，日照指数（Solargain Index）というものを考案し，日照効果を評価する手段として設計の段階で利用されることをねがっている。

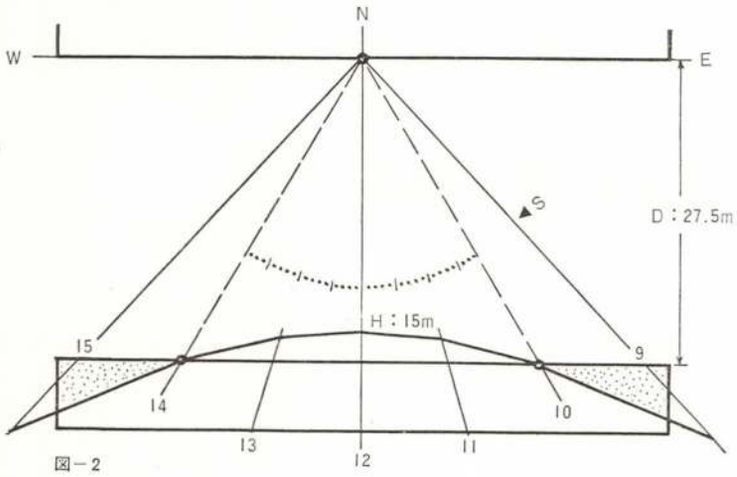
この指数（S．I．）は，南面の6時間日照（9時～15時）の受熱量を基準にして，任意の方位の壁面の可照時間内の受熱量を百分比で算出したものである。この指数の算定には**附図**のS．I．Chartを使用し，配置図の縮尺に合わせた建物の高さの日ざしの曲線を択び出して，日照の得られる時間帯を見つけ，検討壁面の方位に従って目盛りから受熱効果を示すこの指数が読みとれるようになっている。

図—1のように，建物が並列したり，屈折したりした場合に，日照上不利な点のできるもので，その数種の例につき，日照指数を算出して掲げておいた。

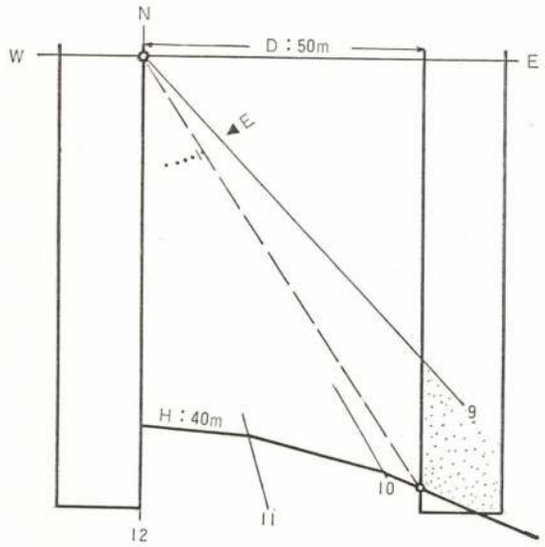
3. 日照指数算定例

例1 隣棟間隔27.5m，建物高さ15mの南面並列配置の住棟中央部の日照指数を求める。（図—2参照）

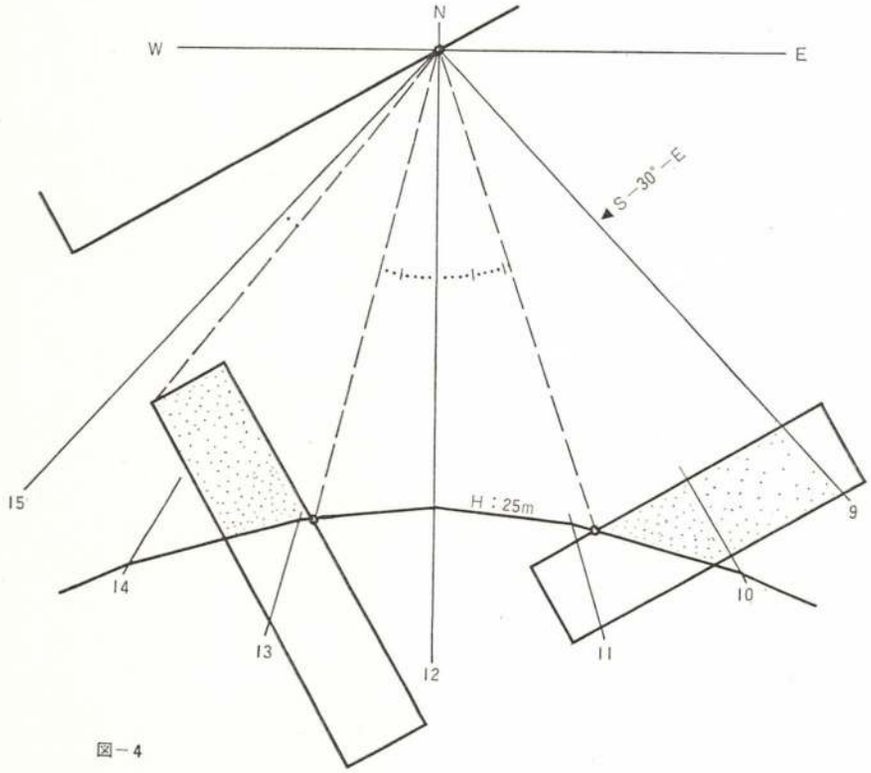
配置図に Chart を重ね，建物高さの日ざしの曲線を択び，障害になる建物と交らせる。この曲線より検討地点に近い側の建物の一部が日射を遮ることになる。可照時間帯は10時～14時となり，S．I．は74%とな



図－2



図－3



図－4

る。

例 2　隣棟間隔 50m，建物高さ 40m の東面並列配置の北端に近いところの日照指数を求める。（図－3 参照）

図のようにして，可照時間帯 9 時50分～12時となり，S．I．は12%となる。

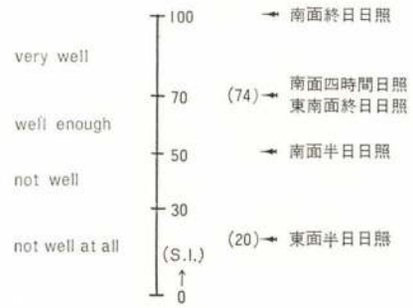
例 3　南側に 二棟の 障害建物 のある，東南（S－30°－E）よりの建物の日照指数を求める。（図－4 参照）

建物高さ25mの日ざしの曲線を択び出し，建物の障害になる部分を見つけ出すと，可照時間帯は10時50分～12時55分および14時20分～15時の二つの区分の合計である。その間の日照指数を求めると37＋3＝40%となる。

4.　日照指数による環境評価基準

図－1 に例示したように，南面終日日照の S．I．の 100 に対し，南面 4 時間日照（10時～14時）の S．I．が 74，東南面の 終日日照の S．I．もまた 74となり，S．I．>70 の場合は若干の意識調査の満足度の結果に徴しても，良好な条件として設計の推奨基準と認めてよい。つぎに翼部のある建物入隅の南面半日日照の S．I．は当然ながら50となり，このあたりが設計標準の下限と見られ，S．I．<50の場合は設計として好ましくない。S．I．<30ともなれば，不満度は非常に多くなり，設計には絶対避けたい悪条件である。

これらを図－5 に示して，一応日照環境評価の目やすとしたが，この数値のみで，日照環境の適否を一挙に断定することを意図したものでないことを辞(ことわ)っておきたい。



図－5　日照環境評価基準

5.　おわりに

ここに提案した日照指数の検討方法は，従来の日照時間のみの検討から一歩進めて，日当りの強さを問題とし採暖効果，衛生効果などに関連をもち，日の当る時間帯も同時に検出されるので，最も適切な方法であると思う。

かつ検討法は平易簡便であり，もはや日影図の作成の必要もなくなるものと期待している。

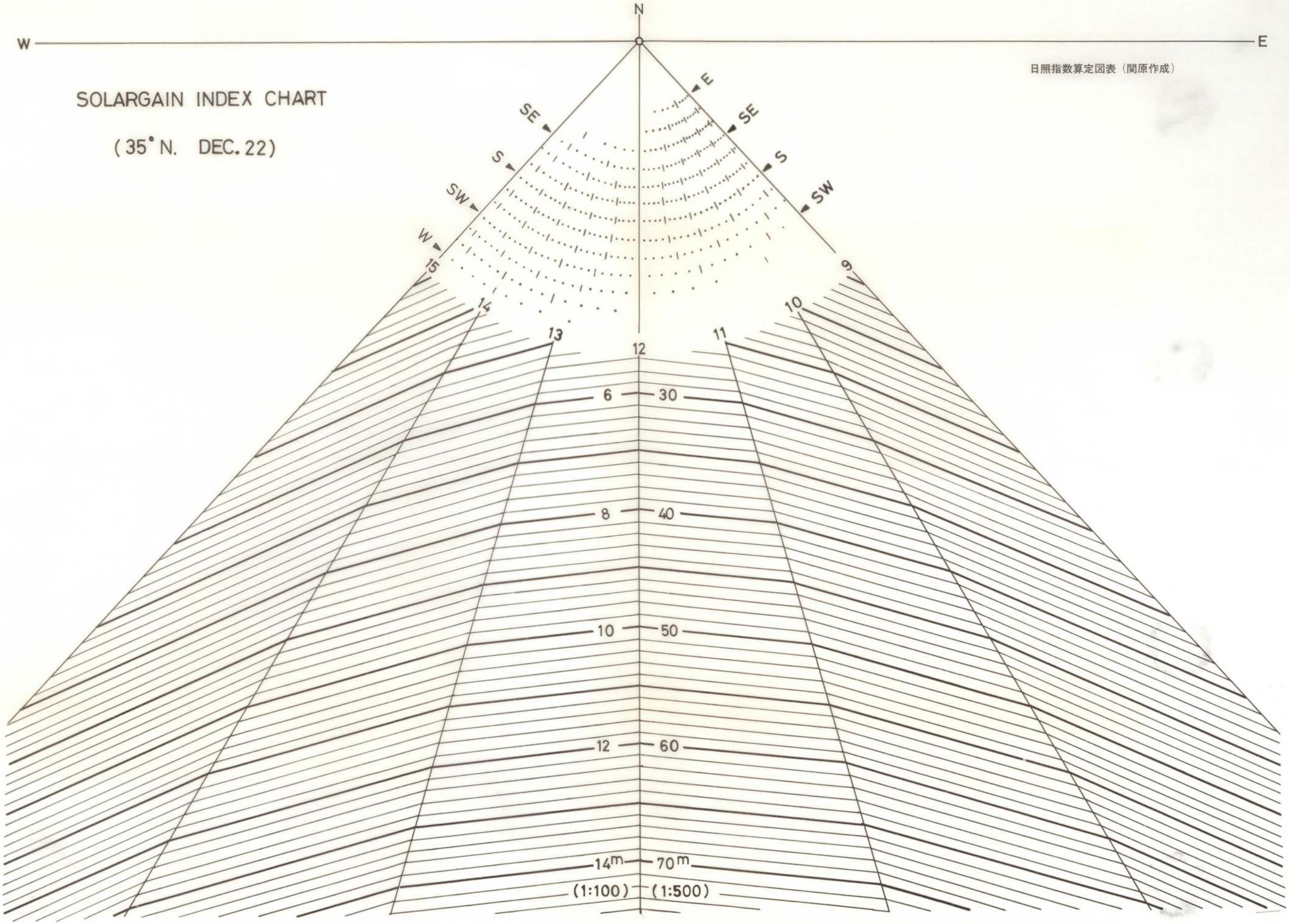
また，この方法の普及によって，敷地配置計画の段階で良好な日照環境確保に遺憾のない良心的な企画設計が進められることをねがっている。

（せきはら　たけお　関西大学教授・工博）

日照指数算定図表（関原作成）

SOLARGAIN INDEX CHART

(35° N. DEC. 22)



日本建築総合試験所だより 12
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION
本試験所：〒565 吹田市藤白台5丁目125 電話／千里局 (06) 872−0391代表
大淀分室：〒531 大阪市大淀区長柄西通2丁目35 電話／大阪 (06) 351−7217

試験報告・その1

合成樹脂エマルション砂壁状吹付材について（その1）

1. まえがき

この報告は主として，官公庁，日本住宅公団等に提出する試験報告として，昭和46年から昭和48年にかけてメーカーの依頼による，合成樹脂エマルション砂壁状吹付材の性能試験を当試験所で実施したものについて述べる。

2. 試験の目的

依頼者から提出された吹付材40試料についての性能試験を行う。

3. 試験の内容

吹付材について，JIS A 6909—1972「合成樹脂エマルション砂壁状吹付材」に準用し，下記に示す項目の試験を行った。なお吹付タイルについては，現在JIS規格がないのでJIS A 6909 に準じた。さらに大阪府，日本住宅公団等JISのほか，独自の意向にもとづく試験項目も同時に行った。

1）低温安定性　2）骨材の沈降性　3）耐洗浄性　4）付着強さ
5）耐水性　6）促進耐候性……以上JIS項目
7）耐アルカリ性　8）透水

4. 適用範囲，種類，品質規格等

●適用範囲

建築物の内外装仕上工事に使用する合成樹脂エマルション砂壁状吹付材（以下，砂壁状吹付材という）とは，合成樹脂エマルションと骨材*とをおもな原料とし，これを吹付けて骨材の色彩，形状などに応じた粗面仕上げにする材料である。吹付タイルとは建築物の内外装工事に用いる無機質材料を主成分とし，仕上材はアクリル系およびエポキシ系合成樹脂溶剤型塗料とする。仕上げ面の形状は継ぎ目がなく，ゆるやかな波状の凹凸があり，陶磁器タイル状となる。

＊骨材とは，寒水石砂，硅砂，川砂，陶磁器質砕粒，色砂，着色砂，パーライ等。

●種　類

(1) 用途による区分
　外装用……主として外壁の仕上げ
　内装用……内部の壁，天井の仕上げ
(2) 着色材料による区分
　A類砂壁状吹付材……主として顔料により着色
　B類砂壁状吹付材……主として骨材により着色
(3) 骨材の混合形式による区分
　既混合形……製造業者が混合
　使用混合形……使用者が混合

例　呼び方，外装用A類砂壁状吹付材（既混合形）
　　内装用B類砂壁状吹付材（使用者混合形）

●品質規格

表—4.1 参照

5. 試料および試験体

依頼者から提出された種類および試料番号を 表— 5.1 に，試験体を表— 5.2 に示す。

表—4.1　品質規格（JIS A 6909による）

項目＼種類	外装用 A類	外装用 B類	内装用 A類	内装用 B類
1) 低温安定性	−5℃に冷やしても変質しないこと			
2) 骨材の沈降性	10 % 以内			
3) 耐洗浄性	500回の洗浄に耐えること		300回の洗浄に耐えること	
4) 付着強さ	5 kg／cm² 以上			
5) 耐水性	水に96時間浸しても異状がないこと		——	
6) 耐アルカリ性	水酸化カルシウム飽和溶液に48時間浸しても異状がないこと			
7) 促進耐候性	われ，ふくれ，はがれがなく白亜化および変色が，暴露しないものに比べて著しく大きくないこと		——	
8) 透水	——		——	

表—5.1　種類および試料番号

種類		試料番号
リシン系	外装用A類砂壁状塗料	(1)R−1，(2)R−2，(3)R−3，(4)R−4，(5)R−5，(6)R−6，
リシン系	内装用A類砂壁状塗料	(7)R−7，(8)R−8，
スキン系	外装用B類砂壁状塗料	(9)S−1，(10)S−2，(11)S−3，(12)S−4，(13)S−5，(14)S−6，(15)S−7，(16)S−8，(17)S−9，(18)S−10，(19)S−11，(20)S−12，(21)S−13，(22)S−14，
アクリル系吹付けタイル		(23)A−1，(24)A−2，(25)A−3，(26)A−4，(27)A−5，(28)A−6，(29)A−7，(30)A−8，
エポキシ系吹付けタイル		(31)E−1，(32)E−2，(33)E−3，(34)E−4，(35)E−5，(36)E−6，(37)E−7，(38)E−8，(39)E−9，(40)E−10

表—5.2　試験体

試験項目	寸法・形状	数量
1) 低温安定性	エマルション	—
2) 骨材の沈降性	エマルション	—
3) 耐洗浄性	430×170×6.3㎜	3
4) 付着強さ	500×500×6.3㎜	1
5) 耐水性	150× 50×3.2㎜	3
6) 促進耐候性	150× 50×3.2㎜	3
7) 耐アルカリ性	150× 50×3.2㎜	3
8) 透水	150×150×6.3㎜	3

6. 試 験 方 法

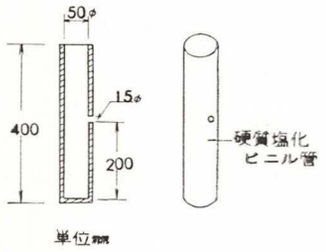
1）低温安定性

試料（かん入りのもの）1ℓを塗料用1ℓ丸かん（高さ125mm×直径104mm）に入れて密閉し，－5℃の恒温恒湿機に18時間入れたのち温度20℃，湿度70%の試験室に6時間置いた。この操作を3回くりかえしたのち，かんの口を開き試料をかきまぜ，堅いかたまり，組成物の分離および凝集などについて観察を行った。

2）骨材の沈降性

図—6.1 に示す硬質塩化ビニル管（容積785mℓ）の側面の孔から試料が流れ出ないようにテープでふさぎ，これに試料を一杯に入れ，鉛直に立てて2時間静置した。テープをはぎ取り，孔より上の部分の試料をとり，これを一様にかき混ぜて試料100mℓの重量を測定した。

なお試験前の試料についても同じように重量を測定し，沈降性をつぎの式によって算出した。



図—6.1 沈降性試験

$$A=\frac{W_0-W_1}{W_0}\times 100$$

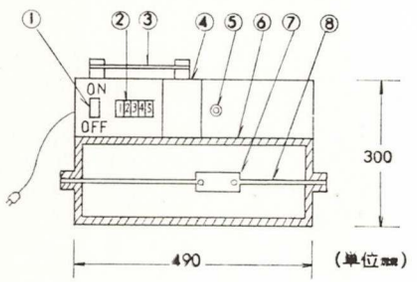
ここに A ：沈降性（%）

W_0：試験前の試料100mℓの重さ（g）

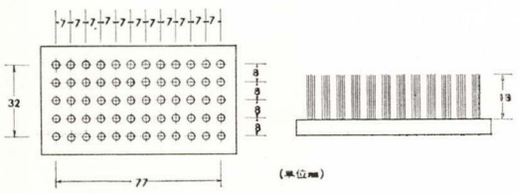
W_1：試験後の試料100mℓの重さ（g）

3）耐洗浄性

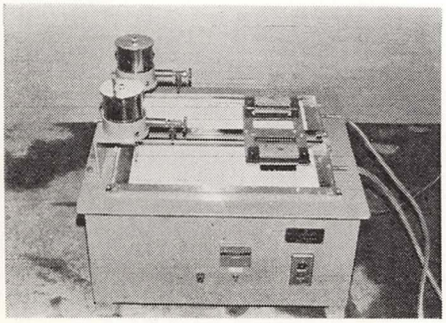
図—6.2.1，写真—1 に示すガードナーストレート型ウォッシャビリチーマシン（洗浄試験機）を使用して試験を行った。試験機の試験体受ざら上に試験体をセットし，試験面に固形せんたくせっけんの0.05%溶液を滴下しながら一定頻度（距離30cm，往復回数37回/分）でこすり，**図—6.2.2** に示す毛ブラシを所定の回数往復（A類500回，B類300回）させたのち，試験体をはずして水洗いした。ブラシこすったあとの中央の長さ10cmの部分の破れおよび下地の露出についての観察を行った。



図—6.2.1 洗浄試験機
①電源スイッチ
②往復回数表示板
③ベルト
④電動機
⑤回転軸
⑥試験体受ざら
⑦毛ブラシ
⑧ロープ



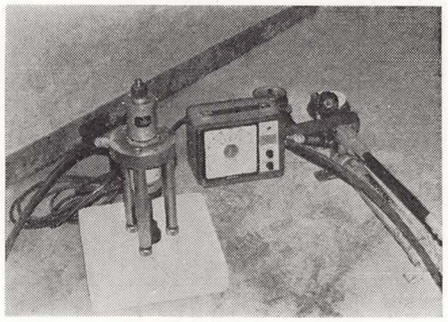
図—6.2.2 毛ブラシ



写真—1
耐洗浄試験装置

4）付着強さ

試料をフレキシブル板の表面に各メーカーの仕様によって吹付し，7日間放置後，50mmφの鉄製アタッチメントと試料吹付面を接着した。接着剤が硬化後建研式引張試験機（**写真—2**）により引張試験を行い，次式により算出した。



写真—2 建研式引張試験機および装置

$$F=\frac{P}{S}$$

ここに F：付着強さ（kg/cm²）

P：最大荷重（kg）

S：接着面積（cm²）

5）耐水性

ビーカー（300mℓ）に深さ90mmまで水を入れて，試験体を吊り下げ下部80mmまでを浸し，水温を20℃に保ち96時間保持した。試験体を取り出して2時間置いた後，吹付面のわれ，ふくれ，はがれ，くもりおよび変色について外観観察を行った。

6）促進耐候性

試験体をサンシャインウェザーメーター（東洋理化製WE—SUN—HC型）に取り付け，**表—6.1** に示す条件のもとで，250時間照射を行い，あらかじめ冷暗所に保存しておいた試験体と比較し，色の変化などの異状について観察を行った。

表—6.1 耐候性処理条件

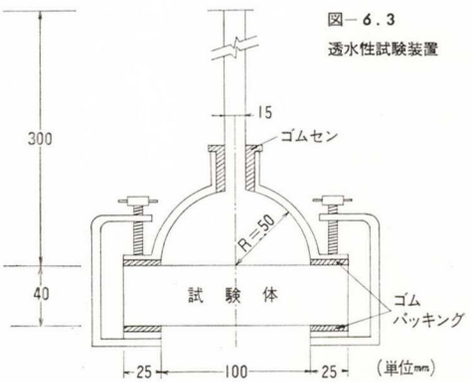
項　　目	処 理 条 件
光 源 の 種 類	サンシャインカーボン
光源と試料との距離	48cm
ア ー ク 電 圧	50V
ア ー ク 電 流	60A
ブラックパネル温度	53℃
試 料 回 転 数	毎分1回
散　　水	なし

7）耐アルカリ性

ビーカー（300mℓ）に深さ90mmまで水酸化カルシウム飽和溶液を入れて，試験体を吊り下げ下部80mmまでを浸し，温度を20℃に保ち48時間保持した。試験体を取り出して水洗いし，2時間置いた後，吹付面のわれ，ふくれ，はがれ，軟化，溶出および変色について外観観察を行った。

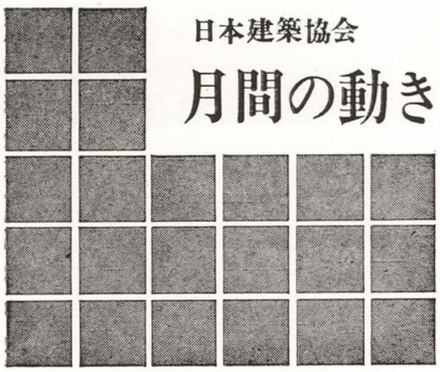
8）透 水 性

試料をフレキシブル板に吹付し，7日間放置後，**図—6.3** のような内径15mmの目盛のあるガラス管を立て，水がもれないようにした試験装置を用いて，最初の水圧が水柱300mmになるように塗面に水圧を加え，そのまま24時間置いたときの水柱の減量（mℓ）をガラス管の目盛ではかった。



図—6.3
透水性試験装置

合成樹脂エマルション砂壁状吹付材の試験結果と考察については次号に引続き掲載します。



日本建築協会

月間の動き

昭和48年6月分

通常総会

28日　5時10分～5時30分　於会館集会室
出席者　塚本，銭高正副会長ほか16名
議事(1)昭和47年度事業報告承認の件
(2)昭和47年度収支決算報告承認の件
(3)昭和48年度収支予算承認の件

定時評議員会

28日　4時30分～5時10分　於会館集会室
出席者　小川議長ほか8名
委任状　48名　計57名
議事(1)昭和47年度事業報告承認の件
(2)昭和47年度収支決算報告承認の件

理事会

20日　4時～5時　於会館集会室
出席者　市川理事ほか12理事
議事(1)昭和47年度事業報告承認の件
(2)昭和47年度収支決算報告承認の件
(3)事務局職員上期賞与支給の件
(4)7月定例理事会休会の件
(5)大阪建築防災協会出捐金の件
(6)第20回青年技術者特集の件
(7)入退会者承認の件
(8)報告事項

編集理事会

11日　3時～4時　於会館集会室
出席者　福田副会長ほか3理事
議事(1)収支予算と目標について
(2)第20回青年技術者特集の応募規定について
(3)広告体制その他について

出版委員会

出版図書打合会

1日　正午～2時　於会館3階会議室
出席者　小林委員長
佐々木教育委員会幹事
議事　講習会テキストをかねた図書出版について打合せ

編集委員会

編集方針検討小委員会（第2回）

4日　4時～6時半　於会館集会室
出席者　窪田主査ほか5名
議事　編集方針について（前回のつづき）
(1)前回の報告と収支コストの現状
(2)投稿の誘導
(3)特集の割ふり
(4)作品作風について
(5)実務的ページについて
(6)そのほか

構造と施工のかかわり特集編集幹事会

6日　6時～9時　於会館集会室
出席者　毛利誠，淀井健彦特別幹事ほか5名
議事　「構造と施工のかかわり」(仮称)特集企画（テーマ・執筆者の選定）

委員会

11日　4時～6時　於会館集会室
出席者　福田副会長，窪田委員ほか14名
議事(1)7月号＝「住宅―建築家の自邸」特集経過報告
(2)8月号＝「新用途地域制と環境」特集報告
(3)9月号＝「構造と施工のかかわり」特集（仮称）企画――編集幹事会案報告をもとに――
(4)10月号の企画
(5)11月号＝第20回青年技術者特集号の件
(6)シリーズものその他
(7)編集方針検討小委員会の中間報告

作品作風小委員会

11日　6時～9時　於会館集会室
出席者　谷主査ほか3名
議事(1)7月号作品の件
(2)8月号作品の件
(3)9月号作品の件
(4)10月号以降の作品

第2回構造と施工のかかわり特集編集幹事会

14日　6時～8時半　於会館3階会議室
出席者　淀井健彦特別幹事ほか2名
議事(1)第1回「構造と施工のかかわり」特集幹事会案の再検討
(2)10月号特集テーマの件

作品作風担当小委員会

26日　6時～9時　於会館集会室
出席者　谷主査ほか1名
議事(1)8月号作品の件
(2)9月号以降の作品について

事業委員会

広報小委員会

5日　6時～7時半　於会館集会室
出席者　三品副委員長，上松幹事ほか6名
議事(1)本年度第1回展示写真（街を緑に）の企画について
(2)第2回以降の展示写真企画について
(3)本年度第1回説明会，「硝子の遮熱，防音」の企画について
(4)第2回説明会企画について
(5)そのほか

若い会員の集い小委員会

7日　6時～8時半　於会館集会室
出席者　岩永，中村，宮後各幹事ほか8名
議事(1)第1回，第2回「高層ビルを考える」の実施報告
(2)ヨーロッパの都市と建築調査団第3回オリエンテーション実施報告
(3)ヨーロッパの都市と建築調査団結団式実施報告
(4)第4回「工業化工法による住宅生産工場をみる会」の企画について
(5)「建築家に話を聞く会」の雑誌掲載資料について
(6)第5回以降の事業企画について
(7)そのほか

見学会小委員会

8日　6時～8時　於会館集会室
出席者　鈴木幹事ほか5名
議事(1)5月に実施した見学会の報告
(2)8月以降の見学会企画について
(3)そのほか

委員会

14日　6時～7時半　於会館集会室
出席者　大橋，小泉，堤各副委員長ほか4幹事
議事(1)各小委員会の事業報告
(2)今後の事業企画について
(3)そのほか

「建築家に話を聞く会」編集分科会

16日　1時半～4時半　於会館3階会議室
出席者　中村主査，高木，飯田委員
議事　建築家に話を聞く会原稿調整及掲載写真について

30日　11時～3時　於会館集会室
出席者　中村主査，高木，飯田委員
議事　建築家に話を聞く会最終原稿調整について

住宅委員会

住宅展小委員会

5日　5時半～8時　於会館集会室
出席者　生田副委員長ほか5名
議事　第10回よろず相談住宅展の諸準備について

委員会

12日　5時半～7時半　於会館集会室
出席者　小西委員長ほか13名
議事　第10回よろず相談住宅展の件

住宅展打合会

21日　2時～4時　於阪神百貨店
出席者　阪神百貨店　中井課長ほか3名
出展業者　竹中工務店ほか32社
委員会　小西委員長ほか5名
議事　第10回よろず相談住宅展出展打合せ

建築データシート委員会

企画分科会

7日　正午～2時　於会館3階会議室
出席者　酒井幹事ほか2名
議事(1)担当作業項目の調整について
(2)カードの作成について

⑶№41（7月号）発行の分類番号について
⑷そのほか

委員会

19日　6時～7時半　於会館集会室
出席者　井上，真塚正副委員長，酒井幹事ほか7名
議事⑴№42(10月号附録)の発行シートについて
⑵企画分科会の報告について
⑶そのほか

教育委員会

工高生教育小委員会

9日　1時～4時　於会館集会室
出席者　斎藤副委員長，ほか3委員
議事　第19回工高生デザインコンクール募集規定案作成について

工高生デザインコンクール募集規定打合会

16日　正午～2時半　於会館集会室
出席者　徳永審査委員長ほか7審査委員
斎藤教育副委員長，上野幹事，崎山委員
議事　第19回工高生デザインコンクール募集規定作成

法規委員会

委員会

18日　3時～5時　於会館集会室
出席者　市川委員長ほか21名
議事⑴京都市日照等に関する指導要綱について
講師・京都市住宅局建築審査課長　福田　昌之氏
⑵そのほか

建材委員会

委員会

22日　5時半～8時半　於会館集会室
出席者　山田委員長ほか5名
太陽工業3名
高村建設1名
議事　型枠材の検討（第2回）

見学会

久保田鉄工（株）アルキャストカーテンウォール製造工場の見学会

23日　1時半～4時半
参加者　30名

講習会

第26回，第27回建築工事実務講習会

於大阪科学技術センター
第26回　11日～16日
第27回　25日～30日
各日　午前9時～午後5時
聴講者　第26回　70名　第27回　110名

11日，25日

建築工事の着工から竣工までの業務総論　大阪府　中居誠之助氏
材料の検討とその管理　鴻池組　中藤　修氏
労務管理と安全管理　鹿島建設　岸田　成計氏

12日，26日

施工計画　大成建設　梅原　洋一氏
石工事，タイル工事，ブロック工事　藤木工務店　西山　長司氏

13日，27日

工事機械と工器具類　大林組　木下　幸一氏
鉄筋コンクリート工事，鉄骨工事　清水建設　井手　孟雄氏

14日，28日

防水工事，左官工事，塗装工事　銭高組　斉藤　誠氏
設備工事　竹中工務店　佐藤　秀久氏

15日，29日

基礎・地業工事　竹中工務店　滝川　昌宏氏
仮設物と仮設材料
15日　松村組　中森　修氏
29日　〃　相馬　恒雄氏
現場に関する諸法規とその手続　大成建設　鈴木安太郎氏

16日，30日

現場製図　大林組　越本　昌弘氏
積算，木工事，屋根工事，サッシュ外工事　鹿島建設　徳永　義文氏

ヨーロッパの都市と建築調査団大阪出発

元木，樋口正副団長等調査団一行34名（東京羽田空港で3名合流37名となる）は家族，本会委員等の見送りを受け19時45分大阪空港発元気に出発した。一行は同日22時30分羽田発でヨーロッパに向う。

建築業務基準委員会

7日　1時半～4時　於日本建築学会
出席者　本会より山根委員出席
議事⑴戸建て住宅建築業務基準案について
⑵その他

建築クラブ朝食会

12日　8時～9時半　於新大阪ホテル
出席者　75名
当日は中出定夫氏より「遍路」についてのお話を伺った。

7月の入会者（敬称略）

〔団体会員　3社〕
㈱アート建築計画事務所　大装㈱
日星企業㈱

〔個人会員　24名〕

秋田国幹	倉場　崇	中川　一
石井修二	古村　明	中塚和昭
市本隆司	佐伯博章	西野　孝
植野寿雄	佐藤公三	廣岡利貞
大津　進	志築　潔	吹上晴彦
大屋真理	竹安　豊	藤岡良造
岡村俊夫	寺田　優	福中潤司
北山啓三	鳥居友一	村上哲祥

〔准会員　7名〕（氏名省略）

求人

建築設計技術者　急募

意匠設計　構造設計

株式会社 齋藤建築設計事務所

茨木市双葉町351番地の1　ギルド茨木3F

TEL　0726－26－2101

求人

＊意匠から構造にかわりたい人
＊構造からコンピューターをやりたい人
＊構造技術者および見習

構造デザインセンター

（建築計画，構造設計，プログラム）

事務所　大阪市天王寺区上本町4丁目1の2
TEL　768－4475
分室　大阪市南区上本町3丁目21（柴田ビル）
TEL　768－6267

信用ある技術と伝統の

アスファルト工事 専業大店

シート防水・ウレタン防水・シングル葺工事

株式会社 久保商店

大阪市北区真砂町5番地　TEL 06-364-0206代表

室谷

内装不燃材

室谷商事株式会社

本社　神戸市生田区北長狭通4－1　(英和ビル)
電話　神戸(331) 0881～3
支店　大阪市北区絹笠町50(堂ビル5階 502号室)
電話　大阪(364) 2031～4
倉庫　神戸市葺合区八幡通1－5　(電話221 2923)

OKUYAMA KAKOGYO WATER-PROOF OAM

新工法！
プレノテクト吹付工法

陸屋根防水には 奥山式 特許 絶縁工法 を

カッパー防水帯

コーパータイト

8対2の防水(冷工法) デラタイト

特許　奥山式熱工法・冷工法綜合防水層

奥山化工業株式會社

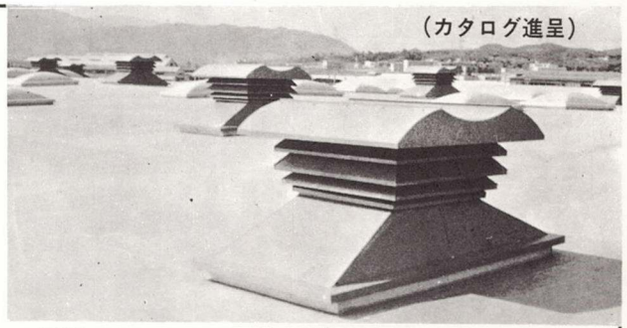
本社	東京都中央区銀座8－4－11	電話・03(571)2703～4・2370・4064・0264
大阪出張所	大阪市都島区都島中通り2-3-1	電話 06(921)2497・(922)7280
名古屋出張所	名古屋市南区若草町33	電話 052(811)3660・3104
札幌出張所	札幌市中央区北三条東四丁目	電話 011(231) 7 5 1 1

特許　岩元式ベンチレーター
(電動式並固定型各種)

岩元式ベンチレーター　A型・B型・固定型
岩元式連塔換気装置（コンチニヤス・ベンチレーター）
新型　換気塔 NSライン　(強制換気扇付)
新型　換気塔 SFスーパー　(特殊装置による風量増幅 換気扇の能力を倍増する)
最新型　採光排気塔(風光)スーパーライン特殊増幅装置付

スカイライト工事・通風ルーパー
スチール及アルミサッシュドアー・各種シャッター製作施工
其の他　曲加工一式

(カタログ進呈)



岩元工業株式会社

大阪市東成区大今里2丁目5番22号
電　話　(981) 0615～0618

電気設備工事設計施工

浅海電気株式会社

取締役社長　浅海正雄

本　社　大阪市北区老松町1丁目22
電話大阪(362)8701

支社・支店　東京・札幌・名古屋・福岡
営業所　旭川・神戸・姫路・高松・広島
出張所　苫小牧・浜松・光・沖縄

電気設備 ε 設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山本博三

本　社　大阪市北区中之島3の3　朝日ビルディング
TEL　代表　(385) 1361

本社営業所　吹田市垂水町3－34－6
TEL　代表　(385) 1361

京都営業所　京都市右京区西京極郡葛野町21番地
TEL　代表　(311) 1185

電気工事・計装工事
設計施工

栗原工業株式会社

取締役社長　栗原信英

大阪市北区高垣町16番地(東阪急ビル)
電話　大阪(313)1101(大代)
支店　東京・名古屋・舞鶴・大阪南・神戸・広島・九州

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社
大阪支社

支社長　姉川正男

大阪市東区高麗橋五丁目二八番地　電話大阪(202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番地5号
支　社　札幌・仙台・丸ノ内・名古屋・福岡
出張所　旭川・白河・横浜・静岡・富山

電気工事設計施工

株式会社　三興社

代表取締役　林　敏夫

本　社　大阪市北区絹笠町50(堂ビル7階)
電話(361)3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋箱崎町3丁目2番地
電話(671)1478(代)
出張所　川崎・相模原・堺・福山

電気工事 中 設計・施工

中本電気株式会社

取締役社長　中本正明

本　社　大阪市城東区野江東之町三丁目一五
電話　大阪(931)代表　7341～5
(0388)2193
資材倉庫　大阪市城東区野江東之町3丁目11　電話大阪(931)7004
奈良営業所　奈良県御所市御国通360　電話御所2
枚方営業所　枚方市山之上西町1の1　電話枚方(43)8659・(44)9232

電気・暖冷房・空調工事設計施工

三宝電機株式会社

取締役社長　嘉納伝三

本　社　大阪市北区絹笠町五〇(堂ビル三階)
電話(364)1471(代)
支　店　東京都港区新橋二一一六(ニュー新橋ビル七階)
電話(504)0231
支　店　名古屋市北区城見通二丁目二〇番地
電話(991)5131(代)
営業所　神戸・堺・千葉・宇都宮・熊本

各種電気工事設計施工・制御盤製作

野里電気工業株式会社

取締役社長　池内文夫

本　社　大阪市西淀川区柏里町1丁目110番地
電話大阪(472)代表1101～7
支　店　東京都品川区西五反田6丁目25番11号(福島ビル)
電話東京(491)1746(492)0182・0350
営業所　北九州市小倉区鋳物師町23番地
電話小倉(56)5665・5818
出張所　群馬・千葉・和歌山・名古屋

電気工事・計装工事・設計施工

中央電気工業株式会社

取締役会長　今村　騰
取締役社長　立石行男

本社　大阪市北区梅ケ枝町56番地
電話　大阪　大代表(312)8881
支店　東京・名古屋・四日市・神戸・和歌山
営業所　松山・京都・草津・静岡・水島・福岡

電気工事設計施工

富士電業株式会社

取締役社長　田中　実

本社　大阪市西区北堀江上通1丁目65
電話大阪(541)0564～7・7148～9
営業所　東京・名古屋・広島・福岡

電気工事設計施工

太陽工藤工事株式会社

取締役社長　小林四郎

本　社　大阪市福島区上福島北1－2
TEL(06)452－1151(代)
電力工事本部　大阪市此花区恩貴南之町73
TEL(06)462－1301(代)

各種電気工事設計施工

株式会社　ヤマト電気商会

取締役社長　山本永造

本　社　大阪市北区西堀川町15番地
電話大阪(364)代3056
東京支店　東京都港区新橋5－34－6　相馬ビル5階
電話　東京(434)3848・(431)8435
出張所　大阪南・札幌・名古屋・四日市・松山・徳山

営業種目 ●空気調和設備 ●給排水衛生設備 ●塗装設備
●蒸気噴射式冷凍機 ●公害防止関連機器／設計・製作・施工

大気社

（旧社名 株式会社 建材社）

本社・東京支店＝東京都中央区銀座6－6－7 ㊫(572)7411 代
大阪支店＝大阪市北区中之島2－22 ㊫(203)3721 代
名古屋支店＝名古屋市中区錦2－2－13 ㊫(211)1535 代
出張所＝札幌・仙台・豊田・金沢・神戸・高松
広島・松山・福岡・沖縄・バンコック

給・排水・衛生・消火・暖冷房設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市大淀区中津南通4丁目11 **電話大阪(458)3531番**
出張所＝京都・福岡

暖・冷房・空気温湿度調整装置
設計施工

髙砂熱学

大阪支店 大阪市北区芝田町55番地（北阪急ビル9階）
電話 大阪（372）2 5 1 1（代表）
本社 東京都千代田区神田駿河台4丁目2番地

平山工業株式会社

衛生・空気調和設備 ・ 設計・施工

TEL (441)㈹ 1994.(443) ㈹0331 大阪市西区江戸堀通2の2

温湿度調整装置、暖房
冷房、水道、搬送機設備
設計並ニ施工

第一工業株式会社大阪支店

大阪市北区富田町30 電話（364）6661(代)
本社 東京都千代田区丸ノ内3-3-1(新東京ビル)
電話（211）8511・8561(代)
仙台支店 仙台市新伝馬町60
電話（21）4491
名古屋支店 名古屋市東区東門前町3－6
電話（971）3621

空気調和・恒温恒湿・冷凍・冷蔵
給排水衛生 設備 設計施工

不二熱學工業株式會社

本店 大阪市南区順慶町2－50 電話 261－2436㈹
東京支店 東京都大田区西馬込1－2－1 電話 773－1231㈹
営業所 銀座・浜松・京都・神戸・福岡

MODAIR

空気調和設備
換気・除塵設備 設計施工

東洋熱工業株式会社大阪支店

大阪市西区京町堀4丁目 TEL(443) 8071
本社 東京都中央区京橋2丁目9 TEL(562) 1351
支店 名古屋・福岡

冷暖房・温湿度調整・水道
衛生・環境衛生施設
設計施工

山田工業株式会社

本社 大阪市西区京町堀1丁目62 電話(443) 8161(大代表)
支店 名古屋市中村区水主町1の12 電話(541)0966(551)1655
出張所 東京都港区赤坂2丁目3～12
赤坂ビークビル5階 電話（583）1467
神戸市生田区北長狭通7丁目1の1 電話（341）1778・4386

温湿度調整・暖冷房・換気給排水・衛生設備
設計並施工

日本管工業株式会社

代表取締役 市川繁雄

本社及京都支店 京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681) 5101～5・夜間専用(691) 1045
大阪支店 大阪市北区天満橋筋1－37(天満橋北詰)
電話（352）3501～3
四日市支店 四日市市浜田西末広町 電話㊿7431～3
大津営業所 大津市打出浜13－15 電話 0775 ㉒9738
津営業所 津市栄町2－111 電話⑧3610

空気調和設備
給排水衛生設備 設計施工
各種プラント設備

各種送風機・風力輸送装置
空調機器類・公害防止装置 設計製作

株式会社 カンダン

代表取締役 仙田四郎
旧社名 関西煖房工業株式会社

本社 大阪市住吉区万代東6丁目3 TEL（672)1281(大代)
営業所 東京・名古屋・広島・福岡 工場 和泉・名古屋
テレックス：本社 No. 562－7688 和泉工場 No. 538－5898

Carrier

冷暖房は CARRIER キャリア

東洋キャリア工業(株)製品販売店・特約工事店

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所 吹田市豊津町40番38号
電話大阪（384)1201～7

空気調和・冷暖房設備
給排水・衛生設備　設計・施工

株式会社 朝日工業社

本　社　東京都港区芝浜松町1-2-7　電話 (434) 6171(大代)
大阪支社　大阪市東淀川区加島町357　電話 (302) 2271 (代)
支　店　北海道・仙台・名古屋・広島・福岡
営業所　釧路・函館・盛岡・横浜・静岡・京都・神戸

空気調和設備
衛生設備　設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町65番地　電話 (352) 1131 (代)
本　社　東京都中央区日本橋蠣殻町2－22　電話 (667) 3431(大代)
支　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

電気・空調・給排水衛生設備
設計施工

大阪電気暖房株式会社

取締役社長　菅谷健児

本　社　大阪市西区江戸堀1－60　電話 (441) 8231代表
支　店　東京・名古屋・大阪・福岡
営業所　札幌・新潟・仙台・金沢・岡山・広島・高松・熊本
出張所　盛岡・横浜・富山・豊田・福井・京都・神戸・鹿児島

空気調和・衛生設備

株式会社 三晃空調

本社・本店　大阪市北区富田町16番地　電話 06－363－1371
支　店　東京都千代田区神田小川町2丁目1番地　電話 03－292－7751
名古屋市中村区広小路西通3丁目9番地　電話 052－581－8571
広島市紙屋町1丁目2番22号　電話 0822－47－4535
福岡市中央区大名2丁目4番22号　電話 092－76－3795
出張所　富山・福井・京都・神戸・松江・沖縄

給排水・衛生
暖冷房・換気　設計施工

株式会社 大阪城口研究所

取締役社長　城口庸平

大阪市北区高垣町一　電話 大阪372局7151(代)
京都市東山区大和大路正面上ル　電話 京都561局4944(代)
神戸市生田区下山手通六ノ一　電話 神戸341局5892

――冷・暖房、衛生、機器配管、設計施工――

株式会社 清水工業所

本　社　大阪市大淀区南浜町3丁目14番地
〒531　電話 大阪 (372) 2851(代表)
東京支店　東京都中央区八丁堀4丁目11番7号
〒104　(神谷ビル)
電話 東京 (551) 8041(代表)
出張所　鳥取・群馬・宇都宮・君津
島根・福岡・松山・高松

水道・衛生・暖冷房・其他管工事
設計並施工
(旧斎藤久孝事務所)

斎久工業株式会社大阪支店

大阪市北区常安町11番地
電話 大阪 (443) 5041～5番

東京本社　東京都千代田区大手町2の8番地(日本ビル)
電話 東京 (270) 7411番 (代表)
札幌営業所　札幌市南大通西4丁目1札幌道銀ビル　電話 札幌㉒5756
金沢営業所　金沢市高岡町2番16号　電話 金沢㉑2074
福井出張所　福井市御幸2の1　電話 福井㉔2436
高松出張所　高松市2番丁9　電話 高松㉑5195
岡山出張所　岡山市大供3800の1　電話 岡山㉔5486

SNK 新日本空調株式会社

大阪支店　大阪市北区堂島浜通1－25 (新大ビル)
電話 (06) 344－6031 (代)
本社・東京支店　東京都中央区日本橋本石町4-2(三井第二別館)
電話 (03) 279－5671 (大代)
名古屋・九州・広島・札幌・東海村・北陸・大分

創業 暖冷房・換気・温湿度空気調和 設計
大正二年 病院諸設備・給排水衛生・水族館設備 施工

株式会社 斎藤省三商店

本　店　東京都千代田区丸の内2の4の1　丸ビル676号
電話 212代3751
大阪支店　大阪市西区土佐堀通1の1　大同ビル616号
電話 443代3361
京都支店　京都市南区西九条春日町48　電話 681代1781
支　店　札幌・名古屋・福岡・千葉
営業所　宇都宮・横浜・熊本

空気調和　衛生設備／設計施工

須賀工業

大阪市西区土佐堀通1-14　TEL 06-441-5171
支　店　東京・大阪・名古屋・京都・神戸・福岡
営業所　札幌・千葉・横浜・静岡・高松・広島
出張所　金沢

冷暖房
給排水、衛生水道
電気
厨房

各種サッシ
環境衛生施設
荷役運搬機械
化学鉱山機械

三機工業 株式会社大阪支店

取締役社長　各務節
支店長　藤田初蔵

大阪市東区北浜2丁目22番地　電話 大阪 (202) 代表3071
本　店　東京・日比谷・三信ビル
支　店　名古屋、福岡、札幌、広島、仙台、北陸
出張所　横浜、金沢、静岡、高松

空気調和　地盤凍結　冷凍冷蔵

精研冷機株式会社

本　社　大阪市南区瓦屋町3番丁68番地
(オートセンタービル2階)　郵便番号542
電話 大阪 (06) 761(代)1141～8番(直通)
東京営業所　東京都千代田区九段南2丁目2番5号
(九段ビル8階)　郵便番号102
電話 東京(03) 262－3241～4番

窓掛、緞帳、日際、壁紙 室内装飾 絨毯、舗床材一般
東洋リノリュームの 東リカーペット 発売元

亀井株式會社

大阪市東区南久宝寺町四丁目(心斎橋筋)
電話 大阪 (251)1353 (代)～ 6・9996
営業所 名古屋・福岡

家具造作・室内装飾 設計施工

(創業大正7年)

二葉屋装備工業株式会社

摂津市東別府3丁目7番8号
TEL大阪 (06)349－9193代表

営業品目

		建設省認定の防火材料
セメント系吹付材	ソリジットスタイン	基材同等 0003号
特殊リシン吹付材	エバウォール	基材同等 0003号
アクリル系吹付材	エバーサンド	基材同等 0004号
ヒル石吹付材	エバテックス	基材同等 0004号

合同特許建材工業株式会社

本 社 大阪市東住吉区駒川町3－54 電話 (06)702－7814～7
東京事業所・名古屋出張所・高松出張所・福岡出張所

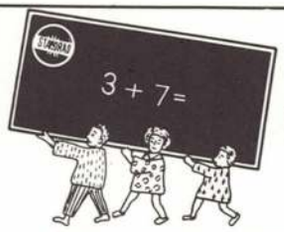
奉仕感謝の店

タイル工事施工

特許申請中・完全滑止タイル
SSS(サンエス) タイル 新発売
(カタログ進呈)

株式会社 川岸窯業商店

本 社 大阪市西区靱本町2丁目98番地(靱本町バス停前)
電話 大阪 06 (532) 代0461
姫路営業所 姫路市北条口126番地 (住友生命保険ビル3階)
電話 姫路0972 (82) 0999



Standard Board&Slate

フタバ黒板

大阪市東住吉区加美末次町8－92 TEL大阪06 (792) 代5858

＊特許小俣式防火シャッター
防煙・防火は KOMATA で… OK!

小俣シャッター工業株式会社大阪支店

大阪支店 大阪市北区此花町2－51(第5新興ビル) 電話大阪 (353) 7377代
本社工場 東京都北区田端町1138 電話東京 (893) 5211代

特許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

オリエンタルメタル製造株式会社

カタログ御請求下さい。

本 社 兵庫県尼崎市昭和南通り3－26松本ビル 電話 大阪(412) 5131代表
東京支社及工場 埼玉県蕨市塚越5丁目6番32号 電話 蕨 (42) 3115～8
大阪支社及工場 兵庫県尼崎市長洲稲川新田44 電話 大阪(488) 1081代表
九州支店及工場 福岡県遠賀郡水巻町頃末 電話 八幡 (69) 2831～4
名古屋支店及工場 名古屋市中村区泥江町1の24第2中経ビル 電話 名古屋(581)2781～4

シヤッターの総合メーカー

豊かな経験と
最新の技術…

東洋シヤッター

東洋シヤッター株式会社
本　社　大阪市東区両替町1-12日生谷町ビル　TEL（943）6571代
本　社　東京（543）2281・名古屋（331）6171・大阪（352）4571
営業所　横浜・滋賀・京都・神戸・福岡・他全国主要都市

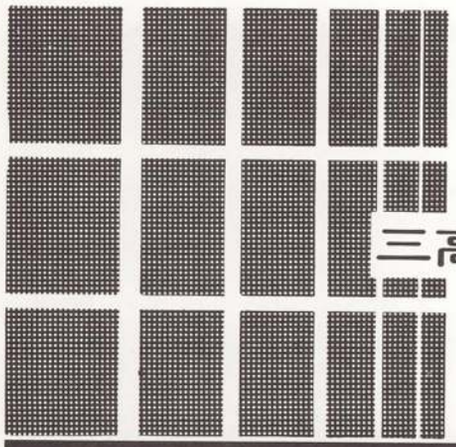
年中見ていただける　皆様の見本室

タイル
常設展示場

AM. 10.00～P.M. 5.00
日曜・祝日は休館

全国タイル展示協会
大阪市北区南森町46番地
八千代ビル南館２Ｆ
TEL（06）364－2054





スチール
アルミ
ステンレス

サッシ・ドアー
カーテンウオール
シヤッター

三高式オペレーター・ドアーハンガー

TRADE MARK
M.T.K.S

株式会社　三高製作所
本社・工場　尼崎市神崎五反田２８０番地
電話大阪（499）８１５１代表



'70年代をリードする
店舗づくりのパイオニア

店舗各種　陳列ケース　冷凍ケース　電飾看板

製造直売・すべて工場渡しで奉仕する

スーパーマーケット　・　各種専門店

店舗綜合企画・指導・設計・施工
大阪サツマ店装製作所

〒516　大阪市城東区茨田安田町100番地
☎ 911－９１４４代



コーキングパテ

ウヅラ印



柏原瀝青株式会社

本社工場　大阪市西淀川区御幣島東２ノ５　電話大阪(471)1493～4・8267
第二工場　大阪市西淀川区御幣島西３ノ99　電話大阪(471)　０４２６

パテタイル

全国で好評の……新興の内外装壁材を！

インテリヤ…カラーストーン…研出し仕上！
（旭化成ミュールコート・セット品）

シンコーストーン

いつも美しい　ワンタッチ…洗出し仕上…

ミュールストーン

（旭化成ミュールコート・セット品）

純日本壁の最高峰

ヤマト緊楽

吹付…に
塗付…に
完全耐火
} 主材 石綿





●全国有名建材店へ御問合せ下さい　●カタログお送りします

発売元

(株)新興建材工業所
大阪市西区南堀江通６丁目39番地　TEL大阪(538)2951～5・(541)5757～９
営業所　東京・高槻・明石・姫路・四国・中国

新興壁材工業(株)
大阪市住吉区粉浜本町４丁目２６番地　TEL 大阪（672）１６６１～３

(株)九州新興建材工業所
福岡市博多区上牟田八田町２６の１　TEL 福岡（41）５２２５～６

モルタル・コンクリート用

マノール 防水剤



＊マノール防水剤はセメントの加水分解生成物である水酸化石灰と化学的に結合し、硬化機構を妨げることなくセメント粒子に撥水性を与えて毛細管の表面張力を低下させ、吸水性を減少させます。

＊ＡＥ効果により適量の空気を連行し、気孔を閉塞することなくセメント・プラスター及び砂の粒子に対し分散性を与えワーカビリティーを向上させます。また特有な粘着性によって材料分離、レイタンスの発生を防止します。

＊セメントと結合した生成物は永久不変質の物質で、水や空気中の塩類、酸類も作用せず、セメントの中性化を防ぎ、鋼材、木材等の腐蝕・腐朽を防止して構造物の耐久性を高め、その防水・防湿効力は恒久的です。

その他マノール製品

急結剤・接着剤・剥離剤・早強剤・防凍剤

エスコート（セメント起泡剤）・**エアコール**（場所打ち杭工法添加剤）

ご一報次第
カタログ進呈します

セメント混和剤・助材綜合メーカー

株式会社 **油脂化工社**

東京都品川区大井１－15－１　☎ 東京 (774) 4111代表

関東営業所	茨城県土浦市大町１２１３	☎ 土浦 (21) ５１８９
東北営業所	福島県福島市下野寺字遠原	☎ 福島 (34) ７１１１
盛岡営業所	岩手県盛岡市南大通３－12－50	☎ 盛岡 (24) ０２１３
大阪営業所	大阪市東成区東中本２－17－26	☎ 大阪 (971) ４７６５

特許 セメント分散剤 コンクリート減水剤

リグナール

GSR（標準型）（早強型）（遅延型）

自然石状積ブロック

クリプトン

型枠剥離剤

セパール

リグコン

三段ブロック

其の他コンクリート二次製品　建設材料全般

リグナール製造発売元

神戸枝料株式会社

本社　神戸市葺合区熊内町２丁目８８番地
電話０７８代表（２３１）１４２１・６９５６

東京営業所　東京都千代田区内神田１－12－12 美土代ビル
電話０３（２９４）６１６７・６１７７

福山出張所　福山市曙町３－７８－２
電話０８４９（５３）２０２７

年限仕様・ギルボード仕様の単価表が変わります。

アスファルト防水 単価表

昭和48年3月改訂

●年限仕様

仕様番号	東京・名古屋 大阪地区	その他の地区
GC－310	1,320円/㎡	1,390円/㎡
GC－315	1,650	1,730
GL－320	1,720	1,810
GL－325	2,020	2,120

仕様番号	東京・名古屋 大阪地区	その他の地区
SC－310	1,500円/㎡	1,580円/㎡
SC－315	1,600	1,680
SL－320	1,770	1,860
SL－325	2,000	2,100

仕様番号	東京・名古屋 大阪地区	その他の地区
AC－315	1,630円/㎡	1,710円/㎡
AL－320	1,950	2,050

仕様番号	東京・名古屋 大阪地区	その他の地区
PC－310	1,100円/㎡	1,160円/㎡
PC－312	1,180	1,240
PC－315	1,420	1,490
PL－320	1,500	1,580
PL－325	1,830	1,920

仕様番号	東京・名古屋 大阪地区	その他の地区
ID－300	1,050円/㎡	1,100円/㎡
ID－301	1,450	1,520
IDL－302	1,490	1,560
BV－303	1,830	1,920

●ギルボード仕様

仕様番号	東京・名古屋 大阪地区	その他の地区
GC－3100ギルボード	2,450円/㎡	2,570円/㎡
GC－3150ギルボード	2,790	2,930
GL－3200ギルボード	2,870	3,010
GL－3250ギルボード	3,180	3,340

仕様番号	東京・名古屋 大阪地区	その他の地区
SC－3100ギルボード	2,410円/㎡	2,530円/㎡
SC－3150ギルボード	2,520	2,650
SL－3200ギルボード	2,700	2,840
SL－3250ギルボード	2,960	3,110

仕様番号	東京・名古屋 大阪地区	その他の地区
AC－3150ギルボード	2,550円/㎡	2,680円/㎡
AL－3200ギルボード	2,880	3,020

仕様番号	東京・名古屋 大阪地区	その他の地区
PC－3100ギルボード	2,220円/㎡	2,330円/㎡
PC－3120ギルボード	2,320	2,440
PC－3150ギルボード	2,570	2,700
PL－3200ギルボード	2,660	2,790
PL－3250ギルボード	2,940	3,090

㊟1. 単価は500㎡以上の場合を示す。
500㎡未満の場合は1割増しとなります。なお小面積(200㎡未満)の場合はご相談ください。
2. 出張工事の場合は運賃・経費を加算のこと。
3. ギルボードは18㎜品とする。
4. ギルキャントを使用する場合は300円/m増。
5. 雨仕舞および目地充填用コーキング材などは別途とする。
6. 屋根形が複雑となる場合は、単価が割増しとなります。

東西アスファルト事業協同組合
東京：東京都千代田区岩本町3-11-13 電話東京(03)862-8531
大阪：大阪市西区京町堀1－74 電話大阪(06)441-5951

建築と社会 "ARCHITECTURE AND SOCIETY" 第54輯第8号
昭和48年8月25日発行（毎月1回25日発行）・昭和24年3月19日第3種郵便物認可
定価四百円（送料共）



全く新しい床タイルです

三星ピサロンは、従来のビニールタイルとは製法原料配合が全く違います。塩ビの他に最近開発された新しい共重合体の特殊樹脂を用いた画期的な新製品です。軟質プレスタイプの床タイルに比べ仕上り安定性がよく、カレンダー方式の流れ模様とは対照的な静止した現代模様。ピサロンの持つエラスチックで高級な質感、すぐれた歩行感は、床タイルの新しい世界を開きました。

協同組合員が責任をもって施工いたします

三星ピサロンは、材料だけの販売はいたしません。責任施工の出来る協組員が入念な仕上げをします。

これからはピサロンの時代です

三星ピサロンの新しい色調、パターンは、現代のインテリアデザインに要求される個性的な床造りには欠かせません。東京浜松町の超高層世界貿易センタービルの4F以上の各階通路、エレベーターホールにも、使用されております。〝三星ピサロン〟はその模様がフランスの画家ピサロのタッチに似ていることから、名付けられたものです。

東日本床工事事業協同組合
西日本床工事事業協同組合
〈専用品〉

三星タイル
ピサロン

製造元―田島応用化工株式会社
東京／東京都千代田区岩本町3の11
電話 (866) 6101
大阪／大阪市西区京町堀1の74
電話 (441) 5951

★規格＝333.3 ×333.3 ×2㍉ 9枚／㎡
333.3 ×333.3 ×3㍉ 9枚／㎡
★色数＝22色
★価格＝2㍉厚品 1,200円／㎡（300㎡以上）
3㍉厚品 1,800円／㎡（300㎡以上）
小部屋割増・階段40％高

■ご入会のお申込および「建築と社会」のご購読は・社団法人 日本建築協会 〒541 大阪市東区北浜3−37 電話大阪(06)231−9648・9649・9640 振替口座大阪39975番